

授業科目名	国語	(英語教育学科) (生産農学科) 教員の免許状取得のための選択科目 (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2単位
担当教員名	山田深雪 山口政之 佐内信之 余郷和敏		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・言語の特質及び国語科教育の意義を理解し、小学校国語科の授業を担当するために必要な「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」を身に付けることができる。			
・小学校国語科の目標・内容構成・指導の系統等をふまえ、教材研究を行い、自分が子供たちのためにやってみたい授業について意欲的に考え、具体的に述べることができる。			
・国語科が担う役割について、「国語の授業」のみならず教育課程全般から説明することができる。			
授業の概要			
言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することが求められている。そこで、本科目は「小学校学習指導要領解説国語編（平成29年）」を国語科改訂のキーワード及び国語科教育にて用いられる重要用語等をもとに読み解きながら、言葉による見方・考え方を働かせる国語科の学びのイメージを具体化していく。小学校教員免許取得希望者の履修を想定した科目である。			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	オリエンテーション ～国語科における「深い学び」って何だろう～	・シラバスをもとに、授業の内容、進め方、成績評価の方法について理解する。 ・国語科教育における資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学びの授業イメージについて話し合う。	
第2回	新しい学習指導要領の仕組み：国語編	・平成29年に告示された小学校学習指導要領について、国語科の改訂の趣旨及び要点、国語科の目標、国語科の内容構成及び内容について学ぶ。	
第3回	〔知識及び技能〕の指導と内容	・〔知識及び技能〕の（1）～（3）の事項と指導の内容と系統について理解する。 ・指定した詩を読み、小学校国語科の指導事項に関連する箇所について話し合いながら、国語科教育における〔知識及び技能〕とは何かについて話し合う。	
第4回	書写の指導	・書写指導の目的を理解する。 ・書写の指導の内容と系統を理解する。 ・毛筆と硬筆の指導の関連性について、演習を通して理解する。	
第5回	〔思考力・判断力・表現力等：A話すこと・聞くこと〕の授業づくり	・音声言語の特徴について理解する。 ・教科書における「A：話すこと・聞くこと」の単元配列の特徴について話し合う。 ・「A：話すこと・聞くこと」の学習過程及び指導の内容と系統について理解する。	
第6回	〔A話すこと・聞くこと〕の発展「討論」と「対話」の違いって何だろう？	・教科書教材に示されている討論を体験する。 ・対話を体験する。 ・討論と対話、他にもスピーチや発表など多様な話すこと・話し合うことの違いと指導上の留意点について考える。	

第7回	入門期（スタートカリキュラム）の指導	・小学校第1学年の教科書（上）を見て、気付いたことを話し合う。 ・入門期の指導の要点を理解する。 ・平仮名およびカタカナの指導について演習を通して学ぶ。
第8回	〔思考力・判断力・表現力等：B書くこと〕の授業づくり	・文字言語の特徴について理解する。 ・教科書における「B：書くこと」の単元配列の特徴を知る ・「B：書くこと」の学習過程及び指導の内容と系統について理解する。 ・マス目（原稿用紙）の用紙に文字を書く際の基本的な書き方を確認する。
第9回	〔B書くことの発展〕楽しく「書く」ための工夫	・書くことが楽しいときと苦しいときについて、経験をもとに話し合う。 ・楽しく「書く」ための工夫について演習を通して考える。
第10回	国語科教育におけるICTの活用	・国語科の授業におけるICTの利活用について学ぶ。 ・国語科の授業におけるICT活用の利点や課題について話し合う。
第11回	〔思考力・判断力・表現力等：C読むこと（説明的な文章）〕の授業づくり	・「読む」行為、「読むこと」の意味について理解する。 ・教科書における「C：読むこと（説明的な文章）」の単元配列の特徴を知る。 ・「C：読むこと（説明的な文章）」の学習過程及び指導の内容と系統について理解する。
第12回	〔C読むこと（説明的な文章）の発展〕「筋道」って何だろう？	・「筋道の通る」「筋道立てる」ことについて言及した文献や学習指導要領解説（国語編）を読み、理解する。 ・教科書教材「いろいろなふね」（東京書籍）や「じどう車くらべ」（光村）などを使い、「順序」や「筋道」に視点を当てた教材研究に取り組み、指導の要点について話し合う。
第13回	〔思考力・判断力・表現力等：C読むこと（文学的な文章）〕の授業づくり	・物語の基本構造、文学を読む観点等について理解する。 ・教科書における「C：読むこと（文学的な文章）」の単元配列の特徴を知る。 ・「C：読むこと（文学的な文章）」の学習過程及び指導の内容と系統について理解する。
第14回	〔C読むこと（文学的な文章）の発展〕第6学年の文学教材を読む	・第6学年教材「海のいのち」や「川とノリオ」などを使って指導する際に、困難さを感じることにについて話し合う。 ・ある場面や描写に着眼し、教材研究を行う。 ・文学的な文章の指導において大切にしたい点について話し合う。
第15回	国語科の評価と授業づくり	・国語科の授業づくりにおける悩みを出し合い、整理し、本日の授業内容の焦点を定める。 ・国語の授業づくりにおいて大切なことについて話し合いながら、単元、教材、指導事項の内容、評価がどのように関わるのかを理解する。
定期試験	実施する	

テキスト 小学校学習指導要領解説国語編（平成29年告示）文部科学省
東洋館出版社 9784491034621

参考書・参考資料等

- ・各社の「国語」の教科書
- ・小学校国語科教育研究 全国大学国語教育学会編 東洋館出版社 978-4-491-03766-0

学生に対する評価
試験（30％）授業における取り組み（40％）課題等の取り組み（30％）

授業科目名	社会	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	佐藤 克士、小谷 恵津子、西川 克行			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 社会			
授業のテーマ及び到達目標				
1. 【授業開発・開発した授業の説明】：社会科教育研究の成果を踏まえ、指定された形式及び条件を踏 まえた学習指導案を作成し、開発した授業について主張（ウリ）・論理とその具体について説明すること ができる。				
2. 【学習評価・授業分析】：新学習指導要領が求める学力観・授業観を理解した上で、パフォーマンス 課題を作成したり、先行実践の収集及び分析したりすることができる。				
授業の概要				
本授業では、小学校社会科の授業づくりの理論とその方法について学習する。そのために前半では、『小 学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』（以下、『学習指導要領』）をもとに、目標・（学習） 内容・（学習）方法を理解する。後半では、『学習指導要領』の内容が教科書にどのように反映されてい るのか、またその内容を（教師として）どのように指導すればよいのかについて検討することを通して、 授業づくりの理論とその方法を理解するとともに、その成果を踏まえ、1 単位時間（45 分間）の学習指 導案（略案）を作成することをめざす。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	オリエンテーションー授 業の概要と評価方法ー	本授業の目標、内容、方法（取り組むべき課題）及び評価方 法について理解する。		
第 2 回	社会科教育の基本的性格 と課題ー社会科誕生の背 景とその特質ー	わが国に社会科が導入された背景、諸外国との社会系教科の 違いについて、日英米のカリキュラムをもとに読み解く。		
第 3 回	小学校学習指導要領（平 成 29 年告示）解説社会編 で求められる社会科学習 の方向性	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』を もとに、特質（目標・内容・方法）を理解する。さらに、そ れらを踏まえ、今後求められる社会科授業の要件について議 論する。		
第 4 回	アクティブラーニングと しての社会科授業実践Ⅰ	「探究」を方法原理とする社会科授業の特質について、加藤 公明「加曾利の犬の謎を追え！」を検討することを通して、 授業の仕掛けを読み解く。		
第 5 回	アクティブラーニングと しての社会科授業実践Ⅱ	「問題解決」を方法原理とする社会科授業の特質について、 有田和正「一枚の絵から江戸時代がみえた」を検討すること を通して、授業の仕掛けを読み解く。		
第 6 回	アクティブラーニングと しての社会科授業実践Ⅲ	「問題解決」を方法原理とする社会科授業の特質について、 櫻井眞治「ノートで謎に迫ろう！」を検討する ことを通し て、授業の仕掛けを読み解く。		
第 7 回	課題レポート作成Ⅰ	2017 年版学習指導要領の考えに立った小学校社会科授業実 践を探し、①取り上げた実践の概要及び特質を説明した上 で、②課題及びその改善点についてレポートにまとめる。		
第 8 回	課題レポート作成Ⅱ	2017 年版学習指導要領の考えに立った小学校社会科授業実 践を探し、①取り上げた実践の概要及び特 質を説明した上 で、②課題及びその改善点についてレポートにまとめる。		
第 9 回	課題レポートの提出・発 表	授業内で作成したレポートについて情報共有を行う。		

第 10 回	小学校社会科教科書の分析方法	社会科教科書の特質と課題について、演習を通して理解する。
第 11 回	小学校社会科授業づくり I－第 5 学年産業学習を事例として－	第 5 学年産業学習を事例に、1 単位時間（45 分間）分の授業案を作成する。
第 12 回	小学校社会科授業づくり II－第 5 学年産業学習を事例として－	第 5 学年産業学習を事例に、1 単位時間（45 分間）分の授業案を作成する。
第 13 回	小学校社会科授業づくり III－第 6 学年産業学習を事例として－	第 6 学年歴史学習を事例に、1 単位時間（45 分間）分の授業案を作成する。
第 14 回	小学校社会科授業づくり IV－第 6 学年産業学習を事例として－	第 6 学年歴史学習を事例に、1 単位時間（45 分間）分の授業案を作成する。
第 15 回	授業のまとめ（学習指導案の作成・提出）	本授業のまとめを通して、社会科教育（授業づくりの理論と方法）についての理解を深める。
定期試験	実施する	
テキスト 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 社会編、文部科学省、日本文教出版、978-4536590099		
参考書・参考資料等 授業内に指示する		
学生に対する評価 レポート（20％）授業における取り組み（25％）課題等の取り組み（55％）		

授業科目名	算数	(英語教育学科) (生産農学科) 教員の免許状取得のための選択科目 (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)	
		担当形態：単独	単位数：2単位
担当教員名	柳瀬 泰		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 (ア) 算数の学習内容とその内容を教える教材の本質を論述したり議論したりすることができ、 (イ) 数学的な問題解決の過程について理解し、子どもの概念形成や思考の特性を踏まえて指導法の通否を論述したり議論したりすることができる。			
授業の概要 本授業を通して、以下の内容について学ぶことを目標とする。 (ア) 算数の学習内容とその内容を教える教材の本質を考察したり議論したりする。 (イ) 数学的な問題解決の過程について理解し、子どもの概念形成や思考の特性を踏まえて指導法の適否を考察したり議論したりする。			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	授業の方針「算数を教える」ということについて	・この授業の達成目標。 ・算数を通して「子どもを育てる」という算数教育の在り方について考察する	
第2回	数・形・量の概念形成と日常の事象	・日常の事象から形成される数学的概念、誤った概念について考察する。	
第3回	知識の獲得と学習の転移	基礎基本の正答率とその応用の正答率が大きく乖離する理由や望ましい学習の在り方を考察する。	
第4回	たし算・ひき算	加法、減法の意味、加法・減法の逆の問題に関する指導内容やその順序について考察する。	
第5回	かけ算・わり算	乗法、除法の意味、乗法・除法の逆の問題に関する指導内容やその順序について考察する。	
第6回	小数・分数の四則計算	・割り進む除法の場面を通して除法の意味を理解する ・小数や分数の問題を通して乗法、除法の意味の拡張の指導内容やその順序について考察する。	
第7回	図形	図形の概念形成の過程に着目するとともに、図形の見方を豊かにする指導内容やその順序について考察する。	
第8回	長さ、広さ、かさ、角、時間	小学校で扱う量の全体を知り、量の測定や量感覚の育成に関する指導内容やその順序について考察する。	
第9回	面積・体積	小学校で扱う図形の計量とそれらの求積の方法や公式の導き方の指導内容やその順序について考察する。	
第10回	割合	・倍の見方、割合、異種の量の割合（込み具合や速さ等）など比例の関係に着目して理解を深めるとともに、「単位当たりの量」の指導の在り方を考察する。	
第11回	統計（データの活用）	統計を問題解決の手段として捉え、小学校の学習内容と関連付けながら情報化社会におけるデータの活用能力の重要性を考察する。	
第12回	問題解決とその過程	算数の学習が子どもにとって真の問題解決学習になるための授業づくりの条件を考察する。	
第13回	教材と発問	授業における教師の役割の中核をなす発問について、その条件を考察する。	

第 14 回	数学の定理を使った問題づくり	数学の定理の中から小学校の算数授業で使えるものを探し、教材化する。
第 15 回	児童の誤概念形成の原因とその指導の在り方に関する考察	児童の誤概念形成の原因とその指導の在り方に関する考察を行う。
定期試験	1 回から 15 回までの総合的理解	第 1 回から 15 回までの内容を試験によって総合的に評価する。
テキスト 小学校学習指導要領解説算数編、文部科学省、東洋館出版、978-4-536-59010-5		
参考書・参考資料等 担当教員からの指示による		
学生に対する評価 試験 50%、授業中の取り組み 30%、課題等の取り組み 20%		

授業科目名	理科	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	市川 直子、黒田 篤志、五十嵐 敏文、小川 俊哉			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 理科			
授業のテーマ及び到達目標				
1. 自然の多様性や事物・現象のすばらしさ、巧みさを児童に伝えることができる。				
2. 小学校理科の内容および身の回りの事物・現象を分かりやすく説明することができる。 3. 観察・実験の方法および正しい器具や機器、安全な薬品の取扱いができるようになる。				
4. 観察・実験を通して、実証的なものの見方を構築し、問題解決の基本的な方法を身につけることができるようになる。				
5. 身の回りの題材を工夫し、教材をつくることができるようになる。				
授業の概要				
小学校理科の授業が実践できる基礎的な知識・技能を習得することを目的とした講義や演習を行う。小学校理科の目標や内容を理解し、観察・実験・製作活動および飼育・栽培などの方法・技術を学ぶ。また身の回りの事物・現象から教材を作成・教材開発するための専門的な知識や技能も扱い、実践的な指導力を身につける。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	理科の目標および内容： 目標・内容構成・基本的な考え方等 理科の目標および内容： 目標・内容構成・基本的な考え方等	理科の目標および内容：目標・内容構成・基本的な考え方等		
第2回	理科指導における重点事項： 問題解決の力の育成・主体的・対話的で深い学び等	理科指導における重点事項：問題解決の力の育成・主体的・対話的で深い学び等		
第3回	飼育・栽培活動の指導 1： 飼育・栽培活動の教育的意義について	飼育・栽培活動の指導 1：飼育・栽培活動の教育的意義について		
第4回	飼育・栽培活動の指導 2： 小学校第 3 学年・昆虫の飼育方法	飼育・栽培活動の指導 2:小学校第 3 学年・昆虫の飼育方法		
第5回	小学校理科にかかわる自然科学の基礎知識 1：「物質・エネルギー」	小学校理科にかかわる自然科学の基礎知識 1：「物質・エネルギー」		
第6回	小学校理科にかかわる自然科学の基礎知識 2：「生命・地球」	小学校理科にかかわる自然科学の基礎知識 2：「生命・地球」		
第7回	小学校理科に関わる教具・教材 1：「物質・エネルギー」	小学校理科に関わる教具・教材 1：「物質・エネルギー」		
第8回	小学校理科に関わる教具・教材 2：「生命・地球」	小学校理科に関わる教具・教材 2：「生命・地球」		

第 9 回	観 察 ・ 実 験 の 安 全 指 導 1：顕微鏡の使い方・取扱い	観 察 ・ 実 験 の 安 全 指 導 1：顕微鏡の使い方・取扱い
第 10 回	観 察 ・ 実 験 の 安 全 指 導 2：薬品・ガラス器具・加熱器具の取扱い	観 察 ・ 実 験 の 安 全 指 導 2：薬品・ガラス器具・加熱器具の取扱い
第 11 回	地学演習 1	地学実習 1 ※補講日（土）5 6 7 8 限で実施（日程は教材、受講者等により後日調整）
第 12 回	地学演習 2	地学実習 2 ※補講日（土）5 6 7 8 限で実施（日程は教材、受講者等により後日調整）
第 13 回	生物学演習 1	動物の解剖実習 ※補講日（土）5 6 7 8 限で実施（日程は教材、受講者等により後日調整）
第 14 回	生物学演習 2	動物の解剖実習 ※補講日（土）5 6 7 8 限で実施（日程は教材、受講者等により後日調整）
第 15 回	まとめ：小学校理科の教育的意義	まとめ：小学校理科の教育的意義について
定期試験	実施する	
テキスト 小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）理科編 文部科学省 東洋館出版		
参考書・参考資料等 小学校指導法理科 石井恭子・市川直子 玉川大学出版部 小学校理科・観察・実験セーフティマニュアル 大日本図書教育研究室 大日本図書 イラスト図解ですっきりわかる理科 鳴川哲也 東洋館出版 植物 小学館の図鑑 NEO POCKET 和田浩志 小学館 理科年表 国立天文台 丸善出版		
学生に対する評価 試験（40％）知識を習得できているか レポート（50％）課題の内容を理解しているか 授業における取り組み（10％）積極的に学習を深め、他者に貢献しているか		

授業科目名	生活	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数：2単位	
担当教員名	小谷 恵津子、市川 直子、佐藤 孔美、飯島 将仁			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 生活			
授業のテーマ及び到達目標				
生活科設立の背景や経緯をふまえ、教科の趣旨や理念、小学校学習指導要領に示された生活科の目標と内容およびその取扱い、学習指導の特質について理解することができる。また生活科の授業づくりで重要な柱となる身近な地域の教材を実際に開発する活動に取り組み、その成果を共有することを通して、生活科の目的や求められる資質・能力の育成を実現する教材開発や学習活動の在り方について理解するとともに、開発した教材を活用した生活科の単元を構想することができる。				
授業の概要				
小学校学習指導要領やその解説を手がかりとしながら、生活科の趣旨や目標、学習指導の特質について理解する。また、すぐれた生活科の授業実践の分析や実際に生活科の学習活動を想定した活動への取り組みを通して教科の特性をふまえた教材開発や学習活動のあり方を学ぶと共に、授業づくりの重要な柱となる身近な地域の教材開発を「生活科マップ」づくりとその交流を通して、生活科の授業設計や学習指導の力量の基礎を磨く。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	オリエンテーション・「授業」という営みと生活科	「パラドキシカルな営み」である授業における教師の専門性について考察し、その営みの中で生活科授業がどのような位置に立つのかについて理解する。		
第2回	生活科の特質と教科目標	小学校学習指導要領に示された生活科の教科目標を手がかりに、生活科という教科の特質について理解する。		
第3回	生活科設立の背景・幼児教育や他教科との関連	教科設立の背景を社会の変化と関連付けて理解するとともに、生活科がスタートカリキュラムの中核教科として位置付けられている理由を考察する。また、他教科と関連付けた指導の実際について、学習指導要領やその解説をふまえて理解する。		
第4回	各学年の目標・生活科の内容構成	生活科の各学年の目標が2学年共通のものとして示されている理由を考察するとともに、学年目標と内容との関連や構造について理解する。また、内容構成の具体的な視点と学習対象を組み合わせることで学習活動が構想されることを、具体的な事例を通して理解する。		
第5回	生活科の年間指導計画の特徴と単元の基本構成	学習指導要領やその解説に示されている生活科の年間指導計画作成や単元計画の作成についての留意点について、カリキュラム・マネジメントの3つの階層と関連付けながら理解する。		
第6回	生活科の教材開発①ー活動パート	生活科の内容（6）を想定した一連の学習活動を実際に体験することを通して、生活科の教材開発についての理解を深める。		
第7回	生活科の教材開発②ー講義パート・体験を通した学びの意義	子どもの興味・関心や思い・願いを生かした生活科の教材開発の要点について、すぐれた先行実践の分析を通して考察する。また、生活科における「具体的な活動や体験」の位置付けを学習指導要領やその解説をふまえて理解すると共に、生活科で体験を通して学ぶ意義を考察する。		
第8回	「生活科マップ」の作成①ーキャンパス内のフィ	キャンパス内のフィールドワークを通して、生活科の教材として生かせる素材を見つける。		

	ールドワーク	
第 9 回	「生活科マップ」の作成 ②－教材活用の構想	精査の結果、生活科の学習指導に活用できると判断した素材について、具体的な学習活動を構想する。
第 10 回	「生活科マップ」の作成 ③－マップの作成	第 8, 9 回の学修成果をふまえて、キャンパス内の生活科マップを作成する。
第 11 回	「生活科マップ」の交流 ①	作成した生活科マップのプレゼンテーションを行い、相互に意見を交換する。
第 12 回	「生活科マップ」の交流 ②	作成した生活科マップのプレゼンテーションを行い、相互に意見を交換する。
第 13 回	生活科における遊びと学び	すぐれた生活科の授業実践の分析を通して、生活科において遊びを学習活動として位置付ける意義を考察するとともに、遊びの質的な深まりと自立との関係について理解する。
第 14 回	気付きの質を高める指導	学習指導要領やその解説を手がかりに生活科における学びの深まりについて理解するとともに、すぐれた生活科の授業実践を通して気付きの質を高める指導について具体的なイメージをもつ。
第 15 回	体験活動と振り返り・まとめ	知識創造に関する先行研究の成果をふまえ、生活科における認識形成の特徴や振り返り活動の重要性、社会科や理科での科学的な認識形成との関係について理解する。
定期試験		
テキスト 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編，文部科学省，東洋館出版社，978-4491034645		
参考書・参考資料等 必要に応じ授業内で指示する		
学生に対する評価 レポート（50%）授業における取り組み（15%）課題等の取り組み（15%）ポートフォリオの作成（20%）		

授業科目名	音楽	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学) (ソフトウェアサイエンス学) (マネジメントサイエンス学) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数：2単位	
担当教員名	朝日 公哉、岩井 智宏、久保 絃子			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・音楽			
授業のテーマ及び到達目標 保育や教育現場における音楽教材の実践を通して本質的な理解と豊かな表現ができるようになる。また基礎的な音楽理論や音楽史の学修により音楽の魅力を幅広く理解し、子どもにその魅力を十分に伝えられるようになることを目的とする。「子どもの音楽嫌いを無くす」をテーマとする教師・保育者のための音楽授業である。				
授業の概要 合唱曲や手遊び、輪唱の実践を通して音楽の喜びを体験的に学び、保育や教育現場における音楽表現の楽しさや意義を体得する。 また、教育現場ですぐに使える楽しい手遊びや音楽レクリエーションを数多く知ることができる。 更に、ピアノ初心者でも片手伴奏で授業が展開できるようになるためにコードネームを理解する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	授業ガイダンス 「音楽の本質とは」	授業ガイダンス ガイダンス：授業の進め方・この科目の目的、意義・評価方法 「音楽の教育意義とは」 アンケート（素養調査） 手遊び・輪唱・合唱		
第2回	「音」への探究	楽典の基礎 音とは何か、音の三要素、音楽の三要素から考察する。 また、サウンドエデュケーションを実践し、音の楽しさを探求する。 手遊び・輪唱・合唱		
第3回	コードの理解 1	音名や音価など楽譜の仕組みを子どもにも説明できる基礎的な知識を身につける。 手遊び・輪唱・合唱		
第4回	音楽の歴史「ポピュラー音楽史」	ポピュラー音楽の歴史を紐解くことによって、現在の音楽にどのような影響を及ぼしているかを理解する。特にアメリカ南部に起きたブルースからゴスペルまでの変遷を理解し、保育や教育現場で扱われる教材のポイントを考察する。 手遊び・輪唱・合唱		
第5回	手遊び・合唱 1 「コードの理解 2」	・音程 1度～3度 短音程 長音程を理解しコードネームをもとに和音で伴奏ができるようにする。 手遊び・輪唱・合唱		
第6回	手遊び・合唱 2 「コードの理解 3」	完全音程の仕組みを理解した上で3和音の左手伴奏が弾けるようにする。鍵盤ハーモニカを使い器楽の楽しさを体験する。 手遊び・輪唱・合唱		
第7回	音楽の歴史「西洋音楽 1」	西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽の歴史を古代からバロック期までを範囲とし、特に合唱に影響を与えたイデオロギーや形式などの観点から分析する。音源の視聴も交えサウンドや諸特徴を主観的にもとらえてもらい、これまでに築かれたクラシックの価値観に感化を与える。		

		手遊び・輪唱
第8回	音楽の歴史「西洋音楽2」	西洋音楽史Ⅱ 西洋音楽の歴史を古代から現代までを範囲とし、特に合唱に影響を与えたイデオロギーや形式などの観点から分析する。音源の視聴も交えサウンドや諸特徴を主観的にもとらえてもらい、これまでに築かれたクラシックの価値観に感化を与える。 手遊び・輪唱・合唱
第9回	手遊び・合唱3「コードの理解4」	音程6～7度の音程を理解した上でセブンスコードを弾けるようにする。鍵盤ハーモニカを使い器楽の楽しさを体験する。 手遊び・輪唱・合唱
第10回	手遊び・合唱4「コードの理解5」	分数コード・分散和音の仕組みを理解し伴奏に応用する。また、子どもの豊かな音楽活動を引き出すための伴奏法を追求する。手遊び・輪唱・合唱
第11回	音楽づくり	コード進行からメロディを創作する楽しさを体験する。カノンコードを用いてオリジナル作品を作曲する。 手遊び・輪唱・合唱
第12回	音階	音階の仕組みを理解する。長音階・短音階に限らず世界の音階に目を向け、音階のもつ効果や魅力に迫る。 手遊び・輪唱・合唱
第13回	音楽基礎理解度チェック	音楽の基礎知識をテストする 主にコードネームの理解度をチェックする。
第14回	パーソナルスキルチェック	個人技能の確認 詳細は授業内で指定する。各自の音楽的スキルを個人の単位でチェックするものとする。
第15回	総括「音楽教育の行方」	音楽教育の将来的展望を真人の言葉等を中心に考察する。音楽における客観性と主観性の区別を理解し、音楽教育にとって重要な事は何かを授業を振り返りながら考える。
定期試験		実施する
テキスト 愛吟集 玉川学園編 玉川大学出版部 ISBN978-4-472-13203-2 C0073		
参考書・参考資料等 誰でもすぐ弾けるピアノ伴奏 梅沢一彦編 kmp ISBN978-7732-4005-4 密集型片手伴奏によるコード・トレーニング 草道節男 音楽之友社 ISBN4-276-10271-5		
学生に対する評価 試験（50％）授業における取り組み（25％）ポートフォリオの作成（25％）		

授業科目名	図工	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数：2単位	
担当教員名	小林 貴史、栗山（浅野）由加			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 図画工作			
授業のテーマ及び到達目標 図画工作の指導に必要な知識と技術を習得する。指導上の教育理念を形成する。安全指導の認識をする。				
授業の概要 造形活動を通して、楽しさ・面白さを見つけながら図画工作に関する知識と技術を習得することを目的とする。学習指導案の作成を行う。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	オリエンテーション	児童の造形活動について		
第2回	描く活動①	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 低学年の発達段階に応じた描画方法や表現の特徴を知る。		
第3回	立体に表す活動①	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 低学年の発達段階に応じた道具の使用や表現方法を知る。		
第4回	工作①	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 低学年の発達段階に応じて、テーマや目的、用途にあった制作を行う。		
第5回	描く活動②-1	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 中学年の発達段階に応じた描画方法や表現の特徴を知る。		
第6回	描く活動②-2	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 中学年の発達段階に応じた描画方法や表現の特徴を知る。		
第7回	立体に表す活動②	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 低学年の発達段階に応じた道具の使用や表現方法を知る。		
第8回	工作②	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 中学年の発達段階に応じて、テーマや目的、用途にあった制作を行う。		
第9回	描く活動③・立体に表す活動③	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 中学年の発達段階に応じた描画方法や表現の特徴を知る。		
第10回	工作③-1	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 高学年の発達段階に応じて、テーマや目的、用途にあった制作を行う。		
第11回	工作③-2	造形活動に親しみ、使用する画材や素材を理解する。 高学年の発達段階に応じて、テーマや目的、用途にあった制作を行う。		
第12回	鑑賞	制作した作品の展示や鑑賞方法を学ぶ。美術館等学外での鑑賞活動やカードを使った鑑賞活動について学び、実践してみる。		
第13回	造形遊び	造形遊びについて学び、実践してみる。		
第14回	学習指導案の作成①	各自取り上げたい題材や学習目標を設定し、学習指導案を作成する。		
第15回	学習指導案の作成②	学習指導案の発表を行う。これまでの活動を共有し、総括する。		

定期試験		実施する
テキスト 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省（日本文教出版）		
参考書・参考資料等 『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作教育法』新野貴則・福岡知子（萌文書林）		
学生に対する評価 レポート（40%） 課題は、第1回と第15回に出題する。課題期日までに提出し、自分自身の経験や、制作活動を通して学んだことをもとに、図画工作科についての理解や関心を深めているかを評価する。 授業における取り組み（30%） 課題期日までに提出し、各課題で提出された作品から、素材や道具についての理解や習得が見られるかをみる。 ポートフォリオの作成（30%） unitama のポートフォリオに、授業を通して考えたことや学んだことを記述することと、各自スケッチブックに各授業で配布される資料や作品をまとめておき、第14回授業で提出されたかをみる。		

授業科目名	家庭	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	土屋（渋川）みさと、真田知恵子、三沢徳枝			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭			
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校家庭科の内容を構成する家庭生活・衣生活・食生活・住生活・消費生活等の基礎的な理論と、 教育方法を理解し、考えることできる。				
2. 家庭科を構成する家庭生活・衣生活・食生活・住生活・消費生活等の知識と技能を活用し、生活をよ りよくするために工夫し創造することができる。				
3. 現代社会における家庭科教育の課題について理解し、課題解決のための実践的態度を身につける。				
授業の概要				
小学校家庭科で取り扱う家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活等について専門的な知識を学び 理解した上で、実習等を 通して技術や技能を習得する。また、児童や家庭生活が直面する今日の課 題と家庭科教育とのかかわりについて理解し、児童が 自立して生きる基礎を培うための実践的態度 を身につけ、家庭科教師としての資質や能力を養う。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	オリエンテーション	この授業の概要を説明する。 小学校家庭科の目標および内容構成等を確認する。		
第2回	衣食住の生活① 住生活 (1)	快適な住まい方について説明する。		
第3回	衣食住の生活② 住生活 (2)	住まいの整理・整頓や掃除の仕方について説明する。安全な 住まい方について考察する。		
第4回	消費生活・環境	物や金銭の使い方や買い物、今日の消費生活について説明す る。 今日の環境問題について概観し、持続可能な社会の構築につ いて考察する。		
第5回	家族・家庭生活	家族形態や家庭生活の現状および問題点について説明する。		
第6回	衣食住の生活③ 食生活 (1)	食事の役割や栄養素の働きについて説明する。		
第7回	衣食住の生活④ 食生活 (2)	栄養を考えた食事、今日の食生活の問題点について説明す る。		
第8回	衣食住の生活⑤ 食生活 (3)	小学校家庭科で行う調理実習の教材としての、レシピを検 討、作成する。		
第9回	衣食住の生活⑥ 食生活 (4)	実験における教材研究を行う。 実験後、教材としての検討を行う。		
第10回	衣食住の生活⑦ 食生活 (5)	調理実習を行う。 実習後、教材としての検討を行う。		
第11回	衣食住の生活⑧ 衣生活 (1)	衣服の働きや繊維、衣服の洗濯や手入れについて説明する。		
第12回	衣食住の生活⑨ 衣生活 (2)	小学校家庭科の布を用いた作品の製作の教材として、フェル トを用いた作品を検討、計画する。		
第13回	衣食住の生活⑩ 衣生活 (3)	布を用いた作品を製作する。		

第 14 回	衣食住の生活⑪ 衣生活 (4)	布を用いた作品を製作する。 実習後、教材としての検討を行う。
第 15 回	まとめ 家庭科教育の課題	まとめとして今後の家庭科教育を検討する。
定期試験	期末試験	実施する
テキスト 小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科 5・6」 鳴海多恵子他 開隆堂 小学校学習指導要領解説 家庭編 平成 29 年 3 月告示 文部科学省 東洋館出版社		
参考書・参考資料等 生活をデザインする家庭科教育 堀内かおる編 世界思想社 初等家庭科の研究 大竹美登利、倉持清美 萌文書林		
学生に対する評価 試験（40％）授業における取り組み（20％）課題等の取り組み（40％）		

授業科目名	体育（小）	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	鈴木 淳也、久保賢太郎 波田寿一			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育			
授業のテーマ及び到達目標 子どもの発育・発達を理解し、体育・運動遊びを通し、より健康的な身体づくりのための適切な運動指導ができる。				
授業の概要 現代社会における身体運動の大切さを理解し、体育の果たす役割を考察する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	体育とスポーツ	体育の歴史・用語の整理。 ・ 体育とスポーツの比較 ・ 運動と健康の関係		
第 2 回	学校体育の現状	新学習指導要領の解説・社会的背景。 ・ 小学校学習指導要領についての解説		
第 3 回	発育・発達と体育①	「発育」と「発達」の違いと原則。		
第 4 回	発育・発達と体育②	児童期における身長、体重 等の変化。教育現場での活用。		
第 5 回	発育・発達と体育③	運動機能の変化・生活環境による違い。教育現場での活用。		
第 6 回	子どもの体力	体力とは。 体力の加齢に伴う変化。		
第 7 回	筋力・持久力の発達	子どもの筋力の特徴。全身持久力の発達。		
第 8 回	調整力の発達	調整力の定義と特徴。調整力の発達。		
第 9 回	体育指導のポイント	目隠し実験を実施。 体育実技・安全指導 等での指示の方法。		
第 10 回	子どもの生活と健康	生活リズムと睡眠。睡眠の意味。 生活リズムと栄養・食事の重要性。		
第 11 回	運動の指導①	体づくり運動系の指導法と注意点。		
第 12 回	運動の指導②	体づくり運動の指導法と注意点。器械運動の指導ポイント。		
第 13 回	運動の指導③	陸上運動系の指導ポイント。		
第 14 回	運動の指導④	ボール運動系の指導ポイント。		
第 15 回	安全管理と安全指導・学 習	体育と事故・救急処置の基礎。 ・ 潜在危険の紹介と事故防止 ・ 救急法の基本		
定期試験		実施しない		

テキスト 小学校学習指導要領解説-体育編-文部科学省 東洋館出版 978-4-491-03467-6 教科カシリーズ小学校体育 高島二郎 他 玉川大学出版部 978-4-472-40505-1
参考書・参考資料等 講義中に指示する。
学生に対する評価 レポート（30％）子どもの身体と発育・発達をふまえ、興味のある単元について効果的に授業できるよう、資料等を的確に活用できるかを評価する。授業における取り組み（30％）質問に対する発言・発表を重視する。授業に関係ない行為（通信機器の操作等）があった場合は厳重注意で減点する。課題等の取り組み（40％）課題の提出頻度、成果の発表により評価する。成果の発表には簡単な身体運動を含む。

授業科目名	外国語（英語）	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	尾関 はゆみ 西村秀之			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語			
授業のテーマ及び到達目標 新学習指導要領の内容を理解し、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語 運用力と英語に関する理論的、背景的な知識を身につけ、小学校で英語が実際に教えられるようになる。				
授業の概要 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な理論的、背景的な知識を学び、さ らに英語運用力を授業の場面を意識しながら身につける。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	外国語活動・外国語科で 求められる英語運用力の 理解①	新学習指導要領の示す小学校における外国語活動・外国語科 の目標を理解し、小学校において求められる聞く力、話す力 【やり取り・発表】、読む力、書く力についての基本的な概 念、学習内容を理解する。		
第 2 回	外国語活動・外国語科で 求められる英語運用力の 理解②	第 1 回の授業を受け、さらに具体的に指導すべき音声、語彙、 文構造、文法、正書法について理解し、これを学習、練習を 行う。		
第 3 回	第二言語習得の特徴①	児童期の第二言語習得の特徴や、第二言語習得に関する基本 的な事柄、音声、語彙、文構造について理解する。		
第 4 回	第二言語習得の特徴②	母語の獲得過程と比較しながら、①言語使用を通じた言語習 得、②音声によるインプットの内容を推測し、理解するプロ セス、③コミュニケーションの目的や必然的な場面に応じた やりとりの過程を理解し、指導法のあり方を学ぶ。		
第 5 回	児童文学についての理解 ①	海外の児童に親しまれている絵本、歌、マザーグースを含む 詩などについて、その内容や言語レベル（語彙、文構造、文 法）、扱われている異文化について理解する。		
第 6 回	児童文学を教えられる、 聞く・話す力をつける①	第 5 回の授業を受け、絵本や歌、詩などを聞き、実際に英語 を使いながら説明をしたり、歌ったり、内容についてやりと りをしたりする練習を行う。特にイントネーション、アクセ ントを含む音声の力を養う。		
第 7 回	児童文学を通して、聞 く・話す力をつける①	第 6 回の授業を受け、絵本を使い、英語で読み、応答をし、 異文化について易しい英語で説明したりする力をさらにつ けて、これを発表する。		
第 8 回	児童文学を通して、聞 く・話す力をつける②	第 6 回に引き続き、絵本を使い、英語で読み、応答をし、異 文化について易しい英語で説明したりする力をさらにつけ て、これを発表する。		
第 9 回	異文化理解を通して、聞 く・話す力をつける	世界の国々の暮らし、文化などを題材とした内容を聞き取 り、この内容を簡単な英語で口頭発表する力を身につける。		
第 10 回	ニュースを通して、聞 く・話す力をつける	画像を見ながら、ニュースを聞き、その内容を簡単な英語で 口頭発表する練習を行う。		
第 11 回	教育に関するトピックを 読み、要約する力につ ける①	教育に関する英文を速読し、要約を英語で発表する力につ ける。特に、速読において必要な推測の仕方を学習し、これ を練習する。		

第 12 回	教育に関するトピックを読み、要約する力をつける②	第 11 回に引き続き、教育に関する英文を速読し、要約を書く練習を行う。各自要約を書いたのち、グループで互いに発表し、添削しあい、英文をさらに遂行する力を養う。
第 13 回	即興的な発話練習①	小・中学校で扱われる語彙、文法構造、文法を意識しながら、簡単な表現を瞬間的に応答できる練習を行う。
第 14 回	英語によるスピーチ①	最近自分が関心を持ったできごと、ニュース記事を英文で読み、この内容を簡潔に英語で発表する練習を行う。かつ、自己紹介も兼ねて、なぜ小学校教員を目指すか英語で発表する。また、この内容について互いに感想を述べ合う。
第 15 回	英語によるスピーチ②	最近自分が関心を持ったできごと、ニュース記事を英文で読み、この内容を簡潔に英語で発表する練習を行う。かつ、自己紹介も兼ねて、なぜ小学校教員を目指すか英語で発表する。また、この内容について、互いに感想を述べ合う。
定期試験	なし	
テキスト 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省。 必要に応じ授業時に指示する		
参考書・参考資料等 『小学校英語 はじめる教科書 改訂版 外国語科・外国語活動指導者養成のために -コア・カリキュラムに沿って-』小川隆夫・東仁美（著），吉田研作（監修）2021.		
学生に対する評価 授業における取り組み（30%）、課題・発表への取り組み（50%）、期末レポート（20%）		

授業科目名	English Grammar	教員の免許状取得のための必修科目	英語教育学科
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位
担当教員名	松本博文 工藤洋路 米田佐紀子 森本俊 村越亮治		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 英文法の既習事項を整理し、理解を深める。			
(2) 英語の文構造を自力で分析できるようになる。			
(3) 小学生、中学生及び高校生に明確に説明できるような明示的な英文法知識を獲得する。			
(4) 英語を使用する際に、実際に英文法の知識を活用できるようになる。			
授業の概要			
今までに使用した教科書などの文章を題材に、中学校・高等学校を通して学習してきた英語の文法事項を整理して理解を深め、英語の文構造を自力で分析する力を養成する。そして、小学生、中学生及び高校生に明確に説明できるような明示的な文法知識を獲得する。また、「コミュニケーションを支える文法」の観点から、そうした文法知識を英語の理解および産出において実際に活用できるようになることを目指す。そのため、授業では一方的に聞くだけではなく、能動的に考え、発言し、演習などの活動に積極的に参加することが求められる。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	1. 授業概要 2. 英文法の基礎知識	1. 授業概要、英文法概観 2. 語・句・節・文、文の要素、品詞、文の種類	
第 2 回	時制①	現在単純形、現在進行形、過去単純形、過去進行形	
第 3 回	時制②	現在完了形、現在完了進行形	
第 4 回	時制③	過去完了形、過去完了進行形	
第 5 回	時制④	未来表現	
第 6 回	助動詞①	助動詞の種類、各助動詞の用法	
第 7 回	1. 助動詞② 2. 間接疑問文	1. 各助動詞の用法 2. 間接疑問文	
第 8 回	1. 中間試験 2. 仮定法	1. 中間試験 2. 仮定法過去・仮定法過去完了	
第 9 回	受動態	態とは、受動態の用法	
第 10 回	1. 中間試験の解説 2. 準動詞①	1. 中間試験の解説 2. 準動詞とは、不定詞	
第 11 回	準動詞②	動名詞	
第 12 回	1. 準動詞③ 2. 冠詞と名詞①	1. 分詞、分詞構文 2. 冠詞と名詞の用法	
第 13 回	1. 冠詞と名詞② 2. 代名詞①	1. 冠詞と名詞の用法 2. 代名詞の用法	
第 14 回	代名詞②	代名詞の用法	
第 15 回	関係詞	関係代名詞、関係副詞	
定期試験	期末試験	授業内容の理解度の確認	

テキスト Raymond Murphy (2021)『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』第4版, (渡辺雅仁他訳) Cambridge University Press.
参考書・参考資料等 綿貫陽&マーク・ピーターセン (2011)『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記 CD 付き）』旺文社. 江川泰一郎 (1991)『英文法解説』改訂三版, 金子書房. ジャック・C. リチャーズ&リチャード シュミット (2013)『ロングマン言語教育・応用言語学用語辞典』（高橋貞雄・山崎真稔・小田眞幸・松本博文訳）南雲堂. 田中茂範 (2017)『表現英文法』増補改訂第2版, コスモピア.
学生に対する評価 中間試験（25％）、期末試験（25％）、小テスト（20％）、課題（20％）、授業における取り組み（10％）

授業科目名	British and American Literature	教員の免許状取得のための の必修科目		英語教育学科
		担当形態：オムニバス	単位数： 2 単位	
担当教員名	丹治めぐみ、ローランド、 フィリップ			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 英語）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語 ・ 英語文学			
授業のテーマ及び到達目標 英米の文学の歴史・特徴を理解し、代表的な作品についての認識を深める。				
授業の概要 前半は、文学作品からの抜粋および映像を用いて、近現代イギリス文学と文化への入門的理解をはかる。後半は、アメリカ文学史をたどりながら、代表的な作品の抜粋を講読し、アメリカの文化や社会の特質が文学作品にどのように表されているかを理解する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	イギリス文学イントロダクション (担当：ローランド、フィリップ)	科目概要の説明。 文学とは何か。「ブリティッシュ」「現代」という語は何を意味するか。		
第 2 回	伝統と現代性 (担当：ローランド、フィリップ)	ヴィクトリア朝後期文学における伝統と現代性について、トーマス・ハーディーに焦点を当てて考察する。		
第 3 回	第一次世界大戦とモダニズムの出現 (担当：ローランド、フィリップ)	ウィルフレッド・オーエンなど戦争期の文学ならびにイマジズム。		
第 4 回	モダニズム詩 (担当：ローランド、フィリップ)	T. S. エリオット「荒地」などモダニスト詩の中心的作品を紹介する。		
第 5 回	モダニズム小説 (担当：ローランド、フィリップ)	ヴァージニア・ウルフ、D. H. ローレンスなどの作品の斬新性について。		
第 6 回	大英帝国の終焉 (担当：ローランド、フィリップ)	E. M. フォースターの作品にみられる帝国主義批判について。		
第 7 回	ポストコロニアル文学 (担当：ローランド、フィリップ)	ポストコロニアル文学（たとえばハニフ・クレイシやベンジャミン・ゼファニアなどの作品）に見られる多文化社会の反映について。		
第 8 回	現代イギリス文学に見られるイギリス性 (担当：ローランド、フィリップ)	カズオ・イシグロの作品に見られるイギリス性。		
第 9 回	アメリカ文学イントロダクション	国家の成り立ちを概観し、日記、書簡、説教、自伝など、初期アメリカ文学の多様性を知る。		
第 10 回	アメリカ植民地時代の文学 (担当：丹治めぐみ)	植民地時代の生活と思想について、文献講読により考察する。		
第 11 回	アメリカン・ルネサンス (担当：丹治めぐみ)	19 世紀国土拡大期におけるアメリカ独自の文化を志向する潮流と超絶主義について、文献講読により理解する。		
第 12 回	リアリズム小説 (担当：丹治めぐみ)	Mark Twain の作品（抜粋）講読により、19 世紀アメリカの社会と文化について考察を行う。		
第 13 回	リアリズム小説 (担当：丹治めぐみ)	19 世紀アメリカ文学の言語表現について考察を行う。		
第 14 回	ロスト・ジェネレーションの作家 (担当：丹治めぐみ)	Ernest Hemingway の短編小説講読により、第一次世界大戦前後の価値観の変動について考察し、グループ・ディスカッションにより理解を深める。		
第 15 回	多文化主義と文学 (担当：丹治めぐみ)	民族的マイノリティ系アメリカ作家の小説（抜粋）講読により、20 世紀後半の多文化社会の文学について考察を行う。		

定期試験	60 分の試験実施	
テキスト B. D. Tucker, Philip Williams, <i>Invitation to American Literature</i> (鷹書房弓プレス)		
参考書・参考資料等 <i>An Outline of English Literature</i> , Thornley & Roberts (Longman); 亀井俊介『アメリカ文学史 1～3』(南雲堂)		
学生に対する評価 試験 (Final essay や試験 : いずれも、問いの趣旨を正しく理解し、適切に解答できているかにより評価する) [35%]、課題等の取り組み (課題の趣旨を正しく理解したうえで適切に解答し、期日に提出できているかにより判断する) [65%]		

授業科目名	Basic Academic English Skills A	教員の免許状取得のための 必修科目		英語教育学科
		担当形態：クラス分け・単 独		単位数： 2 単位
担当教員名	ローランド, フィリップ 鈴木彩子 米田佐紀子 松本博文 丹治めぐみ 村越亮治			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 英語）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション			
授業のテーマ及び到達目標				
英語による大学での学びに必要なアカデミック・コミュニケーション能力の定着をねらいとする。ペアワーク・グループワークを活用した英語コミュニケーション活動において、口頭で自己の考えを明確に伝えることができる。アカデミック・ライティングについては、基礎であるパラグラフ、エッセイの形式、構造を理解することができる。明晰な文章を書くための文法、語彙、句読法を学び、それらを使ってパラグラフ、エッセイを書くことができる。与えられた文章を読み、要約や引用を適切に行うことができる。ライティングを通じ自己の考えを明確に読み手に伝えることが出来る。 英語運用能力としては2年次に行う留学で必要とされる CEFR B1 基礎固めを1年間かけて行う。前半となる本授業では CEFR A2+を身につけることを目指す。				
授業の概要				
受講生は英語で行われる授業を通し、アカデミック・コミュニケーションの基礎を4技能で学ぶ。インプットとして、アカデミック・コミュニケーションに必要な言語的知識のみならず、社会的・文化的知識を得る。授業では実社会から取り上げた様々なテーマについて、英語でリーディング、ライティング、スピーキング（やり取り・発表）、リスニング活動を行う。 ライティングでは、パラグラフやエッセイを明確な構造で適切な語彙や表現を使って書けるようになることを目標に、ペアワーク、グループワークを通じたディスカッション、ピア・レビュー（相互評価）活動を行う。これにより英語力の向上をはかると共に、口頭で自己の考えを明確に発信できるスピーキング能力やディスカッションをする能力も身に付ける。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	Introduction	Introducing the course クラスルールや授業の進め方についてのオリエンテーション		
第2回	Unit 1 Communicating in the modern world Preparing ideas ユニット1 パラグラフ作成の準備段階	Reflect on the topic of technology Academic vocabulary 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成に向けて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、クラスター・ダイアグラムを作成する。また、アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。		
第3回	Unit 1 Communicating in the modern world Studying model paragraphs ユニット1 パラグラフ読解と分析	Paragraph outline Simple and compound sentences モデルとなるパラグラフ読解により、アカデミック・ライティングのスキルを分析する。また、文法事項として短文と複文の構造を理解する。		
第4回	Unit 1 Communicating in the modern world Writing skills and grammar ユニット1 ライティングの技法と文法事項	Capitalization and punctuation Simple present アカデミック・ライティングの基本ルールである大文字・小文字の区別と句読法の原則を学ぶ。また、文法事項として単純現在時制の用法を学ぶ。		
第5回	Unit 1 Communicating in the modern world Completing a paragraph Unit 2 Characteristics of success Preparing ideas	Completing a paragraph on technology Reflect on the topic of psychology テクノロジーをトピックとするパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成に向け		

	ユニット1 パラグラフ作成と相互評価活動 ユニット2 パラグラフ作成の準備段階	て、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、クラスター・ダイアグラムを作成する。
第6回	Unit 2 Characteristics of success Academic vocabulary ユニット2 アカデミック・ライティングに必要な語彙、パラグラフ読解と分析	Academic phrases Paragraph structure アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。また、モデルとなるパラグラフ読解により、パラグラフの構造を分析する。
第7回	Unit 2 Characteristics of success Writing skills and grammar ライティングの技法と文法事項	Topic sentence and title Verb+preposition combinations トピックセンテンスとタイトルの役割を学ぶ。また、文法事項として動詞と前置詞の組み合わせによる表現を学ぶ。
第8回	Unit 2 Characteristics of success Completing a paragraph パラグラフ作成と相互評価活動	Completing a paragraph on characteristics of success 本ユニットのトピックに関するパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。
第9回	Unit 3 Health behaviors Preparing ideas Academic vocabulary ユニット3 パラグラフ作成の準備段階 アカデミック・ライティングに必要な語彙	Reflect on the topic of health Academic collocation 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成にむけて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、フリーライティングを行う。また、アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。
第10回	Unit 3 Health behaviors Studying model paragraphs ユニット3 パラグラフ読解と分析	Narrative paragraph Complex sentences モデルとなるパラグラフ読解により、ナラティブ・パラグラフの構造を分析する。また、文法事項として複文の構造を学ぶ。
第11回	Unit 3 Health behaviors Writing skills and grammar ユニット3 ライティングの技法と文法事項	Pronouns Paragraph outline 文法事項として代名詞の用法を学ぶ。また、パラグラフのアウトラインを作成する手法を学ぶ。
第12回	Unit 3 Health behaviors Completing a paragraph Unit 4 Getting ahead Preparing ideas ユニット3 パラグラフ作成と相互評価活動 ユニット4 パラグラフ作成の準備段階	Completing a narrative paragraph Reflect on the topic of business ナラティブ・パラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成に向けて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、物事の手順を図式により示す。
第13回	Unit 4 Business Academic vocabulary Studying model paragraphs ユニット4 アカデミック・ライティング	Academic phrases Process paragraphs アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。また、モデルとなるパラグラフ読解により、プロセス・パラグラフの構造を分析する。

	に必要な語彙 パラグラフ読解と分析	
第 14 回	Unit 4 Getting ahead Writing skills ユニット 4 ライティングの技法と文法 事項	Transitions of sequential order Adding details, Imperatives 順序を示す語句を学ぶほか、プロセス・パラグラフに必要な表現や文法事項を学ぶ。
第 15 回	Unit 4 Getting ahead Writing a paragraph ユニット 4 パラグラフ作成と相互評価 活動	Completing a process paragraph プロセス・パラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。
定期試験	内容理解	語彙・文型・表現等が定着しているか。課題にふさわしいパラグラフが書けるか。
テキスト <i>Final Draft 1</i> Cambridge University Press ISBN: 9781107495371		
参考書・参考資料等 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 Murphy, Raymond 著 Cambridge University Press ISBN:9784889969238		
学生に対する評価 授業内での取り組み：30% 教室内でのディスカッション、ペア・グループワーク、相互評価活動への準備、積極的姿勢、参加度、意思疎通の達成度、授業内課題を総合的に判断する。 課題の提出・完成度：30% 課題がテーマ沿って、授業内で指示された通りに適切な構造、語彙・表現を使って作成されているかを判断する。 定期試験：40% 語彙・文法が定着しているか、テキスト内の文章と同等の内容や構造の文章から情報を正しく読みとれるか、エッセイが明確な構造で書かれているか、適切な語彙・表現が使われているか、主題を明瞭に論じているか、これらを総合的に判断する。		

授業科目名	Basic Academic English Skills B	教員の免許状取得のための 必修科目		英語教育学科
		担当形態：クラス分け・単 独		単位数： 2 単位
担当教員名	ローランド, フィリップ 米田佐紀子 丹治めぐみ 松本博文 鈴木彩子 村越亮治			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 英語）			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・外国語 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
英語による授業に必要な Classroom English の基礎である質問と回答、提案、意見提示、態度表明、文献の口頭要約の方法を理解し、プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションなどを通してその技術を身に付ける。 本科目では Basic Academic English Skills A に引き続き、英語による大学での学びに必要なアカデミック・コミュニケーション能力の定着をねらいとする。口頭技能では、ペアワークやグループワークを活用した英語コミュニケーション活動において、口頭で自己の考えを明確に伝えることができる。読み書きの技能においては、明晰な文章を書くための文法、語彙、句読法を学び、それらを使ってパラグラフ、エッセイを書くことができる。アカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ、エッセイの形式、構造を理解することができる。与えられた文章を読み、要約や引用を適切に行うことができる。ライティングを通じ自己の考えを明確に読み手に伝えることが出来る。 英語運用能力としては 2 年次の留学に必要な CEFR B1 レベルに到達することを目標とする。				
授業の概要				
受講生は英語で行われる授業を通し、アカデミック・コミュニケーションの基礎を 4 技能で学ぶ。インプットとして、アカデミック・コミュニケーションに必要な言語的知識のみならず、社会的・文化的知識を得る。授業では社会の様々なテーマを取り上げ、英語でリーディング、ライティング、スピーキング（やり取り・発表）、リスニング活動を行う。 ライティングでは、パラグラフやエッセイを明確な構造で適切な語彙や表現を使って書けるようになることを目標に、ペアワーク、グループワークを通じたディスカッション、ピア・レビュー（相互評価）活動を行う。これにより英語力の向上をはかると共に、口頭で自己の考えを明確に発信できるスピーキング能力やディスカッションをする能力も身に付ける。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	クラスオリエンテーション Unit 5 The value of education Preparing ideas パラグラフ作成の準備段階	Introducing the course Reflect on the idea of education クラスルールや授業の進め方についてのオリエンテーション 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成に向けて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、クラスター・ダイアグラムを作成する。		
第 2 回	Unit 5 The value of education Academic Vocabulary Studying model paragraphs ユニット 5 アカデミック・ライティングに必要な語彙 パラグラフ読解と分析	Academic collocations Studying model paragraphs on education アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。モデルとなるパラグラフ読解により、ナラティブ・パラグラフの構造を分析する。		
第 3 回	Unit 5 The value of education Writing skills and grammar ユニット 5 ライティングの技法と文法事項	Structure of definition paragraph Subject relative clause 定義づけパラグラフの構造を学ぶ。また、文法事項として関係詞節を学ぶ。		
第 4 回	Unit 5 The value of education	Completing a definition paragraph 定義づけパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語		

	Completing a paragraph ユニット 5 パラグラフ作成と相互評価 活動	による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。
第 5 回	Unit 6 Cultural landmarks Preparing ideas Academic vocabulary ユニット 6 パラグラフ作成の準備段階 アカデミック・ライティング に必要な語彙	Reflect on the idea of cultural landmarks Academic phrases 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成に向けて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、クラスター・ダイアグラムを作成する。 アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。
第 6 回	Unit 6 Cultural landmarks Studying model paragraphs Paragraph structure ユニット 6 パラグラフ読解と分析 パラグラフの構造	Studying model paragraphs on cultural landmarks Topic sentences, supporting sentences, concluding sentences in descriptive paragraphs モデルとなるパラグラフ読解により、描写・説明のパラグラフの構造（トピック・センテンス、サポーティング・センテンス、コンクルーディング・センテンス）を学ぶ。
第 7 回	Unit 6 Cultural landmarks Using adjectives and adverbs “There is” and “There are” sentences 形容詞と副詞の用法 “There is” and “There are” の構文	Adding details with adjectives and adverbs Studying “There is” and “There are” sentence structure 文法事項として、形容詞と副詞を用いて定義づけパラグラフをより詳細にする手法と “There is” and “There are” の構文を学ぶ。
第 8 回	Unit 6 Cultural landmarks Completing a paragraph Unit 7 Popular culture Preparing ideas パラグラフ作成と相互評価 活動 パラグラフ作成の準備段階	Completing a descriptive paragraph Reflect on the idea of popular culture 描写・説明のパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成にむけて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、図式を作成する。
第 9 回	Unit 7 Popular culture Academic vocabulary Studying model paragraphs アカデミック・ライティング に必要な語彙 パラグラフ読解と分析	Academic collocations Studying model paragraphs on life stages アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。また、モデルとなるパラグラフ読解により、意見を表明するパラグラフの構造を分析する。
第 10 回	Unit 7 Popular culture Paragraph structure Formal and informal language, word forms ユニット 7 ライティングの技法と文法 事項	Structure of opinion paragraph Studying the difference between formal and informal language Studying the use of suffixes 意見を表明するパラグラフの技法を学ぶ。また、文法事項として接尾辞の用法を学ぶ。
第 11 回	Unit 7 Popular culture Completing a paragraph ユニット 7 パラグラフ作成と相互評価 活動	Completing an opinion paragraph 意見を表明するパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。

第 12 回	Unit 8 Career paths Preparing ideas Academic Vocabulary	Reflect on the idea of career paths Academic phrases 本ユニットのトピックに関連するパラグラフ作成にむけて、ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、クラスター・ダイアグラムを作成する。また、アカデミック・イングリッシュで頻出する本ユニット関連の語彙を獲得する。
第 13 回	Unit 8 Career paths Studying model essays	Studying model essays on career paths モデルとなるエッセイの読解により、エッセイの構造を分析する。
第 14 回	Unit 8 Career paths Essay structure Writing skills and grammar	Structure of essay Avoiding run-on sentences and comma splices エッセイの構造を学ぶ。また、文法事項として無終止文やコンマの誤用について学ぶ。
第 15 回	Unit 8 Career paths Completing an essay	Completing an essay on career paths キャリア・パスに関するパラグラフを完成させる。ペアやグループで英語による口頭活動をしながら、互いのパラグラフを評価する。
定期試験	内容理解	語彙・文型・表現等が定着しているか。課題にふさわしいパラグラフやエッセイが書けるか。
テキスト <i>Final Draft 1</i> Cambridge University Press ISBN: 9781107495371		
参考書・参考資料等 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 Murphy, Raymond 著 Cambridge University Press ISBN:9784889969238		
学生に対する評価 授業内での取り組み：30% 教室内でのディスカッション、ペア・グループワーク、相互評価活動への準備、積極的姿勢、参加度、意思疎通の達成度、授業内課題を総合的に判断する。 課題の提出・完成度：30% 課題がテーマ沿って、授業内で指示された通りに適切な構造、語彙・表現を使って作成されているかを判断する。 定期試験：40% 語彙・文法が定着しているか、テキスト内の文章と同等の内容や構造の文章から情報を正しく読みとれるか、エッセイが明確な構造で書かれているか、適切な語彙・表現が使われているか、主題を明瞭に論じているか、これらを総合的に判断する。		

授業科目名	国語科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2単位	
担当教員名	山田深雪 山口政之 佐内信之 余郷和敏			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・国語(書写を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 新学習指導要領に基づいた授業の在り方について理解することができる。また、各領域の内容について理解した上で、教材研究の方法や学習指導案作成等の実践的な指導法を身に付けることができる。				
授業の概要 小学校における国語科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び国語科授業の実践的な演習を行う。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	学習指導要領の考え方の理解	・中央教育審議会答申、及び新学習指導要領を読み、考え方や全教科等に共通する構成を理解する。 ・国語科の目標と内容構成について理解し、検定教科書がそれに基づいて作成されていることを、目次等を見て確認する。		
第2回	国語科の授業づくりⅠ（基礎）	・学習者主体となる授業づくりの基本を国語科の授業を通して考える。 ・児童の主体的な学びを支える教師の発問・助言・指示等の在り方を考える。また、教員として、実際に黒板に児童の発言を板書してみる。 ・児童の思考・判断・表現を促す、見やすい板書づくりやノートづくり（ICTの活用含む）について考える。		
第3回	国語科の授業づくりⅡ（学習指導案）	・教材研究の意義と基本的な行い方を学ぶ。 ・学習指導案の項目、内容を確認、「単元計画」「本時の展開」の書き方を学ぶ。 ・様々な板書の在り方（ICTの活用を含む）について理解を深める。		
第4回	〔知識及び技能〕の学習指導	・(1) (2) (3) の三つの事項の内容と系統について理解する。 ・〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕は関連して指導することについて理解する。 ・「音読・朗読」や「漢字指導」などの日常的に行う内容について、実践を通して学ぶ。		
第5回	書写の学習指導	・書写の内容と系統について理解する。 ・毛筆の指導の基本（毛筆を行う理由・道具の名称と使い方・基本点画の名称・授業構成など）について理解を深める。 ・第1学年における平仮名の指導について学ぶ。		
第6回	〔A 話すこと・聞くこと〕の学習指導	・〔話すこと・聞くこと〕の指導の内容と系統を理解し、教科書教材を使った授業づくりについて理解を深める。 ・課題に沿ってスピーチや討論をすることを通して、児童が話しやすい環境づくりや教師の支援について話し合う。		
第7回	〔B 書くこと〕の学習指導	・〔書くこと〕の指導の内容と系統を理解し、教科書教材を使った授業づくりについて理解を深める。 ・課題に沿って文章を書くことを通して、書けない（書くことが苦手）な児童への支援について話し合う。		

第8回	〔C 読むこと（説明的な文章）〕の学習指導	・〔読むこと（説明的な文章）〕の指導の内容と系統を理解し、教科書教材を使った授業づくりについて理解を深める。 ・教科書の説明的文章を取り上げ、文や文章全体の構成をはじめとした教材研究の方法を中心に、読み方を学ぶ。
第9回	〔C 読むこと（文学的な文章）〕の学習指導	・〔読むこと（文学的な文章）〕の指導の内容と系統を理解し、教科書教材を使った授業づくりについて理解を深める。 ・学年に応じた文学の読みの指導について教材研究を通して学ぶ。
第10回	国語科における ICT の活用	・デジタル教科書の効果的な使い方について検討する。 ・日本語表記の方法としてのローマ字学習と、コンピュータへのローマ字入力を学ぶ。 ・文や文章の推敲、プレゼンテーション（説明・発表）、リーフレット作成、漢字検索など、国語科の授業における ICT の効果的な活用事例について提案し合う。
第11回	学習指導と評価 入門期の指導	・学習指導の評価（診断的評価、形成的評価、総括的評価）、及び評価の観点に基づいた評価の在り方、指導と評価の一体化の考え方と実際について学ぶ。 ・第1学年の教科書（上）のスタートカリキュラムの教材群を参考に、小学校に入学したばかりの児童への配慮について考える。
第12回	実践場面演習Ⅰ	・〔A 話すこと・聞くこと〕の教科書教材を使った授業の展開を考え模擬授業を行う。 ・模擬授業について協議する。 ※実践場面演習Ⅰ～Ⅳの中で、全員、必ず1回は授業者を担う。 ※ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。
第13回	実践場面演習Ⅱ	・〔B 書くこと〕の教科書教材を使った授業の展開を考え模擬授業を行う。 ・模擬授業について協議する。 ※実践場面演習Ⅰ～Ⅳの中で、全員、必ず1回は授業者を担う。 ※ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。
第14回	実践場面演習Ⅲ	・〔C 読むこと（説明的な文章）〕の教科書教材を使った授業の展開を考え模擬授業を行う。 ・模擬授業について協議する。 ※実践場面演習Ⅰ～Ⅳの中で、全員、必ず1回は授業者を担う。 ※ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。
第15回	実践場面演習Ⅳ	・〔C 読むこと（文学的な文章）〕の教科書教材を使った授業の展開を考え模擬授業を行う。 ・模擬授業について協議する。 ※実践場面演習Ⅰ～Ⅳの中で、全員、必ず1回は授業者を担う。 ※ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。
定期試験	学習指導案の作成と論述	・模擬授業において「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の各領域の指導の中から特定の単元を選び、「単元名」から「単元指導計画」「本時の展開」（板書計画を含む）までを指導案にまとめる。模擬授業後に改善した指導案を提出する。 ・指導案作成や模擬授業をふまえた全15回の授業のふり返りを論述する。
テキスト		
・小学校学習指導要領解説国語編（平成29年告示）文部科学省 東洋館出版社 9784491034621		
参考書・参考資料等		
・各社の「国語」の教科書 ・文部科学省や国立教育政策研究所の資料各種 ・授業内容により、適宜資料を提供する		
学生に対する評価		
・試験 30% ・レポート 20% ・授業における取組 30% ・課題等の取組 20%		

授業科目名	社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	佐藤 克士 小谷 恵津子 西川 克行			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・社会			
授業のテーマ及び到達目標 新学習指導要領に基づいた授業の在り方について理解することができる。また、各学年の内容について理解し、模擬授業を通して、教材研究の方法や学習指導案作成等の実践的な指導法を身に付けることができる。				
授業の概要 小学校における社会科教育の基本的な理論について考察し、教科内容、学習指導法及び社会科授業の実践的な演習を行う。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	小学校社会科の現状	・今まで受けてきた小学校社会科の授業を振り返り、教科の意義と役割について理解する。 ・中央教育審議会答申、新学習指導要領を読み、基本的考え方と構成を理解する。		
第2回	小学校社会科の変遷	・学習指導要領の変遷について調べ、学習指導要領の改訂の趣旨について理解する。 ・「主体的・対話的で深い学び」とは何か、実践場面を想定して考察する。		
第3回	小学校社会科における「社会認識」	・「社会認識」をキーワードに、社会科の目標構造、内容、方法についての関連性について理解する。		
第4回	小学校社会科における「問題解決的な学習」	・実際の学習指導案を参考に、授業が「問題解決的な学習」が成立するように作成されていることを理解する。 ・「問題解決的な学習」の必要性について、教科特性を踏まえて理解する。		
第5回	教材構造図と評価	・社会科指導案に示されている「教材構造図」の構成と書き方について理解する。 ・評価と内容の一体性に気づき「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」と規定された評価項目の意義について考察する。		
第6回	社会科授業と学習指導案（項目、内容、書き方）	・実際の社会科授業を体験し、指導の実際について学ぶ。 ・実際の授業とその授業についての学習指導案を比較し、構成や書き方について理解する。		
第7回	学習指導案（単元指導計画）の作成	・模擬授業で想定される学年・単元を決め、実際に学習指導案を作成する。前時に学習した項目、内容、書き方を参考にし、特に単元指導計画の作成方法について理解する。		
第8回	学習指導案の作成と教材研究	・学習指導案を完成させ、授業で用いる資料、教材等について、情報を収集し、資料を作成する。		
第9回	地域素材の教材化	・社会科指導に欠かせない地域素材の教材化の方法について理解する。 ・「身近、具体、体験」をキーワードに社会科授業をより効果的に行う方法を身に付ける。		
第10回	3学年社会科授業の実際：情報通信技術及び教材	・3学年社会科の模擬授業の実践を通して、地域素材（市区町村）の教材化について理解するとともに、より有効な教		

	の活用	材について吟味し、学年全体を見通した教材構成について理解する。 ・学習する市区町村のHPや公共機関のHPから、指導に必要な情報を収集し、教材化を図る。プロジェクターや映像資料・統計資料を用いた授業構成について検討する。
第 11 回	4 学年社会科授業の実際 ：情報通信技術及び教材 の活用	・4 学年社会科の模擬授業の実践を通して、地域素材（都道府県）の教材化について理解するとともに、より有効な教材について吟味し、学年全体を見通した教材構成について理解する。特に、「地域の発展に尽くした先人」について、事例をもとに考察を深める。 ・学習する都道府県のHPや公共機関のHPから、指導に必要な情報を収集し、教材化を図る。プロジェクターや映像資料・統計資料等を用いた授業構成について検討する。
第 12 回	5 学年社会科授業の 10 歳 と学習活動 ：情報通信技術と地図資 料・産業に関する資料の 活用	・5 学年社会科の模擬授業の実践を通して、教材の重要性と多様な学習活動の方法について理解する。 ・特に話し合い活動における「個人→グループ→全体」の意味と方法について考察する ・国土や産業に関する指導に必要な情報を収集し、教材化を図る。プロジェクターや映像資料・統計資料等を用いた授業構成について検討する。
第 13 回	6 学年社会科授業の実際 と発問 ：情報通信技術と歴史資 料の活用	・6 学年社会科の模擬授業の実践を通して、教師の発問の重要性と学習を支える教材について理解する。 ・歴史事象、人物や文化資産について、指導に必要な情報を収集し、教材化を図る。プロジェクターや映像資料・絵画資料を用いた授業構成について検討する。
第 14 回	社会科学学習指導案の修正	・これまで実践してきた模擬授業の学習指導案をさらにより実際の授業に近づけるため、改善・修正することの意義と方法について理解する。
第 15 回	社会科指導と学級経営	・これまでの学習をもとに、自己評価・相互評価を行う。 ・より主体的な学習を成立させるためには、学級経営との深い関係があることを理解し、教科指導の充実とよりよい学級経営の重要性について理解する。
定期試験	なし	
テキスト ・学習指導要領（平成 29 年 3 月告示） ・学習指導要領解説「社会編」（平成 29 年 6 月） ・授業内容により、適宜資料を提供する		
参考書・参考資料等 ・各社の「社会」教科書 ・社会科指導法 (ED08803) 玉川大学 ISBN978-4-472-40421-4C3337/NDC375		
学生に対する評価 ・レポート 30% ・授業における取組 35% ・課題等の取組 25% ・ポートフォリオの作成 10%		

授業科目名	算数科指導法	必修科目 (英語教育学科) (生産農学科) 選択科目 (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)	
		教員の免許状取得のための	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	柳瀬 泰		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・算数		
授業のテーマ及び到達目標			
・過去・現行の学習指導要領における算数科のねらいと内容の主な変化を理解し説明できる。 ・算数の背景となる数学的な見方・考え方を理解し、教材研究に活用できる。 ・算数科における学習指導理論や評価の考えを知り、学習指導案や授業に適宜取り入れることができる。 ・模擬授業で教師役や児童役を行うことによって、よりよい算数授業のあり方について考察できる。			
授業の概要			
この授業では、算数を担当する教員としてのコミュニケーションスキルを身につけ、指導上の様々な問題を解決する力を身に付ける。内容は大きく分けて次の2つである。 1) 学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。 2) 算数科の内容とあわせて、その背景となる数学の内容についての理解を深め、算数に関する基礎的な学習指導理論や評価のあり方を理解し、算数の具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	ガイダンス、算数教育のねらいと内容の変遷 (学習指導要領、目標)	算数教育の特質と目標、小学校算数科の学習指導要領の変遷と新指導要領の全体構造と特徴を知る。算数科に関する資質・能力（「思考力、表現力、判断力」「学びに向かう力・人間性等」）を知る。	
第2回	算数の内容領域の概観、 (学習指導要領、目標、教材研究)	算数の5領域の概観と6年間の指導内容の概要を知る。(A 数と計算、B 図形、C 測定(小1～3)、変化と関係(小4～6)、D データの活用、及び数学的活動)	
第3回	算数の主な内容と評価の観点(A 数と計算) (教材研究、評価)	整数・小数・分数の意味や表し方、九九の指導などを通して、子どもの認識や思考、学力の実態を知る。教材の工夫の重要性、算数を学ぶ意味、考える楽しさを知る。数と計算に関する学習指導理論、評価規準を知る。	
第4回	算数の主な内容と評価の観点(A 数と計算) (教材研究、評価)	分数の乗除の方法の意味などを通して、子どもの認識や思考、学力の実態を知る。教材の工夫の重要性、数と計算に関する学習指導理論、評価規準を知る。	
第5回	算数の主な内容と評価の観点(B 図形、C 測定、変化と関係) (教材研究、評価)	図形を調べる活動を通して、図形の構成要素を知り、数学的推論の方法を考察する。測定、変化と関係の指導を通して、子どもの認識や思考、学力の実態を知る。教材の工夫の重要性、図形、測定、変化と関係に関する学習指導理論、評価規準を知る。	
第6回	算数の主な内容と評価の観点(D データの活用) (教材研究、評価)	目的に応じたデータの収集・分類整理・表現、統計データの読み取りと判断の方法を知り、データの活用に関する子どもの認識や思考、学力の実態を知る。教材の工夫の重要性、データの活用に関する学習指導理論、評価規準を知る。	
第7回	ICTの活用、教材の効果的な活用(授業設計)	算数の特性に応じたICTの活用、教材の効果的な活用を理解し、算数の授業設計に活用する。	
第8回	算数授業の着眼点・留意点	算数の授業に関するビデオ視聴や学習指導案の検討を通して、算数の授業設計に活用する。学習指導案の作成の意義と	

	(授業設計)	書き方のポイント、発問計画、板書計画を知る。
第9回	算数の授業をつくる (学習指導案の作成・検討)	学習指導案の作成・検討、模擬授業の準備、教材の作成や発問・板書計画の作成を行う。
第10回	「A 数と計算」の指導 (1) (模擬授業)	「A 数と計算」領域における内容に関して、作成した学習指導案に基づいた模擬授業を実施し、相互評価を行うことによって、授業改善の視点を知る。
第11回	「A 数と計算」の指導 (2) (模擬授業)	「A 数と計算」領域における内容に関して、作成した学習指導案に基づいた模擬授業を実施し、相互評価を行うことによって、授業改善の視点を知る。
第12回	「B 図形」「C 測定、変化と関係」の指導 (模擬授業)	「B 図形」「C 測定、変化と関係」領域における内容に関して、作成した学習指導案に基づいた模擬授業を実施し、相互評価を行うことによって、授業改善の視点を知る。
第13回	「D データの活用」の指導 (模擬授業)	「D データの活用」領域における内容に関して、作成した学習指導案に基づいた模擬授業を実施し、相互評価を行うことによって、授業改善の視点を知る。
第14回	算数の各内容の留意点 (模擬授業の反省を踏まえての授業設計や教材研究)	模擬授業を振り返り、授業設計の方法や内容の理解が十分でなかった事柄について検討を行い、授業改善の視点を考察する。学習指導案を修正する。
第15回	まとめ	算数教育の現状と問題点を知り、今後の展望について考察する。
定期試験	第1回から第15回までの総合的理解	第1回から15回までの内容の習得状況を、試験によって総合的に評価する。
テキスト 『小学校学習指導要領解説 算数編』文部科学省（平成29年6月、文部科学省のサイトより）		
参考書・参考資料等 担当教員からの指示による		
学生に対する評価 指示された課題 50%、授業中の取り組み 30%、定期試験 20%		

授業科目名	理科指導法	必修科目 (英語教育学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科) 選択科目 (生産農学科)	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位
担当教員名	市川 直子 小川 俊哉 五十嵐 敏文		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・理科		
授業のテーマ及び到達目標 小学校理科の教育目標と目指す資質・能力、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。学習内容の系統性、および各学年の重点的な問題解決能力を理解し、児童が自然科学に興味関心を持つ授業のあり方や指導法、評価と支援のあり方について、模擬授業や実践研究を通して学び、授業を構想する。			
授業の概要 小学校理科の目標、内容と指導法について理解と実践力を高めることを目的に、学習指導要領や解説、その他の理論書を読み込み、また授業実践記録や授業ビデオ等から授業の実際を学ぶ。それぞれの分野や単元に特有な指導上の留意点、子どもの認識や思考、能力などの実態を知り、教材研究や模擬授業などを通して、安全な理科授業を行う実践力を身につける。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	理科教育の意義と目的 学習指導要領	教科「理科」の意義や目的について、教科書を概観したり自分の経験を話し合ったりして議論する。観察や実験を伴う教科である理科の特性と安全、ICT の活用について知る。	
第 2 回	各学年の目標と学習内容 4 つの学問分野との関連	学習指導要領を読み解き、理科の目標と学習内容、全体構造について理解する。各学年の目標と 4 つの内容の柱について系統性と学問分野との関連について理解する。	
第 3 回	「B 生命・地球」の学習 内容の指導と評価	「B 生命・地球」の学習内容の全体像と育てたい資質・能力を理解し、継続的な観察計画と表現、ICT の効果的な利用と指導上の留意点、評価のあり方について検討する。	
第 4 回	「A エネルギー・粒子」 学習内容の指導と評価	「A エネルギー・粒子」の学習内容の全体像と育てたい資質・能力を理解し、安全な実験と表現、ICT の効果的な利用と指導上の留意点、評価のあり方について検討する。	
第 5 回	理科授業で育成する資 質・能力と子どもの認識	学習指導要領と教科書や教師用指導書、授業研究の報告書等を検討し、理科で育成する資質能力と子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。	
第 6 回	学習指導計画と学習指導 案の意味と構造	学習指導計画と学習指導案の意味と構成を理解し、授業記録や授業ビデオ等を用いて、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する。	
第 7 回	学習指導案の作成と評価	各学年での重点的な問題解決能力と、問題解決のプロセスを理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。	
第 8 回	「エネルギー」学習内容 の指導と概念形成	3 年 4 年「電気のはたらき」5 年「電磁石」6 年「電気の利用」の学習内容の系統性を理解し、模擬授業と振り返りを通して、電気領域の概念形成と指導方法について検討する。	
第 9 回	「エネルギー」の学習内 容の指導と日常生活との 関連	3 年「重さと体積」5 年「てこ」6 年「ふりこ」等を題材に、学習内容の系統性を理解し、模擬授業と振り返りを通して、日常生活との関連を生かした指導について検討し合う。	

第 10 回	「粒子」の学習内容の指導と安全な実験指導	4 年「水の状態変化」 5 年「ものの溶け方」 6 年「水溶液」「ものの燃え方」を題材に、模擬授業と振り返りを通して、加熱器具や薬品の処理等安全な実験指導について検討する。
第 11 回	第 3 学年の問題解決学習	小学校第 3 学年における科学的な資質・能力としての、問題を見いだす力の育成について、模擬授業と振り返りを通して具体的な授業を想定して検討し合う。
第 12 回	第 4 学年の問題解決学習	小学校第 4 学年における科学的な資質・能力としての、根拠のある予想や仮説を発想する力の育成について、模擬授業と振り返りを通して具体的な授業を想定して検討し合う。
第 13 回	第 5 学年の問題解決学習	小学校第 5 学年における科学的な資質・能力としての、予想や仮説を基に解決の方法を発想する力の育成について、模擬授業と振り返りを通して具体的な指導の留意点を検討する。
第 14 回	第 6 学年の問題解決学習	小学校第 6 学年における科学的な資質・能力としての、より妥当な考えをつくりだす力の育成について、模擬授業と振り返りを通して具体的な授業を想定して検討し合う。
第 15 回	「B 生命・地球」の指導と評価、思考力・判断力・表現力の育成と評価	植物や月の継続観察記録の活用と評価。形成的評価と総括的評価、真性の評価やパフォーマンス評価等、様々な評価方法を知り、思考力や表現力の評価のあり方について考える。
定期試験	定期試験	これまで学習した、小学校理科の授業づくりについての基本的事項、理解しておくべき学習内容について試験を行う。
テキスト 小学校学習指導要領解説 理科編（平成 29 年 3 月 文部科学省）		
参考書・参考資料等 石井恭子編『教科力シリーズ 小学校理科』玉川大学出版部 2016 年 加藤尚裕・引間和彦『安全な小学校理科実験 基本操作ハンドブック』東洋館出版社 2011 年 小学校理科の観察・実験の手引き詳細 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/1304651.htm 2011 年		
学生に対する評価 学期中の小テスト(30%), 定期試験(30%), 模擬授業レポートと指導案(30%), 授業への積極的な参加(10%)		

授業科目名	生活科指導法	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	小谷 恵津子 佐藤 孔美 飯島 将仁			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)・生活			
授業のテーマ及び到達目標 生活科設立の背景や経緯をふまえ、教科の特質や理念、小学校学習指導要領に示された生活科の目標と内容およびその取扱い、学習指導と評価の特質について理解することができる。また、生活科の単元開発と本時の学習指導案作成と模擬授業を通して、生活科の教材開発や学習指導の実践的な力量を身に付けることができる。				
授業の概要 小学校学習指導要領やその解説を手がかりとしながら、生活科の趣旨や目標、学習指導や評価の特質について理解する。また、すぐれた授業実践を通して、生活科の単元開発や学習活動の構成、指導と評価の実践について学ぶと共に、実際に単元計画や本時の学習指導案を作成して模擬授業を行い、受講者相互で意見交換を行うことを通して、生活科の授業づくりや学習指導についての実践的な力量を磨く。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	生活科の特質と教科目標	小学校学習指導要領に示された生活科の教科目標を手がかりに、生活科という教科の特質について理解する。		
第2回	生活科の内容構成と学年目標・学習指導案の基本事項	生活科の各学年の目標が2学年共通のものとして示されている理由を考察するとともに、学年目標と内容との関連や構造について理解する。また、学習指導案を構成する基本事項について理解する。		
第3回	生活科の設立と幼児教育との関連	教科設立の背景を社会の変化と関連付けて理解するとともに、生活科がスタートカリキュラムの中核教科として位置付けられている理由を考察する。		
第4回	生活科におけるカリキュラムマネジメントと他教科との関連	カリキュラムマネジメントの視点から生活科の年間指導計画や単元計画作成の留意点を理解するとともに、実際の授業実践を手がかりにして「関連的な指導」と「合科的な指導」の具体的な方法やその相違について整理する。		
第5回	体験を通じた学びの意義	生活科における「具体的な活動や体験」の位置付けを学習指導要領やその解説をふまえて理解するとともに、生活科で体験を通して学ぶ意義について考察する。		
第6回	気付きの質を高める指導	学習指導要領やその解説を手がかりにして生活科における学びの深まりについて理解するとともに、すぐれた生活科の授業実践の分析を通して気付きの質を高める指導について具体的なイメージをもつ。		
第7回	単元の指導計画の作成	学習指導要領やその解説に示された生活科の単元計画作成の留意点を理解するとともに、すぐれた授業実践を手がかりにして「主体的、対話的で深い学び」を実現する単元構成について具体的なイメージをもつ。		
第8回	本時の学習活動の構成	学習指導要領やその解説に示された生活科の学習指導の留意点を理解するとともに、すぐれた授業実践を手がかりにして「主体的、対話的で深い学び」を実現する学習活動の構成について具体的なイメージをもつ。		
第9回	生活科の教材開発	児童の身近な環境を生かして学ぶ生活科の特質をふまえ、子どもの興味・関心や思い・願いを生かした生活科の教材開発の要点をすぐれた先行実践の分析を通して考察する。		

第 10 回	生活科における学習指導と ICT の活用	生活科学習における指導の留意点や児童のつまずきへの支援のあり方、また、具体的な活動や体験を通して学ぶ生活科の学習指導の特性をふまえた ICT 活用のあり方について、すぐれた授業実践の分析を通して具体的なイメージをもつ。
第 11 回	生活科の評価	学習指導要領やその解説に示された生活科の評価の特質や留意点を理解するとともに、すぐれた先行実践を手がかりにして、多様な資料を活用し児童の成長の過程を見取る評価について具体的なイメージをもつ。
第 12 回	模擬授業①－学校、家庭及び地域の生活に関する内容	講義内容をふまえて単元の指導と評価の計画と本時の学習指導案を作成し、模擬授業と検討会を行う。
第 13 回	模擬授業②－身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	講義内容をふまえて単元の指導と評価の計画と本時の学習指導案を作成し、模擬授業と検討会を行う。
第 14 回	模擬授業③－自分自身の生活や成長に関する内容	講義内容をふまえて単元の指導と評価の計画と本時の学習指導案を作成し、模擬授業と検討会を行う。
第 15 回	模擬授業の振り返りと学習指導案の修正	模擬授業や検討会で得られた意見を振り返り、「主体的、対話的で深い学び」のより一層の実現を目指して作成した単元の指導と評価の計画と本時の学習指導案を修正する。
定期試験		実施しない
テキスト 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編，文部科学省，東洋館出版社 978-4491034645		
参考書・参考資料等 必要に応じ、授業時に指示する。		
学生に対する評価 レポート（30％）授業における取り組み（10％）課題等の取り組み（40％）ポートフォリオ（20％）		

授業科目名	音楽科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	久保紘子 小口浩司 岩井 智宏			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)・音楽			
授業のテーマ及び到達目標 小学校教科において、「音楽」がどのように実践されることが望ましいのか。小学校学習指導要領に 基づき基礎概念と実践論(模擬授業含む)を展開する。またその実践論を教材、方法・技術、教師の各 論点から展開する。音楽を実践するにあたり必要な理論、具体的な実践方法を身につけることができる。 シラバスに示した目標を理解、習得し且つ応用する力を身につけたと思われる学生は高評価する。				
授業の概要 授業に限らず実施される「音楽」を得手不得手によらず誰でもが積極的に担当できるように理論と実 践を学ぶ。「音楽」をする喜びを体験し、表現・鑑賞の指導法を学修する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	音楽の本質	音楽の本質を考え、子ども達にどんな音楽を、どのような 方法で、どのように提供、指導してゆくか探る。		
第2回	音楽教育のねらいと実践、 学習指導要領の解説①	学校における音楽教育とは何か？音楽の社会的な役割と音 楽教育の歴史について学修し、身近なことから考え学習指 導要領の教科目標をとらえる。		
第3回	音楽教育のねらいと実践、 学習指導要領の解説②	共通教材を全曲歌唱する。学年ごとの特徴を捉え共通教材 の必要性を認識する。		
第4回	音楽教育のねらいと実践、 学習指導要領の解説③	教材の研究Ⅰ。リズム・メロディー・ハーモニーの構成要 素から共通教材が各学年に示されている意義を考察する。		
第5回	音楽教育のねらいと実践、 学習指導要領の解説④	教材の研究Ⅱ。音色・速さ・強弱・形式・歌詞などの側面から 曲を分析し、なぜその曲が教材にふさわしいのか考察する。		
第6回	音楽教育のねらいと実践、 学習指導要領の解説⑤	教材の研究Ⅲ。各人が選んだ曲を楽曲分析し指導目標を考 える。		
第7回	表現方法と技術Ⅰ	歌唱指導法。発声の仕組みと指揮法。		
第8回	表現方法と技術Ⅱ	器楽指導法。楽器の種類と奏法。		
第9回	表現方法と技術Ⅲ	音楽づくり指導法。PC ソフトを使った作曲法の実践。		
第10回	教師の音楽的資質・能力Ⅰ	鑑賞指導法。音楽科における言語活動について。		
第11回	教師の音楽的資質・能力Ⅱ	我が国と諸外国の音楽について知識を深める。 地域の音楽について調べる。		
第12回	指導案の作成と評価	年間指導計画と学習指導案の書き方、評価規準の作成。子 どもの観察から生まれる客観的評価の重要性について学修 する。		
第13回	応用と総合演習Ⅰ	授業導入部での手遊びや歌遊びの実践。その重要性を説明 し実践する。		
第14回	応用と総合演習Ⅱ	模擬授業。指導者役、児童役、観察者のそれぞれ立場から よりよい音楽の授業について考える。		
第15回	応用と総合演習Ⅲ	子どもが本来持ち合わせる高い音楽性をのびのびと育む。 高い技術だけを求めることが小学校における音楽の目的で		

		はないことを確認しまとめる。
定期試験	筆記試験（記述式）	講義内容、テキストを参考に自身の考えを述べる。
テキスト 小学校指導法「音楽」梅沢一彦 編著 玉川大学出版部 2016 年 愛吟集 玉川大学出版部 小学校学習指導要領解説 音楽編（平成 29 年 3 月 文部科学省）		
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領 音楽編（平成 29 年 3 月 文部科学省） 新指導要領ハンドブック 藤田晃之他編著 時事通信出版局 2017 年 小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 音楽之友社 2020 年 改訂 音楽通論 教育芸術社 2009 年 小学館の図鑑 NEO 「音楽」 小学館 2023 年 音楽書全般		
学生に対する評価 試験 60%、授業の取り組み 20%、レポート・発表 20% 授業内での積極的な発言を促す。		

授業科目名	図工科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	小林貴史、直井 崇			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・図工			
授業のテーマ及び到達目標				
図画工作科は、美術や造形などの文化領域を主に扱い、その教育性を表現と鑑賞を通して具体化させる教科である。その意義と役割を理解し、授業運営における基礎的能力を培うために指導法を学修する。				
1. 学習指導要領を読み解くことにより、図画工作科の教育的意義について説明ができるようになる。				
2. 設定された単元を学修することにより、各教材における教育性を学び、実践に活かすことができるようになる。				
3. 学習指導案を作成するにあたり、その留意点を学び授業運営に活かすことができるようになる。				
授業の概要				
人間と表現活動のかかわりから美術教育を広義的にとらえ、図画工作科の意義と役割、教科目標や内容を学ぶ。児童の発達段階、また学習指導要領をふまえ実践的な指導方法を学ぶ。また、教材研究を主体とした演習を通して、発想や構想の引き出し方、材料・用具類・表現技法等の扱いに対する基礎的知識、授業運営上の留意点等を学び、教科指導者としての資質伸張を目指す。とくに学童期は、子どもの心身における発達が著しく、多様な活動が見込めるため、社会との関わりと主体的・対話的で深い学びの実現を視野に入れて、図画工作科の授業をとらえていく。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	図画工作科教育の意義と役割	1. 本授業の内容と運営についてのガイダンス。 2. 自らの授業経験を振り返るとともに、今日的な教育の課題と図画工作科教育について話し合う。		
第2回	図画工作科教育の歴史と理念Ⅰ	1. 近代学校教育の成立と図画工作科教育のはじまりについて学ぶ。 2. 明治期の美術教育と臨画教育に求められていたことについて理解する。		
第3回	図画工作科教育の歴史と理念Ⅱ	1. 図画工作科教育の歴史的変遷とそこに求められたことについて学ぶ。 2. 新教育運動と自由画教育から戦時下の美術教育について理解する。		
第4回	図画工作科教育の歴史と理念Ⅲ	1. 社会的背景に基づく学習指導要領の改訂とその目標と内容について学ぶ。 2. 学習指導要領の変遷と図画工作科に求められたことについて理解する。		
第5回	子どもの成長と造形活動	1. 美術教育者の理念と描画における発達段階について学ぶ。 2. 具体的な子どもの描画をもとにその特長と成長とのかかわりについて話し合う。		
第6回	学習指導要領と指導の実際	1. 学習指導要領のポイントと学校教育現場の実践を通して見えてくることについて学ぶ。 2. 教育の実際から気づいたことをもとに指導において大切にしたいことについて話し合う。		
第7回	図画工作科の内容と方法 造形遊び(1)	1. 造形遊びの教材研究を通して、活動の可能性とそこに求められる具体的な指導の手だてを見出す。 2. 活動を支える材料や環境について検討する。		
第8回	図画工作科の内容と方法 造形遊び(2)	1. 教材研究をもとにそこで培われる資質・能力と授業改善の視点について話し合う。		

		2. 活動のプロセスにおける学びの重要性について理解する。
第 9 回	図画工作科の内容と方法 絵や立体、工作に表す(1)	1. 絵や立体に表す教材研究を通して、活動の可能性とそこに求められる具体的な指導の手だてを見出す。 2. 教材研究をもとにそこで培われる資質・能力と授業改善の視点について話し合う。
第 10 回	図画工作科の内容と方法 絵や立体、工作に表す(2)	1. 工作に表す教材研究を通して、活動の可能性とそこに求められる具体的な指導の手だてを見出す。 2. 教材研究をもとにそこで培われる資質・能力と授業改善の視点について話し合う。
第 11 回	図画工作科の内容と方法 鑑賞	1. 鑑賞活動の実際と表現活動のかかわりについて、実践事例とアートカードを使ったワークをもとに学ぶ。 2. 教材研究をもとにそこで培われる資質・能力や授業改善の視点について話し合う。
第 12 回	教育課程と指導計画	1. 教育課程にもとづく教育計画への理解と、学習指導案の作成に求められることについて考える。 2. 指導と評価の一体化による授業改善のあり方について理解する。
第 13 回	授業における具体的な手だてと評価	1. 授業における具体的な手だてと評価について、授業観察を通して確認する。 2. 具体的な活動場面をもとに、情報通信技術を活用した指導の工夫を検討する。
第 14 回	学習指導案の作成と授業の実際	1. 学習指導案に求められることへの理解と、具体的な授業を想定した学習指導案を作成する。 2. 模擬授業を通して指導の実際について話し合う。
第 15 回	全体のまとめ	1. 本授業をふりかえり、図画工作科教育が担うことと可能性について話し合う。 2. 授業における自らの指導において、大切にしていきたいことについて確認する。
定期試験	(定期試験は実施しない。)	(課題等の取り組みと授業における取り組みで評価する。)
テキスト 『小学校学習指導要領解説 図画工作編 (平成 29 年 3 月公示)』文部科学省		
参考書・参考資料等 授業中に適宜プリント等を配付、および資料等を教示する。		
学生に対する評価 ・課題等の取り組み (50%) : 提出物により、図画工作科教育への理解、教材研究を通じた具体的な指導への理解、授業運営における留意点の把握について評価する。 ・授業における取り組み (50%) : ワークシート、ディスカッション等により学習の振り返りを行い、授業内容に対する考察と取り組みの姿勢を評価する。		

授業科目名	家庭科指導法	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位	
担当教員名	土屋（渋川）みさと 真田知恵子 三沢徳枝			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)・家庭			
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科の内容や授業構成を理解し、授業実践のための基本的なとらえ方を習得できる。				
授業の概要 小学校家庭科の目標は、児童が家族の一員として家庭生活を充実向上させようとする実践的態度を育成することにある。そこで本講義では、家庭科の目標や指導内容、指導方法について理解を深め、創造的な視野をもって家庭科を指導できるようにすることをねらいとしている。授業の後半では ICT 機器を用いた情報収集及び指導の在り方を検討する。さらに、どのように課題解決的な学習の授業をデザインし、改善していくのかを、グループワークを通して具体的に学んでいく。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	オリエンテーション	家庭科教育の学習意義とねらい		
第 2 回	家庭科教育の意義と本質	家庭科教育の変遷と現状		
第 3 回	家庭科の内容と指導法(1)	家庭科教育の理念 家庭科の目標と内容構成		
第 4 回	家庭科の内容と指導法(2)	小学校家庭科の現状の解説		
第 5 回	家庭科の内容と指導法(3)	小学校家庭科の教材研究と指導案作成 ICT 機器を用いた情報収集及び指導法の検討		
第 6 回	家庭科の内容と指導法(4)	衣生活に関する学習内容と指導法(1)：生活を豊かにするための布を用いた製作の意義と計画		
第 7 回	家庭科の内容と指導法(5)	衣生活に関する学習内容と指導法(2)：生活を豊かにするための布を用いた製作実習		
第 8 回	家庭科の内容と指導法(6)	衣生活に関する学習内容と指導法(3)：生活を豊かにするための布を用いた製作実習と発表		
第 9 回	家庭科の内容と指導法(7)	食生活に関する学習内容と指導法(1)：ICT 機器を用いた指導法の検討		
第 10 回	家庭科の内容と指導法(8)	食生活に関する学習内容と指導法(2)：ICT 機器を用いた指導法の検討と発表		
第 11 回	家庭科の評価と学習指導	評価の観点と評価方法および指導計画		
第 12 回	家庭科指導の実践(1)	模擬授業と反省、改善、授業づくりの課題		
第 13 回	家庭科指導の実践(2)	模擬授業と反省、改善、授業づくりの課題		
第 14 回	家庭科指導の実践(3)	模擬授業と反省、改善、授業づくりの課題		
第 15 回	総括	まとめと今後の課題		

定期試験		実施する
テキスト 小学校家庭科教科書『わたしたちの家庭科 5・6』 鳴海多恵子他 開隆堂 『小学校学習指導要領解説 家庭編』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）		
参考書・参考資料等 生活をデザインする家庭科教育 堀内かおる編 世界思想社 新版 授業力 UP 家庭科の授業 伊藤葉子編 日本標準 その他授業中に適宜資料を配布する。		
学生に対する評価 試験(小テスト)40%、授業における取り組み 20%、課題等の取り組み 40%		

授業科目名	体育科指導法	教員の免許状取得のための 選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	鈴木淳也 南島(長田)永衣子 山田 信幸 久保賢太郎			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)・体育			
授業のテーマ及び到達目標 ○小学生の発育・発達や各運動領域の特性、指導の適時性を理解し、学習指導計画を立案、作成できる。 ○講義で学んだ指導方略を適用して、模擬授業ができる。 ○模擬授業を反省的に振り返り、学習指導計画を修正したり改善したりできる。 ○情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。				
授業の概要 体育の学習指導の実践に活かすことのできる能力を身に付けることをねらいとする。 具体的には、子どもの発育・発達特性と運動特性との関連を考慮しながら、小学校体育における指導方略について学ぶ。その学習方略を踏まえ、授業を計画し、実践して、反省的に振り返ることによって、指導技術を身に付ける。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	体育のカリキュラム論	学習指導要領に基づいて体育のカリキュラム構成の学修。		
第2回	体育と学習者	子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの発達段階・発達課題を考慮した学習指導の学修。		
第3回	体育と教材・教具論	体育の授業づくりに向けた教材・教具づくり(教材研究)の学修。情報機器及び教材の効果的な活用法。		
第4回	体育の学習指導論	体育の学習指導に関する基本的な事項の学修。		
第5回	体育の学習形態論	体育の学習指導に必要な学習形態に関する基本理論の学修。		
第6回	学習指導計画(単元計画)	単元計画作成の作成と手続きの学修。		
第7回	学習指導計画(授業計画)	授業計画(本時案)の作成と手続きの学習。		
第8回	授業設計Ⅰ	体づくりの運動の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第9回	授業設計Ⅱ	器械運動系の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第10回	授業設計Ⅲ	陸上運動系の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第11回	授業設計Ⅳ	水泳系の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第12回	授業設計Ⅴ	ボール運動系の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第13回	授業設計Ⅵ	表現運動系の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第14回	授業設計Ⅶ	保健領域の学習指導計画を基に模擬授業を実施。		
第15回	まとめ	これまで学修してきた体育科指導法について総括する。		

定期試験	期末試験	これまで学修してきた体育科指導法を評価する。
テキスト なし		
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版 新版 体育科教育学入門 高橋健夫 大修館書店		
学生に対する評価 期末試験(40%) レポート(40%) 授業における取り組み(20%)		

授業科目名	外国語（英語）指導法	必修科目 （生産農学科） （情報通信工学科） （ソフトウェアサイエンス学科） （マネジメントサイエンス学科） （デザインサイエンス学科） 選択科目 （英語教育学科）	
		教員の免許状取得のための 担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位
担当教員名	尾関 はゆみ 西村秀之		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)・外国語		
授業のテーマ及び到達目標 外国語教育の背景的知識として、子どもの母語の獲得と英語の第2言語習得過程を理論的に理解し、母語の獲得過程を生かした外国語教育の内容や指導方法を理解すると共に、小学校で実際に英語を教えるための基礎的な活動、指導技術や指導案の作り方を学び、小学生を対象とした英語の授業が行えるようになる。			
授業の概要 主として小学生を対象にした外国語教育の理念や活動内容を理解し、公立小学校において実際に英語を教えることを想定した模擬授業を体験することで、実際に外国語活動の指導ができるようになる。外国語教育の目標に沿って、その背景的知識となる子どもの母語の獲得を理論的に学習した後、英語の歌、アクティビティ、絵本読み語り、教科横断型授業（CLIL）、文字指導などの指導法の特徴や教え方の実践力を養う。また、児童の表現力、発表力をつけるために、こうしたアクティビティを取り入れた教材の研究、指導案の立て方を学び、模擬授業をグループで行い、改善点を討論しながら実際に外国語科の授業ができるようする			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	児童英語活動の現状と課題	日本の小学校における外国語活動の現状と課題について、受講者と意見交換しながら検討し、望まれる英語教育の方向性を探る。さらに、実際に小学校で行われている活動内容や指導者の役割を理解する。	
第2回	母語の獲得	子どもが母語を獲得する過程-生得的な能力と学習環境-について考察する。音声知覚、言語音の獲得、単語の獲得過程を理解し、それらの外国語学習・教育への応用について、実際の調査・実験結果を通して理解する。	
第3回	学習指導要領	学習指導要領の示す小学校における外国語教育の目標、小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。	
第4回	歌とチャンツを使ったActivityの指導	歌やチャンツを通して単語や表現を習得する指導法、その利点、留意点について理解する。また、実際に音や表現を導入するために利用できる基本的な歌やチャンツを実際に練習し、使えるようにする。	
第5回	教科横断型の英語授業（CLIL）の指導（1）	理科や社会などの教科内容を、英語を使って学ぶ新しい教科横断型学習（CLIL）の指導法について、理論と実践から学ぶ。	
第6回	教科横断型の英語授業（CLIL）の指導（2）	教科横断型学習（CLIL）を取り入れた指導案を作成し、実際に模擬授業を行う。	
第7回	目標表現を発表に導くActivityの指導	授業のめあての立て方、目標表現の導入の仕方、児童期の外国語学習に有効な様々なActivityの内容と意義を理解し、その後指導方法を練習し、グループに分かれて発表し、模擬授業を行う。	
第8回	ICT等の効果的な活用の仕方についての指導	ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、その後、実際に指導方法を練習し、グループに分かれて発表、模擬授業を行う。	

第9回	音、文字指導	音と文字（名称）の指導方法の基本を理解する。グループで文字指導の指導法や教材の工夫を考察し発表する。
第10回	絵本を使った指導（1）	絵本を使った担任/ALTと児童のやりとりが、子どもの主体的で対話的な深い学びを促進すると共に、文字や構造、特に日本語と英語の構造の違いについて気づきを深める。
第11回	絵本を使った指導（2）	第10回の授業で学んだ絵本を用いてグループで指導方法を練習し、その後グループに分かれて発表する。また講評を基に、再度、模擬授業を行う。
第12回	評価法・指導案	評価の目的とその方法を理解する。実際の授業で実践できるように、指導案の立て方を学ぶ。
第13回	模擬授業（1）	本講座での学びを基に、指導案を作成し、チャンツを用いた単語・表現練習、絵本を用いた文字指導、やりとりの練習、児童のよる発表などを含めた模擬授業を行う。模擬授業の後グループ討議を持ち、改善点を話し合う。
第14回	模擬授業（2）	本講座での学びを基に、指導案を作成し、チャンツを用いた単語・表現練習、絵本を用いた文字指導、やりとりの練習、児童のよる発表などを含めた模擬授業を行う。模擬授業の後グループ討議を持ち、改善点を話し合う。
第15回	復習・まとめ	第1回からの授業や小学校での授業参観および模擬授業の体験から小学校の英語教育についての復習とまとめを行う。
定期試験	なし	
テキスト 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省。 必要に応じ授業時に指示する		
参考書・参考資料等 『小学校英語 はじめる教科書 改訂版 外国語科・外国語活動指導者養成のために -コア・カリキュラムに沿って-』小川隆夫・東仁美（著），吉田研作（監修）2021。 『学びをつなぐ小学校外国語教育の CLIL 実践 「知りたい」「伝え合いたい」「考えたい」を育てる』笹島茂・山野有紀（編著）三修社 2019。 『イラスト図解 小学校英語の教え方 25 のルール』佐藤久美子（著）講談社 2018		
学生に対する評価 授業における取り組み（課題・発表・授業参加度等）50%、模擬授業 30%、期末レポート 20%		

授業科目名	英語科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目		英語教育学科
		担当形態：オムニバス		単位数： 2 単位
担当教員名	工藤洋路 森本俊 村越亮治			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校 英語）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）・外国語			
授業のテーマ及び到達目標				
・小学校、中学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解する。 ・学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。 ・小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知る。 ・小・中の連携の在り方について理解する。 ・第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。				
授業の概要				
英語の指導法の基礎的理解を深めるために、小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領を参照し、第二言語習得理論の基礎的な知識を学びながら、それぞれの校種における英語教育の在り方を学ぶ。また、学修した指導法を用いて、具体的に模擬授業を行う。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	小学校・中学校・高等学校における英語教育 （村越）	日本の小学校・中学校・高等学校において「英語」を教科として指導することの目的や意義を確認する。		
第 2 回	小学校・中学校・高等学校の学習指導要領 （村越）	小学校・中学校・高等学校の外国語（英語）の学習指導要領を熟読し、小学校及び中学校で求められる英語教育の方向性や具体的な指導事項を確認する。		
第 3 回	小学校の検定教科書 （工藤）	小学校の外国語（英語）の教科書をいくつか概観しながら、学習指導要領の内容が教科書にどのように反映されているかを確認し、教科書を使った英語の授業の在り方を議論する。		
第 4 回	中学校の検定教科書 （村越）	中学校の外国語（英語）の教科書をいくつか概観しながら、学習指導要領の内容が教科書にどのように反映されているかを確認し、教科書を使った英語の授業の在り方を議論する。村越		
第 5 回	小学校の外国語活動・外国語科、中学校・高等学校の外国語科 （工藤）	小学校の外国語活動・外国語科、中学校・高等学校の学習指導要領を参照しながら、各校種における外国語科の指導について議論する。		
第 6 回	小学校・中学校・高等学校の連携 （工藤）	小学校における英語の指導の実態をおよび課題を踏まえた上で、中学校での英語の学習との効果的な連携を議論する。		
第 7 回	3つの資質・能力および領域別の学習到達目標 （工藤）	3つの資質・能力である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の各項目が意味することを確認し、これらの項目を組み込んだ英語の授業の在り方を議論する。		
第 8 回	外国語の習得のプロセス （森本）	応用言語学における第二言語習得理論の基礎的な内容を確認し、言語習得のプロセスに関する知識を獲得する。		
第 9 回	外国語の習得のプロセスを踏まえた授業指導 （森本）	言語習得のプロセスを踏まえた上で、日本の小学校、中学校及び高等学校において効果的な英語の指導手順を議論する。		
第 10 回	年間指導計画・単元計画・各授業時間の指導計画 （村越）	中期的および長期的な視野を持って、英語の授業を立案する方法およびその背後にある理論を学ぶ。また、各授業時間における指導計画の作り方を学修する。		
第 11 回	模擬授業（小学校対象） （工藤・森本・村越）	小学生を対象とした英語の授業を計画し、それを模擬授業の形式で実践する。		

第 12 回	模擬授業（小学校対象） （工藤・森本・村越）	ICT を活用した小学生を対象とした英語の授業を計画し、それを模擬授業の形式で実践する。
第 13 回	模擬授業（中学校対象） （工藤・森本・村越）	中学生を対象とした英語の授業を計画し、それを模擬授業の形式で実践する。
第 14 回	模擬授業（中学校対象） （工藤・森本・村越）	ICT を活用した中学生を対象とした英語の授業を計画し、それを模擬授業の形式で実践する。
第 15 回	模擬授業（小学校・中学校対象）（工藤・森本・村越）	小中連携を踏まえた小学生または中学生を対象とした英語の授業を計画し、それを模擬授業の形式で実践する。
定期試験	英語科重要用語についての理解を問うテスト	主に学習指導要領における用語や指導方法に関する基礎的な理解を測るテストを実施する。
テキスト 『中学校学習指導要領 平成 29 年 3 月』文部科学省. 『高等学校学習指導要領 平成 30 年 3 月』文部科学省. 『小学校学習指導要領 平成 29 年 3 月』文部科学省.		
参考書・参考資料等 ・酒井英樹ほか編著 (2018) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』大修館書店. ・金谷憲他 編集 (2009) 『英語授業ハンドブック＜中学校編＞』大修館書店. ・金谷憲他 編集 (2012) 『英語授業ハンドブック＜高校編＞』大修館書店. ・Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011) <i>Techniques & Principles in Language Teaching</i>. Oxford University Press. ・Richards, J & Schmidt, R. (2015) <i>Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics</i>. Longman.		
学生に対する評価 試験 [50%]、授業における取り組み（各回におけるディスカッションへの参加度や模擬授業の成果）[25%]、課題等の取り組み [25%]		

授業科目名	基礎生物学実験		教員の免許状取得のための	必修科目 生産農学科
			担当形態：単独	単位数： 2単位
担当教員名	宮田徹			
科 目	教科に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 理科）			
施行規則に定める科目区分	理科、物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験			
授業のテーマ及び到達目標				
植物、動物、昆虫、微生物など多様な生物に広く関心をもち、個々の生物がもつ特徴的な構造と特有の機能を、科学的な視点から観察し考察できるようになる。				
顕微鏡をはじめとした実験機器と器具の取り扱いを習得し、実験内容に適した観察法や実験技術を修得する。				
実験結果をスケッチやレポートにまとめ、客観的な分析と理論的な考察ができ、プレゼンテーションによる説得力のある表現を身につける。				
授業の概要				
生物の仕組み(構造)とその働き(機能)の理解は、生物の生命現象の理解につながる。動物、植物、昆虫、微生物を材料とした観察実験を通じて、実際に自分の目で観察し、頭で考えることで、科学的な事象の捉え方と結果のまとめ方、表現の仕方が修得できる。常に「なぜ」という気持ちをもって臨み、生命現象の魅力や不思議さを体感し、理解を深める。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	ガイダンス、科学的なものの見方、描画法	基礎生物学実験を受講するにあたっての心構えと諸注意。実験で課題となるスケッチの描画法について解説し、実験ノートの記入、使用方法を伝達する。		
第2回	実験レポートの作成法	緒言、材料および方法、結果、考察、参考文献という実験レポートの形式について知り、それぞれの項目で書くべき事柄、表現方法を理解する。表やグラフによる結果のまとめ方について知る。		
第3回	顕微鏡の使用法	生物の組織や細胞を観察するための基礎となる顕微鏡の使用方法を修得する。ピントの合わせ方や光軸、絞りの調節といった使用法の基本から、マイクロメーターを用いた長さの測定を行う。		
第4回	根、茎、葉の構造	双子葉類のツバキの葉を用いて徒手切片を作成し、維管束、基本組織、表皮の分化した組織や分裂組織である形成層を観察することで、植物の栄養器官の構造について学ぶ。組織、細胞の構造的な特徴や染色の違いから、各組織における機能を考え理解する。		
第5回	花の観察	植物の生殖器官である花のつくりを観察し、がく、花弁、雄ずい、雌ずいの各器官の構造を学ぶ。また実体顕微鏡の使用方法を修得しながら、葯や子房の内部構造を観察し、花粉、胚珠について学修する。		
第6回	花粉管伸長	被子植物の生殖様式を理解するために、花粉を用いて花粉管の伸長を観察する。実験から花粉管伸長に必要な条件を考察し、受粉から受精までのメカニズムを理解する。		
第7回	体細胞分裂	ネギの根の根端分裂組織を材料にして体細胞分裂の様子を観察する。シッフ試薬により染色体を染色し、押しつぶし法を習得してプレパラートを作製する。体細胞分裂の各段階を染色体の動態を中心に観察し、細胞周期のメカニズムについて理解を深める。		
第8回	昆虫の内部形態	カイコ幼虫の麻酔法、解剖実験の方法を修得し、昆虫に共通する組織、器官の構造を理解する。また繭色の考察を通して消化系の働きについて理解を得る。		

第9回	昆虫の外部形態	昆虫の基本的構造をミツバチを用いて観察し、体の構造が機能によって特殊化していることを理解する。
第10回	哺乳動物の内部形態	ラットを解剖して解剖の基本手技を学ぶとともに、脊椎動物に共通する内部形態を観察する。消化器系、呼吸循環器系、泌尿生殖系などの器官系を順に観察して、それらを構成する器官（臓器）や組織の形状、大きさ、色、配置などを機能とも照らし合わせながら理解する
第11回	ゾウリムシの観察	原生生物であるゾウリムシの構造を生物顕微鏡で観察するとともに、生得的行動の特性について理解する。大核、小核、食胞、収縮胞、繊毛といった原生生物の基本構造を観察する。障害物に接した際の回避行動や、化学物質への反応である化学走性を比較し、遺伝的にプログラムされた行動である生得的行動について学修する。
第12回	アルコール発酵	酵母を用いてアルコール発酵を行い、グルコース濃度と温度、pHの違いと発酵能との関連性を調べる。微生物の代謝過程を理解すると共に、食料生産における微生物の利用を考察する。
第13回	振り返り、レポート返却	課題を返却し、改善点を指導する。返却されたスケッチとレポートの適、不適な部分をよく考え、より良い観察、レポート作成につなげる。受講している他の講義との関連を意識し、生物学や農学の知識の修得、様々な事象の見方、考え方について理解を深める。
第14回	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションの意味を考え、よいプレゼンテーションをするにはどのようなことに気を配るべきかというマナーや技法を学ぶ。またプレゼンテーションのツールとしてのパワーポイントの作り方のコツなども学ぶ。
第15回	プレゼンテーション	2回目から12回目の実験から1つのテーマを選び、発表する。発表は実験の目的から方法、手順、実験結果を含め、その実験を通して何を考え理解したかを、振り返りを基にスライドを作成して行う。
定期試験	期末試験なし	期末試験なし

テキスト

新訂生産農学実験書 玉川大学農学部生産農学科編

参考書・参考資料等

現代生物学図説 荒木忠雄 培風館 4-563-03804-0

図説現代生物学 新津恒良 丸善 4-621-03917-2

基礎生物学実験 基礎生物学実験書編集委員会編 九州大学出版 4-87378-503-0

学生に対する評価

授業における取り組み(20%)。実験に対する積極的な取り組み、態度を評価する。共同作業を通してコミュニケーションをとりながら円滑に実験が進められるかを評価する。

実験の課題としてスケッチ(30%)、レポート(30%)を課す。スケッチは実験の目的を理解し、観察すべき生物の構造を適切な描画法にて名称とともに正確に描き表すことが求められる。レポートは緒言が実験の目的を理解し述べられ、方法を再現できるように記入し、実験結果を客観的に分析し図表で表現し、関連する事柄を正確に調べ、自らの言葉で考察を論述することが求められる。

実験ノートを作成する(10%)。予め調べた事柄、実験の方法や注意点、実験結果などを記入してまとめる。

返却されたスケッチとレポートは指導に基づいて振り返り、改善点などをポートフォリオにまとめる(10%)。

授業科目名	化学 B	教員の免許状取得のための 必修科目 生産農学科	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	八並一寿		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・理科 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 化学的なものの見方や考え方を養うことができる。水溶液内の反応、熱力学、化学平衡、液体・固体の性質、反応速度、化学平衡の概念などを理解できる。生涯学習能力として、化学的見地から自然現象を理解できる。小学校理科の化学的分野の教材、教科書の説明内容や記述について知る。			
授業の概要 生命現象の理解、あるいはバイオテクノロジーの創出・応用には、化学的な視野が不可欠である。化学の基本となる原子の構造、物質の反応などについて論じる。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	水溶液内の反応 1	化学反応の様式、水溶液中の電解質、水溶液内反応および正味のイオン反応を解説する。沈殿反応と溶解度の判断基準、酸、塩基および中和反応、酸化還元反応を理解する。	
第 2 回	水溶液内の反応 2	反応が起こる一般的な様式を学習する。酸化還元反応の特定、単体の活性系列を解説する。酸化還元反応式の収支をあわせること、半反応の方法ならびに酸化還元反応の化学量論、酸化還元反応の応用を理解する。	
第 3 回	熱化学 1	エネルギーの様々な形態を探り、化学反応に伴って吸収・放出される熱エネルギーを扱う。 エネルギーとその変化、熱エネルギーと状態関数、膨張による仕事を解説する。エネルギーとエンタルピー、熱力学的標準状態、物理変化・化学変化に伴うエンタルピーを理解する。	
第 4 回	熱化学 2	反応に伴って移動する熱量の計測法、ヘスの法則、標準生成熱 結合解離エネルギー、化石燃料、燃料効率、燃焼熱、エントロピー、自由エネルギーを解説する。	
第 5 回	気体 1	気体研究の歴史、気体の振る舞いの記述法を学ぶ。気体と気体の圧力、気体の法則を解説する。理想気体の法則と気体の化学量論関係を理解する。	
第 6 回	気体 2	分圧、ドルトンの法則、気体分子運動論、グラハムの法則、実存気体、地球の大気について学習する。	
第 7 回	溶液、固体と相変化 1	液体や固体の性質を支配する力の本性を調べ、固体中での粒子の整列とその結果生じる、さまざまな固体を学ぶ。極性共有結合と双極子モーメント、分子間力を解説する。液体の性質と相変化を理解する。	
第 8 回	溶液、固体と相変化 2	固体、液体、気体の間の転移がどのように起こるか、転移を起こす圧力や温度の効果を解説する。蒸発、蒸気圧と沸点、固体の種類を解説する。結晶構造、結晶の単位格子、空間充填モデル、イオン結晶の構造、共有結合結晶の構造、相図を理解する。	
第 9 回	溶液とその性質 1	溶液と呼ばれる混合物について、溶液、エネルギー変化、溶解、濃度、単位、溶解度を学ぶ。	
第 10 回	溶液とその性質 2	溶液と呼ばれる混合物について、ラウールの法則、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、束一的性質の利用、分別蒸留を学ぶ。	
第 11 回	化学反応速度論 1	反応速度について、濃度や温度などの変化で、どのように変わるかを解説する。反応速度、反応速度式と反応次数、反応	

		速度式の実験による決定について解説する。一次反応の反応速度式の積分形、一次反応の半減期、放射壊変速度を理解する。
第 12 回	化学反応速度論 2	反応速度のデーターを使って反応の機構や経路をあきらかにする方法を学習する。反応機構がわかれば、既知の反応の制御や未知の反応の予測が可能なことを学ぶ。
第 13 回	化学平衡 1	平衡状態における反応物と生成物の混合物を平衡混合物という。この平衡混合物の組成に関する問題を学ぶ。平衡状態、平衡定数 K_c 、平衡定数 K_p 、不均一平衡を解説する。平衡定数の応用、平衡混合物の組成の変化とルシャトリエの原理を理解する。
第 14 回	化学平衡 2	初期濃度から平衡状態の濃度がどのようにして決まるか、平衡混合物の組成を変えるにはどのような因子を操作するかを学ぶ。濃度変化と平衡混合物の変化、圧力および体積の変化と平衡混合物の変化、温度変化と平衡混合物の変化を解説する。平衡への触媒の影響、化学平衡と化学反応速度論のつながりを理解する。
第 15 回	小学校理科における物質の構成と変化ならびに本講義で学んだ内容との関連	小学校 3～6 年における物と重さ、空気と水の性質、金属、水、空気と温度、物の溶け方、燃焼の仕組み、水溶液の性質の指導内容と、本講義で解説した内容のつながりや発展性を解説する。
定期試験	第 1 回～第 15 回の全テーマ	第 1 回～第 15 回の全テーマに関連した筆記試験を行う。
テキスト マクマリー一般化学（上）（下） ISBN 978-4-8079-0742-7 ISBN 978-4-8079-0743-4		
参考書・参考資料等 授業時に指示する。		
学生に対する評価 試験（中間＋期末）50% レポート 30% 授業態度 課題等の取り組み 20%		

授業科目名	生物学 B	教員の免許状取得のための		必修科目 生産農学科
		担当形態：クラス分け・単独		単位数： 2 単位
担当教員名	有泉高史 佐々木哲彦			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 理科）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 理科 ・ 生物学			
授業のテーマ及び到達目標 細胞を中心に生命現象の全体像を捉えながら生命科学の基礎知識を身につけることをテーマに、以下の事柄を説明できるようになることを到達目標とする。①細胞の構成物質と遺伝子DNAについて、その構造や機能、遺伝情報の発現機構を理解し説明できるようになる。②細胞の微細構造と個々の細胞が機能するための基本原理を理解し説明できるようになる。③細胞どうしの相互作用として、細胞間のシグナル伝達や受精、発生について理解を深め、それらのメカニズムを説明できるようになる。				
授業の概要 近年、生命科学は爆発的な勢いで発展してきており、研究内容は医学や農学、工学などさまざまな応用分野にまで広がりを見せている。ところが多くの生命現象が分子レベルで解き明かされつつある一方で、生命現象の全体像をつかむことは極めて困難になりつつある。本講義では、生命の基本単位である「細胞」を中心として、細胞の構造と細胞を構成するDNAやタンパク質などの分子について基礎的な事項を学んだのち、細胞どうしの情報伝達や細胞分化、生殖や発生などの仕組みを理解して生命現象の全体像を捉えていく。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	ガイダンス・生物とは	講義の進め方と評価の方法、参考文献などを紹介する。「生物とは何か」について細胞を中心に考える。		
第2回	細胞を構成する物質	細胞を構成するタンパク質・糖・脂質などについて解説する。タンパク質については構造と機能について詳しく解説する。		
第3回	遺伝子とDNA	遺伝子DNAがどのような物質であるかを説明するとともに、DNAの複製のメカニズムを詳しく解説する。		
第4回	遺伝子の発現	遺伝子の転写と翻訳のメカニズムについてCGを交えて紹介し、遺伝情報の発現の仕組みを詳しく解説する。		
第5回	遺伝子発現の調節	遺伝子発現の調節機構を原核生物と真核生物に分けて説明する。エピジェネティックな遺伝子の発現制御にも触れる。		
第6回	細胞内小器官と生体膜	細胞を構成する細胞内小器官と生体膜について解説するとともに、膜輸送や神経細胞の膜電位なども解説する。		
第7回	細胞骨格と細胞運動	アクチン繊維や微小管などの細胞骨格を解説し、筋収縮や繊毛運動などの細胞運動の分子メカニズムを解説する。		
第8回	代謝	酵素反応と酵素活性の調節機構、解糖系やクエン酸回路などのエネルギー産生系について解説する。		
第9回	生体エネルギー	生体エネルギーであるATPについて解説し、ミトコンドリアでの呼吸と葉緑体での光合成のメカニズムを解説する。		
第10回	細胞分裂と細胞周期	細胞分裂と細胞周期について解説するとともに、細胞周期の制御機構やアポトーシス、細胞のガン化にも触れる。		
第11回	シグナル伝達	細胞がシグナルを受容して細胞内に伝えるまでの情報伝達の仕組みについてCGなどを交えて詳しく解説する。		
第12回	生殖	有性生殖と無性生殖の様式、減数分裂の仕組みと生物学的な意義について詳しく解説する。		
第13回	受精と胚発生	配偶子の形成過程、受精や卵割の過程を解説するとともに、その分子メカニズムを詳しく解説する。		

第 14 回	細胞分化と器官形成	誘導と細胞分化の仕組み、器官が形成される仕組みについて映像を交えて解説する。再生医療の現状と課題にも触れる。
第 15 回	まとめ	本講義で解説した内容について特に重要な項目について整理するとともに、定期試験の論述方法などを解説する。
定期試験	論述問題	15 回の授業内容の中から特に重要な生命現象を選び、それらの仕組みや生物学的な意義を論述する。
テキスト 1. エッセンシャル・キャンベル生物学（伊藤 元己・池内 昌彦・箸本 春樹／翻訳）丸善出版 2. カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学（デイヴィッド・サダヴァ／著、中村千春・石崎泰樹・小松佳代子／訳）講談社 3. カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学（デイヴィッド・サダヴァ／著、石崎泰樹・中村千春・小松佳代子／訳）講談社		
参考書・参考資料等 なし		
学生に対する評価 定期試験 100% 15 回の授業内容について論述形式の試験を行う。4～5 問の論述問題を出題し、内容の理解度と文章による説明能力を評価して成績をつける。		

授業科目名	基礎化学実験	教員の免許状取得のための	必修科目 生産農 学科
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	佐藤一臣		
科 目	教科に関する専門的事項（小学校、中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める科目区分	・理科 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 実験の基本的な考え方・原理等の理解・補完はもちろんのこと、用いる試薬の性質や調整方法、実験廃棄物の分別方法、実験器具や分析機器の取り扱い方法等に加えて、実験結果のまとめ方・表現の仕方等の理解・修得ができる。			
授業の概要 化学あるいは分析化学などの講義科目で学ぶ様々な化学的考え方や分析手法などを文字や図表として理解するだけでなく、基礎的・基本的な操作技術を体得し、様々な現象を自分の目で捉えるためにも非常に重要な科目である。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス・安全教育	レポート、実験ノートの書き方について学ぶ。 実験を安全に行うために、注意すべき点について学ぶ。	
第 2 回	pH・酸・塩基の理論	酸と塩基、中和反応、緩衝液の性質について学ぶ。	
第 3 回	中和滴定	中和滴定実験の実際について学ぶ。	
第 4 回	滴定曲線	滴定曲線の作成法について学ぶ。	
第 5 回	緩衝液	緩衝液の作成法・緩衝液の性質について学ぶ。	
第 6 回	分属・溶解度の理論	分属・溶解度の理論について学ぶ。	
第 7 回	陽イオン定性	陽イオン定性実験について学ぶ。 各個イオンの性質について学ぶ。	
第 8 回	有機合成・クロマトグラフィーの理論	有機合成・クロマトグラフィーの理論について学ぶ。	
第 9 回	アセトアニリドの合成	アセトアニリドの合成実験の実際について学ぶとともに、 合成品をクロマトグラフィーで確認する方法を学ぶ。	
第 10 回	反応速度の理論	反応速度の理論について学ぶ。	
第 11 回	反応速度	反応速度実験の実際について、反応温度が変化した場合の 速度の変化について学ぶ。	
第 12 回	分光分析・Lambert-Beer の法則の理論	分光分析・Lambert-Beer の法則の理論について学ぶ。	
第 13 回	比色分析	比色分析の実際について、Fe(Ⅱ)イオンを定量する。	
第 14 回	総合演習Ⅰ	pH から緩衝液の範囲における実験手順や操作法などの、総合 的な演習を行う。	
第 15 回	総合演習Ⅱ	陽イオン定性から比色分析における実験手順や操作法など の、総合的な演習を行う。	
定期試験	筆記試験	これまで学んだ実験における実験手順や操作法などの、総合 的な知識を問う。	
テキスト 「基礎化学実験」テキストをガイダンス時に配布する。			
参考書・参考資料等 新版 実験を安全に行うために 化学同人 ISBN 4759810811 新版 続・実験を安全に行うために 化学同人 ISBN 4759809589			
学生に対する評価 実験レポート 40%、実験への取り組み方 30%、理解度確認テストおよび実験ノート 30%			

授業科目名	物理学	教員の免許状取得のための	必修科目 生産農学科
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	黒田 潔		
科 目	教科に関する専門的事項（小学校、中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める科目区分		・理科 ・物理学	
授業のテーマ及び到達目標			
テーマには、力学・熱・波・電磁気学・原子物理学に関する比較的基礎的な物理現象が含まれる。まず物理量の表し方を学修する。その後、力学においては、運動の表し方・重力による運動・力のつりあい・運動の三法則・仕事と力学的エネルギーについて、熱においては、理想気体の分子運動論・仕事と熱量・熱量の保存と比熱学について、波においては、波の要素・干渉・反射・屈折・回折現象等などについて、電磁気学においては、電荷・電気力・電場・電位・電気回路・電流が作る磁場、最後に原子物理学においては、原子構造・波動性・粒子性・エネルギー状態・原子核・崩壊・放射能などについて学修する。適宜グループ討議や反転授業のようなアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が能動的に学修できるよう構成する。また小学校における理科の物理分野の学習指導要領並びに教材、教科書についても確認する。			
到達目標は以下のとおりである。			
(1) 上記で学修する物理概念や法則を定式化でき、指定された物理量を正しく計算できるようになる。			
(2) 上記で学修する物理現象の原理を式や用語を用いて簡単に説明できるようになる。			
授業の概要			
生命現象を理解するにあたり、一般的な科学的視野・センスを持つ必要がある。その一分野として基礎的な物理学が挙げられる。物理学は応用範囲が広く、原子や分子の構造論、様々な分析技術を学ぶために必ず必要となる。基本的な物理概念について学び、原理原則に則った物理現象について考察することにより、現象に科学的および物理学的な説明を与えることができるようになることを目的とする。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス 初期試験	(1) 授業の進め方、評価方法などを説明する。 (2) 授業で学ぶことについて学修する。 (3) 物理学知識確認試験を行う。最終成績には反映されない。	
第 2 回	物理量の表し方 [物理量・SI 単位・量記号と単位記号・指数表記・SI 接頭語・有効数字・三角比]	(1) 物理量、単位について学修する。 (2) 指数表記、SI 接頭語について学修する。 (3) 有効数字、四則演算におけるその取り扱い方を学修する。 (4) 三角比、ベクトルについて学修する	
第 3 回	運動の表し方 [ベクトル・位置・変位・速度・等速直線運動・加速度・等加速度直線運動]	(1) 位置、変位と移動距離について学修する。 (2) 速度と速さについて学修する。 (3) 等速直線運動について学修する。 (4) 加速度について学修する。 (5) 等加速度直線運動について学修する。	
第 4 回	重力による運動 [重力加速度・自由落下・鉛直投げ下ろし・鉛直投げ上げ・水平投射・斜方投射]	(1) 重力加速度について学修する。 (2) 自由落下、鉛直投げ下ろしについて学修する。 (3) 鉛直投げ上げについて学修する。 (4) 水平投射、斜方投射について学修する。	
第 5 回	いろいろな力と力のつりあい [力・力の表し方・力の合成と分解・力のつりあい・重力・万有引力・垂直抗力・摩擦力]	(1) 力、力の表し方、力の合成と分解について学修する。 (2) 力のつりあいについて学修する。 (3) 重力、万有引力について学修する。 (4) 重力、垂直抗力、および摩擦に関する力のつりあいについて学修する。	
第 6 回	運動の三法則 [慣性の法則・運動の法則作用反作用の法則・運動方程式]	(1) 慣性の法則について学修する。 (2) 運動の法則について学修する。 (3) 作用反作用の法則について学修する。 (4) 運動方程式の立て方について学修する。	

第7回	仕事と力学的エネルギー [仕事・仕事率・運動エネルギー・重力による位置エネルギー・力学的エネルギーの保存]	(1) 仕事、仕事率、エネルギーについて学修する。 (2) 力学的エネルギーについて学修する。Ⅴ (3) 運動エネルギー、重力による位置エネルギーについて学修する。 (4) 力学的エネルギーの保存について学修する。
第8回	理想気体の分子運動 [温度・熱・仕事]	(1) 理想気体の分子運動論について学修する。
第9回	理想気体におよぼす仕事と熱量 [ボイル・シャルルの法則・比熱・熱量保存]	(1) 理想気体におよぼす仕事について学修する。 (2) ボイル・シャルルの法則について学修する。 (3) 比熱について学修する。 (4) 熱量保存の法則について学修する。
第10回	波の要素・干渉 [正弦波・波の式・周期・波長・位相・横波と縦波・固定端と自由端・重ね合わせ・干渉]	(1) 波の形を表す式（正弦波）について学修する。 (2) 波の特微量(周期・波長・振動数・位相)について学修する。 (3) 横波と縦波について学修する。 (4) 固定端と自由端について学修する。 (5) 波の重ね合わせについて学修する。
第11回	波の反射・屈折・回折 [反射の法則・屈折の法則・全反射・回折]	(1) 波の反射の法則について学修する。 (2) 波の屈折の法則について学修する。 (3) 波の回折現象について学修する。
第12回	電荷・電気力・電場・電位 [電荷・クーロンの法則・一様な電場・電気力による位置エネルギー・電位]	(1) 電荷について学修する。 (2) クーロンの法則について学修する。 (3) 電場について学修する。 (4) 電位について学修する。
第13回	電気回路 [電流・電圧・電気抵抗、抵抗率・オームの法則・電力合成抵抗・直列接続・並列接続]	(1) 電流・電圧・電気抵抗・抵抗率について学修する。 (2) オームの法則について学修する。 (3) 電力について学修する。 (4) 抵抗の直列接続・並列接続・合成抵抗について学修する。 グループで電気抵抗の接続について議論する。
第14回	電流と磁気 [磁気・ローレンツ力・磁束密度]	(1) 電流が作る磁場について学修する。 (2) 磁場中を運動する電荷が受ける力について学修する。 (3) 磁場の変化と電流の関係について学修する。
第15回	原子物理学 [原子の構造・光と電子の二重性・不確定性原理・原子のエネルギー状態・原子核の崩壊・核エネルギー・放射能・放射線]	(1) 原子の構造について学修する。 (2) 光・電子が波動性・粒子性を示すことについて学修する。 (3) 原子のエネルギー状態と原子の放射する光が線スペクトルを示すことについて学修する。 (4) 原子核の崩壊と核エネルギーの関連性および放射能・放射線の基本知識について学修する。
定期試験	授業全範囲について実施	授業全範囲の重要項目について試験を実施する。

テキスト

Primary 大学テキストこれだけはおさえたい物理／金原 繁 編著 曾江 久美・筑紫 格・馬場 茂・藤井 恵子 著／実教出版／ISBN Code: 978-4-407-31642-1

参考書・参考資料等

物理学基礎問題集／玉川大学工学部 物理研究室 編著／玉川学園 DTS
自製プリント（原子物理学の範囲）／玉川大学工学部 物理研究室 編著

学生に対する評価

試験では割合を 80%として評価する。評価観点は以下のとおりである。

- (1) 物理的概念や物理法則を定式化できる。
- (2) 指定された物理量を正しく求められる。
- (3) 物理現象の原理を式や用語を用いて簡単に説明できる。

課題等の取り組みでは割合を 20%として評価する。評価観点は以下のとおりである。

- (1) 授業後に出された課題に正答できる。
- (2) 提出期限までに提出できる。

授業科目名	地学	教員の免許状取得のための		必修科目 生産農学科
		担当形態：単独		単位数： 2 単位
担当教員名	山下 浩之			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 理科）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学			
授業のテーマ及び到達目標 ・自然界で起きている様々な地学現象について理解できるように、小学校に対応できる基礎知識から、高校で対応できる応用的な知識までを広く学習し、他者に説明ができるようになる。 ・小学校及び中学校、高等学校の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解する。				
授業の概要 地球に関する様々な分野（宇宙・固体地球・大気・海洋・生命・地球環境など）の基本的な事項を学び、46 億年の歴史を経て、現在の地球がどのようにして成り立っているのかを説明できるようになることを目的とする。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	地学とはどのような科学か？	宇宙、銀河系、太陽系、地球、生物をキーワードに、地球科学とはどのような学問分野かを学習する		
第 2 回	地球を調べた人々	自然哲学、地球観、科学史をキーワードに、これまでに地球はどのように調べられてきたか、地球の研究の歴史を学習する		
第 3 回	地震と活断層	地震動、地震波、活断層、プレートテクトニクスをキーワードに、地震が起きるメカニズム、場所、種類などについて考える。中学校 1 年生で扱う「大地の成り立ちと変化」に対応		
第 4 回	地球の層構造	地殻、マントル、核、地球内部構造をキーワードに、地球の構造と組成、大陸と海洋の違いについて考える		
第 5 回	地層の形成と地質構造	地層、堆積、地質構造をキーワードに、地層の成り立ちや地形について考える。小学校および中学校 1 年生で扱う「大地の成り立ちと変化」に対応		
第 6 回	鉱物・岩石	鉱物・岩石をキーワードに、岩石の基となる鉱物と、大地をつくる岩石の成因とその相関について考える。中学校 1 年生で扱う「大地の成り立ちと変化」に対応		
第 7 回	地球と生命の歴史Ⅰ	地球形成、生命誕生、大気・海洋・大陸の形成をキーワードに、地球誕生から大型生命誕生までの 40 億年の歴史を考える。固体地球、海洋、大気の循環を考える		
第 8 回	地球と生命の歴史Ⅱ	カンブリア大爆発、大量絶滅、気候変動をキーワードに、大型生物の誕生から現在まで 6 億年の歴史を考える		
第 9 回	プレートテクトニクスとプルームテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、マントル対流、物質循環をキーワードに、地球内部の熱と物質の循環と、その影響によるダイナミックな地殻変動について考える		
第 10 回	日本列島の誕生と生い立ち・南関東の生い立ち	プレート、日本海拡大、フォッサマグナ、箱根火山をキーワードに、日本列島形成と南関東の大地の生い立ちに関して地球科学的な歴史を考える		
第 11 回	火山	マグマ、火山噴火、火山形態をキーワードに、火山が生じるメカニズム、火山が存在する場所、火山の形態について考える。中学校 1 年生で扱う「大地の成り立ちと変化」に対応		
第 12 回	宇宙・銀河系・太陽系の中の地球Ⅰ	宇宙、銀河系、恒星、太陽系をキーワードに、宇宙・銀河・恒星・太陽系の形成やメカニズムを理解する。小学校および中学校 3 年生で扱う「地球と宇宙」に対応		

第 13 回	宇宙・銀河系・太陽系の中の地球ⅠⅡ	太陽系、地球環境、固体地球をキーワードに、太陽系の中の惑星としての地球の特徴を理解し、地球の環境について考える。小学校および中学校 3 年生で扱う「地球と宇宙」に対応
第 14 回	大気 of 構造	大気 of 構造、気象をキーワードに、地球を取り巻く大気 of 構造と役割及び気象現象について考える。小学校および中学校 2 年生で扱う「気象とその変化」に対応
第 15 回	海洋 of 構造・気候変動	海洋、海流、海底地形をキーワードに、地球における海洋 of 構造と、その役割について考える。また、大気、海洋、気候、天体活動をキーワードに、大気と海洋の相互作用による気候変動について考える
定期試験	実施	地学に関する課題について説明を求める。

テキスト

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）

【理科編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示 7 月、文部科学省）解説

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）

【理科編】中学校学習指導要領（平成 29 年 7 月告示、文部科学省）解説

高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）

【理科編 理数編】高等学校学習指導要領（平成 30 年 7 月告示、文部科学省）解説

参考書・参考資料等

毎回資料を配布する

学生に対する評価

自然界で起きている様々な地学現象について理解できるように、科学的な基礎知識を習得し、他者に説明ができるようになったかを評価する。定期試験（70%）、毎回の授業で提出するワークシート（30%）で評価を行う。

授業科目名	理科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目		生産農学科
		担当形態：単独	単位数：2単位	
担当教員名	有泉高史			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・理科、中学校・理科）			
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）			
授業のテーマ及び到達目標				
・学習指導要領や教育法規の内容を理解し、実践に即した学習指導計画と学習指導案を作成できるようになる。				
・小学校と中学校の理科の内容やカリキュラム構成を理解し、授業を組み立てて実施できるようになる。				
授業の概要				
理科教育の概念や教育法規に関する基本事項を学び、小学校と中学校の理科教員として必要な教育方法と教育技術を身につける。講義では中学校における理科指導中心に解説するが、小学校の理科指導に関連した内容も扱う。第11回以降は受講生が主体的に模擬授業に取り組み、授業内容や学習指導案について受講生全員で討論を行って授業力の向上を図る。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	ガイダンス 日本の理科教育の変遷	授業の進め方や評価の方法、テキスト等を説明する日本の理科教育の変遷を分析しながら学修する。		
第2回	理科教育の目標と教育法規	日本の理科教育が目指すものについて、理科教育の目標の変遷と法的根拠を分析しながら学修する。		
第3回	これからの理科指導 学習指導要領	小学校と中学校の学習指導要領の概要と諸課題について、学校に関する法規と関連付けながら解説し、各自が分析を行う。		
第4回	授業計画 理科授業	教育課程を編成する上で重要な学習指導計画を分析する学習指導要領の目標を達成するための授業の導入を考える。		
第5回	理科授業	学習指導要領の目標を達成するための授業とはどのようなものか、授業の展開からまとめについて考える。		
第6回	学習指導案とは	授業を行うための指導計画である学習指導案の作成方法を具体的な事例を確認しながら学修する		
第7回	主体的・対話的で深い学び	小学校との理科指導のポイントである主体的・対話的で深い学びについての理解を深める。		
第8回	問題解決的な学習 探究的な学習	問題解決的な学習と探求的な学習の考えと指導法について学修探究的な学びの流れを理解する。		
第9回	ICTを活用した授業	生徒1人1台端末に対応した授業方法やリモートにおける授業法について、タブレット端末を操作しながら学修する。		
第10回	理科授業の進め方 （授業体験）	理科の授業を実施するための教育方法と技術について、中学校の理科授業を体験して学修する。		
第11回	模擬授業演習①	受講者が選択した単元の導入（10分程度）の模擬授業を実施する。授業後に学習指導案の内容も含めて協議し発表する。		
第12回	模擬授業演習②	受講者が選択した単元の導入（10分程度）の模擬授業を行う。授業後に学習指導案の内容も含めて協議し発表する。		
第13回	模擬授業演習③	受講者が選択した単元の導入（10分程度）の模擬授業を行う。授業後に学習指導案の内容も含めて協議し発表する。		
第14回	模擬授業演習④	受講者が選択した単元の導入（10分程度）の模擬授業を行う。授業後に学習指導案の内容も含めて協議し発表する。		
第15回	模擬授業演習⑤	受講者が選択した単元の導入（10分程度）の模擬授業を行う。授業後に学習指導案の内容も含めて協議し発表する。		
定期試験		学期末試験は実施しない。		

テキスト 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 理科編、文部科学省、東洋館出版 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 理科編、文部科学省、大日本図書 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所 東洋館出版社 「新指導要領対応 新訂 授業に活かす！理科教育法－中学・高等学校編－」左巻健男編著 東京書籍
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、東洋館出版 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、東山書房
学生に対する評価 レポート 50%：教育法規や学習指導要領、理科指導法に関するレポートを通して、理解度や理科授業に対する考え方を評価する。 模擬授業 20%：模擬授業および授業後の協議への取り組みを評価する。 学習指導案 30%：学習指導案の内容と完成度を評価する。

授業科目名	代数学 I	教員の免許状取得のための 必修科目 工学部	
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位
担当教員名	朝山 芳弘（情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科） 成川 康男（情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科） 佐藤 健治（情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科） 雨宮 将人（ソフトウェアサイエンス学科）		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める科目区分		・算数 ・代数学	
授業のテーマ及び到達目標 行列式や固有値、固有ベクトルの定義を理解し計算できること。その応用として対角化ができること。			
授業の概要 「代数学入門」に引き続き、線形代数学の基本的な理論とその応用を扱う。前半では、行列式とその応用について学び、後半では行列の対角化の問題と関連して固有値問題を学ぶ。「代数学入門」を既に受講していないと本講義の理解は困難である。授業は演習を交えながら知識の定着を図りながら進める。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	行列式（行列式）	行列式の定義を理解し、定義に基づいて計算できることを目標とする。	
第 2 回	行列式（行列式）	行列式の性質を理解し、説明できることを目標とする。	
第 3 回	行列式（行列式）	積公式、行に関する性質を理解し、それらを行列式の計算に生かすことができることを目標とする。	
第 4 回	行列式（余因子展開）	余因子展開を理解し、それを用いて行列式を計算できることを目標とする。	
第 5 回	行列式（行列式）	余因子展開に関する演習を行う。様々な行列式を適切に計算できることを目標とする。	
第 6 回	行列式（行列式）	1～5 回目の内容について演習を行い、行列式を適切に計算できることを目標とする。	
第 7 回	行列式の応用（正則性）	正則の条件と逆行列の公式を導出する。それに基づいて行列の正則性を判断し、逆行列を求めることができることを目標とする。	
第 8 回	行列式の応用（クラメル）	クラメルの公式を導出し、それを用いて連立方程式を解くことができることを目標とする。	
第 9 回	中間試験	中間試験を行う。	
第 10 回	行列の対角化（固有値、固有ベクトル）	固有値と固有ベクトルについて定義を理解し、求めることができることを目標とする。	
第 11 回	行列の対角化（固有値、固有ベクトル）	演習を通じて、行列式の知識を適切に活用して、固有値と固有ベクトルを効率よく計算できることを目標とする。	
第 12 回	行列の対角化（対角化）	対角化の原理を理解し、行列を対角化できることを目標とする。	
第 13 回	行列の対角化（対角化）	演習を通じて、様々な行列に対して適切に対角化できることを目標とする。	
第 14 回	行列の対角化（対角化）	対角化可能性の判定条件を理解し、対角化可能性を判断した上で行列を対角化できることを目標とする。	
第 15 回	演習（対角化）	演習を通じて、対角化可能性の判断と、対角化の計算に習熟することを目標とする。	
定期試験	期末試験	試験を実施する。	

テキスト 『基礎線形代数』菅原昭博著 横浜図書 ISBN4-946552-23-5
参考書・参考資料等 あれば授業時に指示する
学生に対する評価 試験（60%）、課題（30%）、授業における取り組み（10%）を総合して成績評価する。進行状況によっては、試験以外の学習活動を点数化し、試験の成績に加算する可能性もある。試験以外の学習活動とは、作成したノートの数等を指す。

授業科目名	幾何学Ⅰ	教員の免許状取得のための	必修科目	工学部
		担当形態：単独	単位数：	2 単位
担当教員名	佐藤健治			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学）			
施行規則に定める科目区分	・算数 ・幾何学			
授業のテーマ及び到達目標 各回のさまざまな話題を聞き幾何学の多様性を説明できるようになること				
授業の概要 幾何学のさまざまな話題について学び理解することを目的とする。概ね予備知識は必要としないが、「ケプラーとニュートン」、「微分幾何」については微分、積分の計算に慣れている必要がある（ただし「微分幾何」は「幾何学Ⅰ」でなく「幾何学Ⅱ」で学ぶ可能性あり）。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	ガイダンス（幾何学）	この授業の概要の説明、掛谷の針の問題の紹介		
第2回	九点円（前）（五心）	三角形の五心、九点円について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第3回	九点円（後）（九点円）	平面幾何学の最高峰、フォイエルバッハの定理について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第4回	結び目理論（結び目）	結び目を多項式で区別する方法について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第5回	立体幾何（四面体）	四面体の五心について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第6回	球面幾何（前）（球面三角形）	球面三角形の面積について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第7回	球面幾何（後）（レクセル）	レクセルの定理について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第8回	多面体の分解合同（分解合同）	等面積な多角形はつねに分解合同であること、等体積で分解合同でない多面体の例が存在すること（正四面体と立方体）について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第9回	ケプラーとニュートン（ケプラー、ニュートン）	惑星の軌道が楕円である理由について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第10回	三点からの距離の和（距離の和）	平面上の三角形内の点で三頂点からの距離の和が最小になる点について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第11回	ナポレオンの定理（ナポレオン）	三角形の辺に隣接させた正三角形たちの性質、その「三点からの距離の和」との関係について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第12回	等周問題、掛谷の針の問題（掛谷）	周長 2π の図形の最大面積、長さ1の針の回転できる図形の最小面積について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第13回	正多角形の作図（定規、コンパス）	正十七角形は定規とコンパスのみで作図できることなどについて証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
第14回	四色問題（四色問題）	平面上の地図塗り分けの六色定理の証明、五色定理の証明、四色定理の誤った証明とその補正について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。		

第 15 回	微分幾何（曲面）	曲面の接ベクトル、法ベクトル、第一基本形式、第二基本形式、ガウス曲率、平均曲率、極小曲面について証明を理解し、説明できるようになることを目標とする。
定期試験	期末試験	試験を実施する。
テキスト なし		
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する		
学生に対する評価 定期試験（70％）、そのほか中間試験など（30％）		

授業科目名	確率統計学Ⅰ		教員の免許状取得のための の必修科目		工学部
			担当形態：単独	単位数： 2 単位	
担当教員名	朝山 芳弘（ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科） 成川 康男（ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科） 折登（佐野） 由希子（ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科）、 児玉 基（情報通信工学科）				
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学）				
施行規則に定める科目区分	・算数 ・「確率論、統計学」				
授業のテーマ及び到達目標 確率変数と確率分布について理解し、様々な基本分布の特性を把握し、生のデータを整理・分析して得られた数値をどのように解釈すればよいのか判断ができるようになる。					
授業の概要 確率統計学の基礎知識から始め、確率変数と分布関数では様々な基本分布を具体例とともに学び、大数の法則と中心極限定理を最後に学習する。					
授業計画	テーマ	内 容			
第1回	データの整理	データ全体の情報をより明確にするための表現方法である、度数分布やヒストグラムについて理解する。			
第2回	代表値と散布度	データの傾向を表す代表値について学び、さらに散布度を通じてデータのばらつきについて理解する。			
第3回	相関関係と相関係数	二変量の関係について、相関係数や回帰直線を学び、相関関係について理解する。			
第4回	演習Ⅰ	演習を通じて記述統計に関する知識を定着化させる。			
第5回	順列・組合せ、確率	順列・組合せの考え方を整理したうえで、確率の定義と基本的性質を理解する。			
第6回	条件付確率と独立性	モンティホール問題などの具体例を挙げながら、直感と反する条件付確率について理解する。			
第7回	確率変数と分布関数	離散型確率分布と連続型確率分布を対比させつつ、確率変数の基礎的な知識について理解する。			
第8回	確率度数の平均と分散	確率変数を導入したうえでの期待値や分散の定義を理解する。			
第9回	演習Ⅱ	演習を通じて、順列・組合せの知識と、基本的な確率の定義や性質について理解を定着化させる。			
第10回	二項分布と幾何分布	ある試行の結果、特定の事象が起こるか起こらないかに着目する二項分布と幾何分布の定義と性質について理解する。			
第11回	ポアソン分布と超幾何分布	偶発的に生じる事象に関する確率分布であるポアソン分布と超幾何分布の定義や性質について理解する。			
第12回	一様分布と指数分布	一定確率で事象が生じる一様分布と偶発的に生じる事象が起こる間隔に着目する指数分布の定義や性質について理解する。			
第13回	正規分布	正規分布の定義と性質について理解し、標準化や二項分布との類似関係について学ぶ。			
第14回	大数の法則と中心極限定理	大数の法則と中心極限定理について学び、確率統計学における正規分布の重要性を理解する。			
第15回	演習Ⅲ	演習を通じて、様々な確率分布の定義や性質に関する知識を確実に定着化させる。			
定期試験	学期末試験	試験を実施する。			

テキスト 菅原博昭・雨宮将人著，確率統計学 I，横浜図書，2018
参考書・参考資料等 岡本和夫監修，新版数学シリーズ 新版確率統計演習 改訂版，実教出版，2021
学生に対する評価 授業への取組み，受講姿勢，参加度（発言等）（10%），レポート課題提出（30%），小テストおよび定期試験の成績（60%）を総合して評価とする。

授業科目名	プログラミング I	教員の免許状取得のための	必修科目 情報通信工学科
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2 単位
担当教員名	森 文彦、早川 博章		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学） 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分		・算数 ・コンピュータ	
授業のテーマ及び到達目標 授業で行った内容と同レベルのプログラムが自由に書けること．また，自分で作成したプログラムが正しく動作しないときに，独力で問題点を発見し，動作するように修正できること．			
授業の概要 コンピュータを動かすソフトウェアは，プログラムでできている．プログラミングの技術を習得することにより，パソコンを自分のしたいことをさせる道具として使用することが出来るようになる．そこで，本授業では，現在，多く使用されているプログラミング言語である C 言語と Python を取り上げ，そのプログラミングの基本を学習する．毎回の授業の後半では学習した事項を確実に習得するために実際にプログラムの作成を行う．			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスおよび環境設定などを実施し，学生各自のマイ PC でのプログラミング環境を整える．	
第 2 回	プログラミングの予備知識	プログラム作成の流れについて学修し，プログラムを作成する．	
第 3 回	標準出力と変数	ディスプレイへの表示、変数、データ型について理解し，実際にプログラムを作成する．	
第 4 回	標準入力	キーボードからの入力とプロンプトについて学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 5 回	演算子	算術演算子、数値の代入、キャストについて学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 6 回	判断文 (1)	if, else 文について学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 7 回	判断文 (2)	switch 文について学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 8 回	総合演習 (1)	今までの課題を振り返り，演習を行う．	
第 9 回	繰り返し文 (1)	for 文について学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 10 回	繰り返し文 (2)	while、do while 文について学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 11 回	入れ子構造	条件分岐や繰り返し処理の入れ子構造 (ネスト) について学習し，実際にプログラムを作成する．	
第 12 回	標準ライブラリ関数	標準ライブラリ関数の使い方を学習し，実際にプログラムを作成する．	
第 13 回	ユーザー定義関数	ユーザー定義関数の使い方を学習し，実際にプログラムを作成する．	
第 14 回	変数のスコープ	ローカル変数とグローバル変数の違いについて学修し，実際にプログラムを作成する．	
第 15 回	総合演習 (2)	今までの課題を振り返り，演習を行う．	
定期試験	実施する	授業中に行った課題の中から出題する．	

シラバス：教科及び教科の指導法に関する科目

テキスト なし
参考書・参考資料等 C 言語プログラミング入門 田中 敏幸 コロナ社 9784339024425
学生に対する評価 試験 (80%)，課題等の取り組み (20%)

授業科目名	数学科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目 工学部	
		担当形態：単独	単位数： 2単位
担当教員名	成川 康男		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・算数、中学校・数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領の趣旨等を理解して、学習指導について教材研究の基本を身に付けることができる。			
授業の概要 小学校・中学校学習指導要領解説総則編及び数学編を基に、趣旨やねらいを学び、学習指導を行う上で必要な教師としての基本を学習する。また、指導と評価の一体化の意味と具体的な方法を学習する。			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	ガイダンス	小学校・中学校学習指導要領の概要を調べ、説明できる。講義と演習の方法と模擬授業の方法を理解できる。	
第2回	小学校・中学校・学習指導要領	小学校・中学校学習指導要領の教科の目標、内容を調べ、説明できる。	
第3回	義務教育の学習指導要領	義務教育の学習指導要領の教科の目標、内容を調べ、説明できる。各領域の内容に関する指導の意義、内容を調べ、説明できる。	
第4回	学習指導の実際と評価	学習指導における指導と評価の一体化、目標に準拠した評価について知り、模擬授業に生かすことができるようにする。	
第5回	学習指導案作成に向けて	学習指導案の作成上の留意点（数学的活動、教材及び情報機器の効果的な活用方法等）とその作成方法を知り、学習指導案の作成に向けての準備ができるようにする。	
第6回	模擬授業に向けての学習指導案作成に向けて	模擬授業のための学習指導案の作成及び検討を行う。	
第7回	小学校・中学第1学年、数と式の学習指導の実際と模擬授業	小学校と中学校第1学年の数と式の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第8回	小学校・第1学年、図形の学習指導の実際と模擬授業	小学校と中学校第1学年の図形の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第9回	小学校・第1学年、関数の学習指導の実際と模擬授業	小学校と中学校第1学年の関数の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第10回	小学校・第1学年、データの活用の学習指導の実際と模擬授業	小学校と中学校第1学年のデータの活用の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第11回	第2・3学年、数と式の学習指導の実際と模擬授業	中学校第2・3学年、数と式の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第12回	第2・3学年、図形の学習指導の実際と模擬授業	中学校第2・3学年、図形の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第13回	第2・3学年、関数の学習指導の実際と模擬授業	中学校第2・3学年、関数の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第14回	第2・3学年、データの活用の学習指導の実際と模擬授業	中学校第2・3学年、資料の活用の模擬授業を行い、実践上の課題や授業内容等について検討及び協議を行う。また、教材研究の方法について学ぶ。	
第15回	学習指導の実践とまとめ	学習指導実践上の課題や協議内容と関連付けて、授業で配慮することをまとめる。	

定期試験	定期試験を 60 分で実施、問題への適切な説明と考え方の記述内容を評価する。
テキスト 小学校学校学習指導要領解説算数編 文部科学省 （平成 29 年 3 月告示に基づく） 中学校学習指導要領解説数学編 文部科学省 （平成 29 年 3 月告示に基づく） 中学校学習指導要領解説総則編 文部科学省 （平成 29 年 3 月告示に基づく）	
参考書・参考資料等 小学校学校学習指導要領 文部科学省 （平成 29 年 3 月告示に基づく） 中学校学習指導要領 文部科学省 （平成 29 年 3 月告示に基づく）	
学生に対する評価 学習指導要領の趣旨等を理解して、学習指導について教材研究の基本を身に付けることができる。 試験（80％）課題（10％）授業における取り組み（10％）	

授業科目名	プログラミング I	必修科目 ソフトウェアサイエンス学科 教員の免許状取得のための	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位
担当教員名	大竹 敢、田中 昂文、青野 修一		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学） 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分		コンピュータ	
授業のテーマ及び到達目標 授業で行った内容と同レベルのプログラムが自由に書けること。また、自分で作成したプログラムが正しく動作しないときに、独力で問題点を発見し、動作するように修正できること。			
授業の概要 コンピュータを動かすソフトウェアは、プログラムでできている。プログラミングの技術を習得することにより、パソコンを自分のしたいことを実現する道具として使用することができるようになる。そこで、本授業では、現在、最も多く使用されているプログラミング言語の 1 つである Java を取り上げ、そのプログラミングの基本について学習する。毎回の授業の後半では学習した事項を確実に習得するために実際にプログラムの作成を行う。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスおよび環境設定等を行い、自身の PC での Java プログラミング環境を整える。	
第 2 回	変数とデータ型	Java における変数とデータ型について理解し、実際にプログラムを作成する。	
第 3 回	式と演算子	算術演算子、代入演算子、文字結合演算子等について学び、計算式の構成要素とその評価について理解する。また、型の変換についても学ぶ。	
第 4 回	命令の実行	Java における命令の実行について、標準入出力や様々な命令（メソッド）を通して理解する。	
第 5 回	プログラムの構造と分岐	プログラムの制御構造について、フローチャートを用いて理解する。また、条件式を用いた分岐構文を用いてプログラムを作成する。	
第 6 回	繰り返し	for 文、while 文、do-while 文を用いた反復構文について学び、実際にプログラムを作成する。	
第 7 回	制御構造の応用	制御文の入れ子構造について学修し、実際にプログラムを作成する。	
第 8 回	演習	これまでの講義内容の総復習を行う。	
第 9 回	中間試験	中間試験を実施し、その後に振り返りを行う。	
第 10 回	配列	配列の作成、代入、初期化について学び、実際にプログラムを作成する。	
第 11 回	多次元配列	配列の利用法および多次元配列について学び、実際にプログラムを作成する。	
第 12 回	メソッド I	メソッドの作成、呼び出しについて学び、実際にプログラムを作成する。	
第 13 回	メソッド II	引数や戻り値として配列を用いたメソッドについて学び、実際にプログラムを作成する。また、メソッドのオーバーロードについても理解する。	
第 14 回	演習	配列およびメソッドに関して、演習を通して復習を行う。	
第 15 回	総合演習	これまで習った内容の総復習を行う	

定期試験	実施する	授業中に行った課題の中から出題する。
テキスト スッキリわかる Java 入門（第 4 版）中山清喬，国本大悟 インプレスジャパン 9784295017936		
参考書・参考資料等 やさしい Java 高橋麻奈 ソフトバンククリエイティブ 9784797374766		
学生に対する評価 試験（80%）、課題等の取り組み（20%）		

授業科目名	プログラミング I	必修科目 マネジメントサイエンス学科	
		教員の免許状取得のための	単位数： 2 単位
担当教員名	折登（佐野） 由希子 高橋 宗良		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 数学） 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分		・算数 ・コンピュータ	
授業のテーマ及び到達目標 プログラミング言語・Python の基本的な文法を理解する。 授業で行った内容と同レベルのプログラムを各自で記述することができる。指定の開発環境でプログラムの入力、実行とその確認ができ、プログラムが正しく動作しないときに、問題点を修正できる。			
授業の概要 プログラムの作成と実行を通して、情報処理の考え方を学びプログラミングで必要な概念を理解する。 Python のプログラミングの基本を学習し、毎回の授業では学習した事項を確実に習得するために実際にプログラムの作成を行う。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	授業内容、進め方と評価方法、課題提出方法の説明 Python 開発環境の設定	
第 2 回	基本操作	開発環境の確認、注意事項、基本操作（画面表示、コメント等）、フリーズ対応	
第 3 回	変数と数値計算	整数・実数・文字列等の変数、変数を利用した数値計算、キーボード入力	
第 4 回	繰り返し処理 1	繰り返し処理（for 文）の基礎	
第 5 回	配列：リスト	一次元配列、二次元配列、配列を利用した数値計算	
第 6 回	繰り返し処理 2	配列を利用した繰り返し処理（for 文）	
第 7 回	繰り返し処理 3	配列を利用した繰り返し処理（for 文）、多重の繰り返し処理（多重 for 文）	
第 8 回	中間試験	第 7 回までの内容を理解しているかを問う中間試験	
第 9 回	条件分岐 1	条件分岐処理（if 文）	
第 10 回	条件分岐と繰り返し処理 1、 反復数が未知の繰り返し処理	繰り返し処理（for 文）内における条件分岐処理（if 文）、反復数が未知の繰り返し処理（while 文）との比較	
第 11 回	条件分岐と繰り返し処理 2	繰り返し処理（for 文）内における条件分岐処理（if 文）	
第 12 回	条件分岐と配列を利用した繰り返し処理	配列を利用した繰り返し処理（for 文）内における条件分岐処理（if 文）	
第 13 回	関数	関数と戻り値・引数	
第 14 回	データフレーム	データフレーム	
第 15 回	まとめと今後に向けて	講義内容の総括、様々なライブラリ、グラフ描画	
定期試験	実施する	講義中に取り扱った演習問題に類似した形式で行う	

テキスト なし
参考書・参考資料等 ガイダンスにて紹介する
学生に対する評価 試験（80％）、課題等の取り組み（20％）

授業科目名	プログラミング I	教員の免許状取得のため 必修科目 デザイン の サイエンス学科	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	斉藤(齊藤)純		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 授業で扱う基礎レベルのプログラムを自由に作ることができるようになる。また、自分の作成したプログラムが正しく動作しないときに、独力で問題点を発見・修正することができる。			
授業の概要 コンピュータを動かすソフトウェアは、何らかのプログラム言語で作成されている。プログラミングの技術を習得し作成したソフトウェアでコンピュータを自分のしたいことをさせる道具として使用することが出来るようになる。そこで、本科目では、現在、最も多く使用されているプログラミング言語のひとつである C 言語を取り上げ、コンピュータとその言語でのプログラミングの概念や基本（基本入出力や変数、基本制御構造）、データの取り扱いやアルゴリズムの基礎を学習する。毎回の授業では学習した事項を確実に習得するために実際に初歩的なプログラムを作成する。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス, プログラム開発環境のインストールの説明.	
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラム作成の流れ, 開発環境の使い方の説明, フローチャートについて.	
第 3 回	標準出力	アルゴリズム, 標準出力について.	
第 4 回	変数と型	変数, データ形式について	
第 5 回	標準入力, 演算子	キーボードからの入力と, 算術演算子・代入・キャストについて	
第 6 回	分岐処理 1	if について	
第 7 回	分岐処理 2	switch について	
第 8 回	繰り返し処理 1	for について	
第 9 回	繰り返し処理 2	while について	
第 10 回	中間演習	ここまでの内容を応用した演習	
第 11 回	配列	配列変数の考え方, 使い方について	
第 12 回	多次元配列	多次元配列変数の考え方, 使い方について	
第 13 回	文字列	文字列の扱いについて	
第 14 回	演習	配列変数に関する演習	
第 15 回	総合演習	授業で扱った内容を応用した演習	
定期試験	実施する	授業で扱った課題や演習をもとに出題する。	

テキスト 高橋麻奈著，やさしいC 第5版，ソフトバンククリエイティブ社，ISBN9784797392586
参考書・参考資料等 授業中に配布する資料
学生に対する評価 試験（60％）授業中に課した課題（40％）

授業科目名	管理会計	教員の免許状取得のための 選択科目	デザインサイエンス学科
		担当形態：単独	単位数： 2単位
担当教員名	山田義照		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標			
会計数値を用いて適切に経営管理ができる人材になることをテーマとする。授業では企業経営に役立つ会計情報の作成と利用の方法について学び、経営上の問題を発見し、解決する能力を身につける。到達目標は以下の通りである。			
・管理会計における基礎概念について他者に説明できる。			
・各種の管理会計技法について、正しい手順で正確に計算できる。			
・各種の管理会計技法を目的に応じて選択し(使い分け)、どうすれば経営上の問題を解決できるかを他者に説明できる。			
・管理会計がなぜ必要なのか、管理会計システムはどのように設計されるべきについて、理論を踏まえて自らの意見を形成し、他者に説明できる。			
授業の概要			
管理会計は、経営者及び管理者が意思決定を行うにあたり有用な情報を提供することを目的とした会計である。授業では、利益計画や予算の作成（利益管理）、企業が持続的成長のために行う投資の妥当性の判断(経営意思決定)、利益を確保するための原価管理などについて学ぶ。これらの管理会計情報の作成するために、そのうえで目的に応じてデータを収集し、統計手法を用いることによってデータの傾向を把握して事象の特徴を捉え、問題解決に適切な管理会計手法を選択して分析するスキルも身につける。最終的には、管理会計の本質を追究し、管理会計がなぜ必要なのか、管理会計システムはどのように設計されるべきかについてディスカッションを交えながら講義を進めていく。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	管理会計の概説	管理会計のねらいと内容を概説する。学科カリキュラムにおける位置づけを理解でき、「なぜ管理会計を学ぶのか?」という問いに答えることができるようになる。	
第 2 回	利益管理のための会計 1 ：予算管理の基礎	予算を経営計画や利益計画との関係から位置づけ、予算管理の機能、プロセス、問題点などについて解説する。授業では、統計手法(回帰分析等)を活用した需要予測や企業予算の基本的な編成手続きについて演習を通じて実践できるようになる。	
第 3 回	利益管理のための会計 2 ：CVP 分析の基礎	利益計画の立案において原価(C)と操業度(V)、利益(P)の関係を動的に捉え、分析する方法を解説する。CVP 分析においては原価を固定費と変動費に区分(固定分解)する。このとき、最小二乗法では統計学の回帰分析を利用するが、散布図や近似曲線を求める方法で固定費と変動費率を決定する。授業では練習問題を解くことによって、損益分岐点や目標利益を獲得するための操業度や売上高を計算できるようになる。	
第 4 回	利益管理のための会計 3 ：CVP 分析の応用	CVP 分析の考え方を基礎にして売上高を増やしたり、原価を削減したりするなどのシミュレーションを行い、利益を獲得する方策について解説する。授業では「値下げは利益を増加させるか?」という経営上の問題等について考察できるようになる。	
第 5 回	利益管理のための会計 4 ：直接原価計算の基礎	利益管理に役立つ原価計算手法である直接原価計算と CVP 分析の関係を解説する。直接原価計算では、原価を変動費と固定費に分解することによって、売上高から変動費を差し引いて限界利益を算定し、さらに限界利益から固定費を差し引いて営業利益を計算する。授業では直接原価計算と一般的な原価計算(全部原価計算)とを比較して、直接原価	

		計算の意義や性質を他者に説明できるようになる。
第 6 回	確認テスト①と解説 ：利益管理会計のまとめ	第 2 回～第 5 回(利益管理)を範囲として、理解度を測る確認テストを実施する。テスト終了後には解説を行う。
第 7 回	意思決定のための会計 1 ：業務的意思決定	経営意思決定は業務的意思決定と戦略的意思決定とに区分できる。授業では業務的意思決定について、考え方や原価概念、分析手法について解説する。具体的には差額原価収益分析を用いて、新規注文引き受け可否や、自製か購入かの意思決定問題を解決できるようになる。
第 8 回	意思決定のための会計 2 ：戦略的意思決定の基礎	戦略的意思決定において重要な考え方である「貨幣の時間価値」について解説する。授業では、現在価値の考え方を理解し、計算することができるようになる。
第 9 回	意思決定のための会計 3 ：戦略的意思決定の手法	戦略的意思決定の手法である投資利益率法(ROI)、回収期間法、正味現在価値法(NPV)、内部利益率法(IRR)を比較し、特徴・計算方法・問題点を解説する。また、資本コストの考え方についても説明する。練習問題を解くことを通して、正確に計算でき、設備投資の意思決定問題を解くことができるようになる。
第 10 回	確認テスト②と解説 ：意思決定会計のまとめ	第 7 回～第 9 回(意思決定)を範囲として、理解度を測る確認テストを実施する。テスト終了後には解説を行う。
第 11 回	業績評価のための会計 ：事業部制会計	事業部制会計を通して組織の業績評価の考え方と方法を解説する。また、業績評価の制度的前提となる責任会計についても説明する。重要ないくつかの概念(管理可能費・管理不能費、コストセンター、プロフィットセンターなど)について他者に説明できるようになる。
第 12 回	生産管理のための会計 ：JIT と TOC	生産管理システムは高品質(Q)なモノを安価(C)で、納期に合わせて(D)製造するために管理されたシステムということができる。原則として、これは効率的な生産によって達成される。その意味で原価管理と生産管理の考え方は一致している。しかし、利益管理という視点からすると、通常の会計システムでは致命的な欠点がある。それは何か。どうすれば回避できるのかを理解するために演習形式で授業を進める。
第 13 回	原価管理のための会計 ：管理会計システムの設計と動機づけ	「管理会計システムの設計」を動機づけの観点から解説する。授業では、原価管理の事例を題材として、従業員にどのような管理会計情報を提供すれば積極的に原価管理に関わるかを考察する。
第 14 回	管理会計の本質	管理会計と財務会計とを比較することを通じて、管理会計の本質を考察する。授業では、会計を情報として捉える。そのうえで管理会計システムが果たすべき役割や提供すべき情報についてグループで課題に取り組み、管理会計の本質について追究する。
第 15 回	確認テスト③と解説 ：業績評価、生産管理、原価管理、全体のまとめ	第 11 回～第 14 回(業績評価、生産管理、原価管理、管理会計の本質)を範囲として、理解度を測る確認テストを実施する。テスト終了後には解説を行う。
定期試験	なし	
テキスト なし		
参考書・参考資料等 櫻井通晴・伊藤和憲[編] (2017)『ケース管理会計』中央経済社。 伊丹敬之・青木康晴(2016)『現場が動き出す会計』日本経済新聞社。		
学生に対する評価		

試験（60％）授業における取り組み（30％）課題等の取り組み（10％）

授業科目名	全人教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位
担当教員名	今尾佳生、佐久間裕之、山口圭介、杉山倫也、朝日公哉		
科 目	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 玉川大学の教育の根幹である小原國芳の「全人教育論」の思想的基盤について理解を深める。また、その要点を自分のことばで表現することができる。			
授業の概要 玉川大学の建学理念としての「全人教育」とはどのようなものか、またその理念を支えている「人を全人として捉える人間観」とはどのようなものか、について哲学的・歴史的観点から学んでいく。合わせて自らの人間観・世界観について省察しつつ、さらに全人という理念を実現するための教育的実践の可能性についても考察する。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	オリエンテーション／教育の概観	本講の目的、授業計画、授業方法、成績評価方法、予習・復習の仕方などについて説明する。	
第 2 回	全人教育の思想構造	全人教育思想を構成する主要概念としての完全人格、文化的人格、調和的人格、および個性の概念について解説する。	
第 3 回	理想主義的文化哲学の展開	全人教育の思想的系譜から、カント、ヘーゲル、ヴィンデルバント等の思想を解説する。	
第 4 回	児童中心主義と経験主義教育思想の展開	全人教育の思想的系譜から、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル等の思想を解説する。	
第 5 回	田園教育塾運動の展開	全人教育の思想的系譜から、レディ、ドモラン、リーツの思想と実践を解説する。	
第 6 回	日本近世教育の展開	全人教育の思想的系譜から、私塾・寺子屋の教育実践、さらに中江藤樹と熊沢蕃山の思想を解説する。	
第 7 回	大正自由教育運動の展開	全人教育の思想的系譜から、明治維新以降の日本教育から大正自由教育運動に至る流れ、及び澤柳政太郎の思想を解説する。	
第 8 回	小原国芳の思想形成	小原國芳の略歴を通し、全人教育論に至った経緯やその発想の根幹について取り上げて解説する	
第 9 回	全人教育論における学問教育、道徳教育	全人教育の目的と内容について学問、道徳教育の観点から解説する。	
第 10 回	全人教育における芸術教育、宗教教育	全人教育の目的と内容について芸術、宗教教育の観点から解説する。	
第 11 回	全人教育論における健康教育、富の教育	全人教育の目的と内容について健康、富の教育の観点から解説する。	
第 12 回	全人教育の実践	全人教育論の方法原理としての労作教育について解説し、今日における可能性を検討する。	
第 13 回	全人教育論の場	全人教育を実践する場としての学校・家庭・社会・自然について解説する。	
第 14 回	塾教育と師道論	全人教育論の結論として提唱した「師道論」について解説し、その現代的意義を検討する。	
第 15 回	全人教育の現代的・将来的意義	全人教育の現代的・将来的意義を国内外の教育動向との関連で検討する。	
定期試験	期末試験	講義内容に関する理解度を確認する。	
テキスト 小原國芳『全人教育論』玉川大学出版部			

参考書・参考資料等

小原國芳『小原國芳全集』（48 卷）玉川大学出版部／小原國芳『教育一路』玉川大学出版部／小原哲郎編『全人教育の手がかり』玉川大学出版部／南日本新聞社編『教育とわが生涯 小原國芳』玉川大学出版部／小原芳明監修『全人教育の歴史と展望』玉川大学出版部

学生に対する評価

提出物はすべて提出締切日（授業開始時）までに提出されたものを評価対象とする（期限後の提出物は評価対象外）。 配点：期末試験（40%）、課題・振り返りシート（60%）

授業科目名	日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位
担当教員名	関畑 崇之、始澤真純		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業のテーマ及び到達目標 日本国憲法のいわゆる三大原則(国民主権、平和主義、基本的人権の保障)と、日本国憲法における統治機構の特徴について説明できるようになる。			
授業の概要 憲法を学ぶ上で、その理念・原則・特徴を正確に理解する必要がある。しかし、これらの知識を学修するだけでは不十分であり、これらを用いて現実社会における問題や制度について、分析できるようになるべきである。そこで、実際の事例を題材に、衝突する権利及び自由の調整を図りつつ、具体的妥当性を有する結論を導くまでの思考プロセスを養う。また、近代立憲主義の理念の下で規定された統治機構に関して、その機能や役割、権能に至るまで取り扱う。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	憲法とは何か	憲法の分類、憲法の意味、近代立憲主義、日本国憲法の施行までの経緯	
第 2 回	天皇制・平和主義	国民主権と象徴天皇制、天皇の権能と行為、皇位の継承、平和主義(戦争放棄、戦力不保持、交戦権否認)	
第 3 回	人権総則	人権とは何か、人権の類型、人権の享有主体、人権の制約、私人間効力	
第 4 回	幸福追求権	幸福追求権の位置づけ、プライバシー権、自己決定権	
第 5 回	法の下での平等	法の下での平等の意味、積極的差別是正措置、平等原則をめぐる判例	
第 6 回	自由権(1)	思想・良心の自由、信教の自由、政教分離	
第 7 回	自由権(2)	表現の自由、検閲、内容規制・内容中立規制、学問の自由、大学の自治	
第 8 回	自由権(3)	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権、法定手続の保障、被疑者・被告人の権利	
第 9 回	社会権	社会権誕生の経緯、自由権と社会権の関係、社会権(生存権、教育を受ける権利、勤労者の権利)	
第 10 回	受益権・参政権・国民の義務	受益権(請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権)、参政権、選挙権に関する基本原則、国民の義務(子女に教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務)	
第 11 回	国会(1)	国会の地位と組織、両院の関係、国会及び議院の権能	
第 12 回	国会(2)	国会議員の特権(歳費受領権、不逮捕特権、免責特権)	
第 13 回	内閣	行政権の概念、議院内閣制、内閣の組織と権能、衆議院の解散	
第 14 回	司法	司法権の範囲と限界、裁判所の組織と権能、司法権の独立、違憲審査制度	
第 15 回	財政・地方自治・憲法改正	財政民主主義、地方自治の本旨、条例制定権、憲法改正手続、憲法改正の限界	
定期試験	実施する	習熟度を確認する	
テキスト 『日本国憲法入門』小林幸夫・吉田直正編著(玉川大学出版部)			

参考書・参考資料等

『教職課程のための憲法入門〔第 3 版〕』西原博史・斉藤一久編著（弘文堂）

学生に対する評価

定期試験 100%（問題が求める論点について、分析と説明がきちんとなされているかで評価。）

授業科目名	健康教育	教員の免許状取得のための 必修科目	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 1 単位
担当教員名	阿部 隆行、武内 麻美、三橋 綾子		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ 健康のための「運動」「栄養」「休養」とはどのようなものか理解する。スポーツを通じて体力の向上、精神的なストレスの軽減・発散、他者とのコミュニケーションをとる能力を獲得する。健康のための適度な強度の運動を実践できるようになる。			
授業の概要 健康教育は全学 1 年次必修科目であり、理論と実技を隔週で行う。理論においては大学生・社会人として健康的な生活を送るための身体機能や運動に関する基本的な知識と方法を学習する。実技においては、体育館、グラウンド、屋内プールで行い、体力の向上や健康維持、運動習慣の確立を目指して各種スポーツを行う。活動量計（ペドメータ）を利用した身体活動の調査・測定を実践し、理論と実技を関連付けた授業を展開する。担当教員により授業内容に若干の違いがある。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	授業内容については初回ガイダンスにおいて、詳細な説明を行う。	
第 2 回	体育理論①健康とは	健康の定義を確認し、健康観を再考する。	
第 3 回	体育実技①体育館種目	屋内種目（軽運動・基本体操）を実施する。	
第 4 回	体育理論②体力とは	体力の一般的な定義を確認する。	
第 5 回	体育実技②グラウンド種目	屋外種目（ベースボール型スポーツ）を実施する。	
第 6 回	体育理論③食事（栄養）の基礎知識	栄養の基礎知識と栄養バランスを確認する。5 大栄養素と摂取エネルギーを調査する。	
第 7 回	体育実技③屋内プール	屋内プールにて水中運動・軽運動を実施する。	
第 8 回	体育理論④運動習慣とエネルギー消費	エネルギー消費（基礎代謝・活動代謝・食事誘導性熱産生）について確認する。自身の摂取エネルギーを調査し、エネルギーの出納を評価する。	
第 9 回	体育実技④体育館種目	屋内種目（軽運動・ゴール型スポーツ）を実施する。	
第 10 回	体育理論⑤健康のための具体的な運動内容	健康のための運動としての有酸素運動と筋力トレーニングの実際を知る。トレーニングの原則を確認する。	
第 11 回	体育実技⑤グラウンド種目	屋外種目（有酸素運動/ゴール型スポーツ）を実施する。	
第 12 回	体育理論⑥スポーツを楽しむ	スポーツ文化について理解する。する・みる・支えるそれぞれのスポーツの楽しみ方について学ぶ。	
第 13 回	体育実技⑥屋内プール	屋内プールにて水中運動・各種泳法を学習する。	
第 14 回	体育理論⑦玉川学園における健康教育	玉川学園における健康教育について学ぶ。体操の心身への効果を知る。野外教育としてのスキー教育の重要性を理解する。	
第 15 回	体育実技⑦体育館種目	屋内種目（軽運動・ネット型スポーツ）を実施する。	
定期試験	レポート提出		
テキスト 『教養としての健康・スポーツ』玉川大学教育学部編（玉川大学出版部）2017			

シラバス：教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

参考書・参考資料等

なし。授業中に必要に応じてプリントを配付する。

学生に対する評価

レポート 50%、授業における取り組み 50%

授業科目名	体育	教員の免許状取得のための 必修科目	
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 1 単位
担当教員名	南島(長田) 永衣子、鈴木 淳也、武内 麻美、山田 信幸、川崎 登志喜、三橋 綾子、阿部 隆行、工藤 亘		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ 基本的な体力の獲得、協調性・責任感などの社会性を身につけることができる。 体育的行事の展開の仕方について理解できる。			
授業の概要 9 月の特別教育期間に始まる体操・マスゲームの集中練習から全学体育祭に至るまでの集中授業で構成される。 全学体育祭においては、男女それぞれの体操・マスゲームの発表（年度により男女合同プログラムもある）、競技種目、選抜競技種目などへ参加する。 体操やマスゲームを中心とした練習により、体力の向上を図り、協調、協同など社会生活において必要な能力の育成を目指すとともに、体育的行事をどのように展開しているのかを理解する機会となる。 他学部の教員免許取得志望の学生との交流などによりコミュニケーション能力の涵養も図る。低学年児童・生徒に対しても模範的な態度が求められる。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	基本体操(1)	自己の身体機能や運動機能を把握する。	
第 2 回	基本体操(2)	体操の姿勢や動きなど、基本動作を学習する。	
第 3 回	基本体操(3)	自己の身体機能を高めるため、体操の細かい動きまで意識する。	
第 4 回	基本体操(4)	音楽をかけながら、体操の動きを合わせていく。	
第 5 回	基本体操(5)	音楽と体操の基本動作を合わせていく。	
第 6 回	基本体操(6)	音楽に合わせて、細かい動きまで意識しながら体操する。	
第 7 回	体操・マスゲーム(1)	全体の立ち位置や動きを確認する。	
第 8 回	体操・マスゲーム(2)	各グループごと、体操の動きを合わせる。	
第 9 回	体操・マスゲーム(3)	複数グループで、体操の動きを合わせる。	
第 10 回	体操・マスゲーム(4)	全体として、体操の動きを合わせる。	
第 11 回	体操・マスゲーム(5)	入場や退場の動き方を練習する。	
第 12 回	体操・マスゲーム(6)	マスゲームとしての体操を洗練する。	
第 13 回	体操・マスゲーム(7)	男子学生、女子学生それぞれの基本体操を仕上げる。	
第 14 回	体操・マスゲーム(8)	男女全体で基本体操を行い、マスゲームを仕上げる。	
第 15 回	体操・マスゲーム(9)	入場から退場まで音楽に合わせ、マスゲームを完成させる。	
定期試験	実技試験	実技試験	
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じプリント資料を配付する			
学生に対する評価 試験 70%実技試験に合格すること 授業における取り組み 30% 積極的な態度であること			

授業科目名	ELF Communication for Teachers	教員の免許状取得のための 必修科目	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	祐乗坊 由利 ジョディー		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業のテーマ及び到達目標 様々な英語学習法・教授法を体験しながら、学際的なトピックについて、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」の 4 技能の間には差がみられるものの、英語で読んだり聞いたりすること、そして、わかりやすい言語で書いたり話したりすることができるようになることを目標とする。加えて、4 技能の間の差を意識し、相互に補完しながら総合的に英語力を高めていくための英語学修法を身につけ、卒業後、教員として英語を指導する際に役立てられるようにする。			
授業の概要 英語学修のための様々な授業内アクティビティーや授業外課題を通じて、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」の 4 技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら、確実に運用ができるようにする。積極的に英語を発信する手助けとなるような学際的なトピックをいくつか設定し、それをもとにした言語実践活動を行う。いずれのトピックにおいても、リーディング、リスニングを中心とした基礎的理解力を確実なものとした上で、スピーキング、ライティングを含む総合的なコミュニケーション能力の養成に発展させるべく授業を展開する。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	コースの概要	授業内容、通常の課題、評価についての説明と、英語学習方法についての自己確認。	
第 2 回	トピック 1：理解	リスニング、リーディングを中心に、与えられたトピックに関する内容を理解するための演習を行う。	
第 3 回	トピック 1：語彙・文法	第 2 回でリスニング、リーディングを中心に得た内容をもとに英語で意見を交換できるよう、語彙、表現、文法を学ぶ。	
第 4 回	トピック 1：発信	第 2 回・第 3 回で学んだ内容をもとに、状況に応じた話し言葉や書き言葉で自分の意見を表現する実践的な演習を行い、総合的コミュニケーションへと発展させる。	
第 5 回	トピック 2：理解	リスニング、リーディングを中心に、与えられたトピックに関する内容を理解するための演習を行う。	
第 6 回	トピック 2：語彙・文法	第 5 回でリスニング、リーディングを中心に得た内容をもとに英語で意見を交換できるよう、語彙、表現、文法を学ぶ。	
第 7 回	トピック 2：発信	第 5 回・第 6 回で学んだ内容をもとに、状況に応じた話し言葉や書き言葉で自分の意見を表現する実践的な演習を行い、総合的コミュニケーションへと発展させる。	
第 8 回	評価 1	トピック 1・2 のまとめと、トピック 1・2 に関連したリーディングをもとにした口頭試験を行う。	
第 9 回	トピック 3：理解	リスニング、リーディングを中心に、与えられたトピックに関する内容を理解するための演習を行う。	
第 10 回	トピック 3：語彙・文法	第 9 回でリスニング、リーディングを中心に得た内容をもとに英語で意見を交換できるよう、語彙、表現、文法を学ぶ。	
第 11 回	トピック 3：発信	第 9 回・第 10 回で学んだ内容をもとに、状況に応じた話し言葉や書き言葉で自分の意見を表現する実践的な演習を行い、総合的コミュニケーションへと発展させる。	
第 12 回	トピック 4：理解	リスニング、リーディングを中心に、与えられたトピックに関する内容を理解するための演習を行う。	
第 13 回	トピック 4：語彙・文法	第 12 回でリスニング、リーディングを中心に得た内容をもとに英語で意見を交換できるよう、語彙、表現、文法を学ぶ。	
第 14 回	トピック 4：発信	第 12 回・第 13 回で学んだ内容をもとに、状況に応じた話し言葉や書き言葉で自分の意見を表現する実践的な演習を行い、総合的コミュニケーションへと発展させる。	
第 15 回	評価 2	トピック 3・4 のまとめと、トピック 3・4 に関連したプレゼンテーションを行う。	

定期試験	実施する	ライティング課題（最終ドラフト）
テキスト 開講時に指示する。		
参考書・参考資料等 玉川大学 ELF センター監修のアクティビティ教科書を補助教材として使用。		
学生に対する評価 授業における取り組み（20%）、課題等の取り組み（20%）、Reading をもとにした口頭試験（20%）、プレゼンテーション（20%）、ライティング課題（20%）により評価。授業は英語で行う。		

授業科目名	データ処理	教員の免許状取得のための 選択科目	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	堀澤早霧		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ 表計算ソフトの根本的な概念を理解することで、バージョンやソフトそれ自体に捉われることなく自在にデータを活用するスキルを養うことを目的としている。			
授業の概要 表計算ソフトを使用したデータ分析ならびにデータ活用の方法を基礎から応用に至るまで学修する。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方ならびに 8 つの重要項目（授業形態，座席，出席，ガイド資料，テキスト，課題，試験，成績）について理解する．オンライン学修支援システムを体験する．	
第 2 回	表計算ソフトの基礎 1	表計算ソフトの基礎 1 として，表計算の意義，表計算ソフトの根本的な概念とともに，基本的な表計算機能を学ぶ．	
第 3 回	表計算ソフトの基礎 2	表計算ソフトの基礎 2 として，さらなる編集機能を学ぶ．	
第 4 回	表計算ソフトの基礎 3	表計算ソフトの基礎 3 として，グラフの作成を学ぶ．	
第 5 回	さまざまなデータ	表計算ソフトを使用して異なる形式のデータファイルの入出力を体験する． ビッグデータについても学ぶ．	
第 6 回	アルゴリズムの組み立て	データを分析する際，さまざまな関数を使用することができることを学び，ネストを使用して複数の関数を組み合わせることができることやその制御の仕方を学んでアルゴリズムを組み立てることを体験する．	
第 7 回	さまざまなグラフ	各種グラフの作成方法，近似曲線の追加，分析ツールの利用などについて学ぶ．	
第 8 回	統計量の利用	基本統計量について学び，表計算ソフトで体験をする．	
第 9 回	フィルターの利用	フィルターの基本概念，利点，使い方について学び，事例を使用して体験をする．	
第 10 回	ピボットテーブルの利用	ピボットテーブルの基本概念，利点，使い方について学び，事例を使用して体験をする．	
第 11 回	データベース関数	データベース関数の基本概念，利点，使い方について学び，事例を使用して体験をする．	
第 12 回	共有と共同編集	データファイルの共有ならびに共同編集の基本概念，利点，使い方について学び，ウェブアプリを使用してファイルの共有ならびに共同編集を体験する．	
第 13 回	集計とマクロ	集計とマクロの基本概念，利点，使い方を学び，記録→実行を体験する．	
第 14 回	総合演習 1	第 1 3 回までに学んだデータ分析手法を用いて具体的にデータ処理を行う．	
第 15 回	総合演習 2	第 1 4 回までに学んだデータ分析手法を用いて具体的にデータ処理を行う．試験を受験する．	
定期試験	なし		
テキスト 担当教員が用意した資料を適宜配布			
参考書・参考資料等 授業時に指示			
学生に対する評価 試験（60％）レポート（20％） 授業における取り組み（5％） 課題等の取り組み（15％）			

授業科目名	統計学入門	教員の免許状取得のための	選択科目
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	川崎 敏治		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ 平均、中央値、標準偏差等の基本的な計算から、偏差値の計算、検定の方法等ができるようになる。			
授業の概要 統計は様々な分野で使われる。それは、理系分野のみならず、人文科学、社会科学分野においてもである。統計学は、様々なデータから特徴を抽出する手法である。本講義では、この統計的手法の基礎を学ぶことを目的とする。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス、統計とは	ガイダンス（授業の進め方、この授業でどのようなことを学ぶのか、評価方法、等）及び統計とは何かについて概説する。	
第 2 回	度数分布表とヒストグラム	度数分布表及びヒストグラムとは何かについて学ぶ。	
第 3 回	平均、中央値、標準偏差	平均、中央値、標準偏差とは何かについて学び、その計算方法を学ぶ。	
第 4 回	基準値、偏差値	基準値、偏差値とは何かについて学び、その計算方法を学ぶ。	
第 5 回	まとめと演習	第 2 回～第 4 回の内容についてまとめを行う。	
第 6 回	確率密度関数	確率密度関数について学ぶ。	
第 7 回	正規分布	正規分布について学ぶ。	
第 8 回	カイ二乗分布	カイ二乗分布について学ぶ。	
第 9 回	t 分布、F 分布	t 分布、F 分布について学ぶ。	
第 10 回	単相関係数、相関比	単相関係数、相関比について学び、その計算方法を学ぶ。	
第 11 回	クラメールの連関係数	クラメールの連関係数について学び、その計算方法を学ぶ。	
第 12 回	まとめと演習	第 6 回～第 11 回の内容についてまとめを行う。	
第 13 回	独立性の検定	独立性の検定の手順について学ぶ。	
第 14 回	検定の例	色々な検定の手順について学ぶ。	
第 15 回	総合演習	総合的な演習を行う。	
定期試験	実施する		
テキスト マンガでわかる統計学 高橋信 オーム社 4-274-06570-7			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 試験 60% レポート 40%			

授業科目名	マルチメディア表現	教員の免許状取得のための 選択科目	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	藤田 智子		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ コンピュータで扱う写真、イラスト、音楽などの表現方法を理解して、自由に表現できるようになる。			
授業の概要 現在のコンピュータ上で表現は、文字、表、グラフ、写真、イラスト、音声、動画、アニメーションなどがある。報告書やWeb では、文字だけでなく、さまざまなマルチメディア表現が必要な時代である。 この講義は、写真、イラスト、音楽についての初歩的な表現技術を習得することができる。 また、講義を通して作成する課題や演習ファイルが、最後の講義で1つのまとまったホームページとして表現することができるようになる。			
授業計画	テーマ	内 容	
第1回	ガイダンス	マルチメディアについて概説する。 また、課題の提出方法や授業の進め方についても学習する	
第2回	基本操作と画像の修復	写真加工の基本操作について説明する。 写真加工でよく利用されるトリミングや修復ツールと、の使い方について学習する	
第3回	選択範囲とフィルタ	レイヤーと画像選択の方法、およびクイックマスクの使い方、およびフィルタリング機能について学習する	
第4回	色調補正	色調補正を中心に合成写真の作り方について説明する	
第5回	課題1	フィルタリングや切り抜き、色調補正などを利用した写真加工の作成する	
第6回	Inkscape の使い方	線 文字 色 などの基本操作について学習する	
第7回	オブジェクトの編集/パスの作成と編集	ペンツールの使い方 オブジェクトの塗りと線 グラデーション パスファインダの使い方について学習する	
第8回	イラストのトレース	ベジェ直線とベジェ曲線を理解し、イラストを下絵にしてトレースの意味と使い方について学修する	
第9回	テキストの作成と編集	テキストの入力方法と、テキストを加工しオブジェクトにする手法について学修する	
第10回	ポスターの作成	ポスターの作成から PDF 変換までの流れについて学習する	
第11回	課題2	課題1で作成した加工写真を利用して、A4 サイズのポスターを作成する	
第12回	小テスト&課題2の続き	画像処理に関する基本知識を問う小テストを実施する 前回作成したポスターに文字を追加し、デザイン（トレース）する	
第13回	デジタル音楽とアニメーション	デジタル音楽 MIDI の使い方、および GIF アニメーションについて学修する	
第14回	課題3	課題条件に合った、MIDI の作曲もしくは、アニメーションの作成	
第15回	総まとめ	第14回で作成した公開内容で、他の学生の作品に関する感想などをディスカッションする。	
定期試験	実施しない		
テキスト Inkscape パーフェクトガイド ピクセルハウス 技術評論社 978-4-297-13198-2			

参考書・参考資料等
適宜紹介する

学生に対する評価

試験：20% 試験では「授業を通して修得できる力」の中の「情報リテラシー」が問われます。15 分ほどの小テストです。具体的には画像処理の基本的概念をどれだけ習得出来たかが問われます。

レポート：35% 写真加工に関するレポートです。「授業を通して修得できる力」の中の「社会と自然に関する知識の理解」と「情報リテラシー」が問われます。

具体的には課題条件にそって作成しているか、Word を活用して作成するレポートが、作成した写真加工のイメージや操作方法をわかりやすく伝えるものになっているか、が問われます。

授業における取り組み：15% 「授業を通して修得できる力」の中の「社会と自然に関する知識の理解」と「情報リテラシー」が問われます。具体的には、授業態度および授業中の課題への取り組みが問われます。

課題等の取り組み：30% イラスト作成に関するレポートです。「授業を通して修得できる力」の中の「社会と自然に関する知識の理解」と「情報リテラシー」が問われます。具体的には作成したイラストが、課題条件にそって作成されているかが問われます。

授業科目名	ネットワーク入門	教員の免許状取得のための 選択科目	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	田中(小野寺)俊介		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ 情報表現及びインターネット通信の基礎について理解し、基本的な手法を使ってホームページの作成ができるようになる。			
授業の概要 インターネットはさまざまな情報を収集する手段の一つとして使用されることが多く、私たちの身近なインフラとなっている。この授業では、コンピュータ上での情報表現方法、インターネットの歴史やしくみの基礎を学び、情報発信としてホームページの作成を行う。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	授業内容、進め方、評価方法の説明。	
第 2 回	講義 1：最新情報技術・情報化社会、演習 1：ガイダンス 1	前半講義では、最新の情報技術を紹介し、情報化社会を生きる上でのヒントについて話します。後半演習では、演習環境への接続とホームページ閲覧方法を実演します。	
第 3 回	講義 2：情報セキュリティ・情報モラル、演習 2：ガイダンス 2	前半講義では、セキュリティ防御の技術、モラルを守ったインターネットの使い方について話します。後半演習では、演習環境へ各人のアカウントでのログインをしてもらいます。	
第 4 回	講義 3：World Wide Web・HyperText Transfer Protocol、演習 3：ガイダンス 3	前半講義では、WWW・HTML の技術的な部分を解説します。後半演習では、演習環境の Web サーバにおけるホームページ作成方法を実演します。	
第 5 回	講義 4：インターネットプロトコル・情報通信機器、演習 4：ガイダンス 4	前半講義では、インターネットと通信機器の実装技術(TCP/IP)について解説します。後半演習では、演習環境の特徴・制約事項について実演します。	
第 6 回	講義 5：情報通信業界概況・情報システム開発論基礎、演習 5：ガイダンス 5	前半講義では、情報通信業界の慣習や情報システムの開発の仕方について紹介します。後半演習では、ホームページ制作の前に作成すべき設計書類の執筆方法を説明します。	
第 7 回	確認試験(ペーパーテスト)	講義 1～講義 5 の学習内容に関する試験を行います。	
第 8 回	演習 6：ホームページ設計	自らが制作するホームページを自ら設計してもらいます。	
第 9 回	演習 7：コンテンツ準備	制作するホームページで使用する画像・テキストなどを準備してもらいます。	
第 10 回	演習 8：ホームページ制作 1	演習環境の Web サーバ上にホームページを制作してもらいます。	
第 11 回	演習 9：ホームページ制作 2	ホームページ制作を続けてもらいます。	
第 12 回	演習 10：チェックシート作成	当初設計した通りのホームページが制作できたか？チェックするための書類(チェックシート)を執筆してもらいます。	
第 13 回	演習 11：ホームページ・チェック	第 12 回(演習 10)で執筆したチェックシート を利用して、ホームページが設計通りに制作できているか自らチェック(検品)してもらいます。	
第 14 回	演習 12：不具合修正	第 13 回(演習 11)で見つかった不具合を修正してもらいます。	
第 15 回	演習 13：発表および利用	各自が制作したホームページを他の受講生に公表してもらいます。他の受講生のホームページに対して、情報モラ	

		ルを守った応援コメントを投稿してもらいます。
定期試験	なし	
テキスト なし		
参考書・参考資料等 ネットワークがよくわかる教科書 福永 勇二 SB クリエイティブ 978-4797393804		
学生に対する評価 試験 30% 授業における取り組み 20% 課題等の取り組み 50%		

授業科目名	情報科学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	
		担当形態：単独	単位数： 2 単位
担当教員名	佐藤雅俊		
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
授業の到達目標及びテーマ			
・ コンピュータの基本的な仕組みを説明できる			
・ ネットワークの基本を理解し、セキュリティに配慮したコンピュータの利用ができる			
・ Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作ができる			
・ 基礎的な HTML の習得			
授業の概要			
コンピュータを使いこなす上で押さえておかなければならないコンピュータの仕組みや構造についてハードウェアとソフトウェアの観点から学ぶ。ハードウェアの観点からはコンピュータの構成やCPU、ハードディスク、メモリの性能と役割について、ソフトウェアの観点からは、データやファイルの管理など情報処理の基礎を理解すると共に、代表的なアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) や HTML の基本的な操作もできるようにする。			
授業計画	テーマ	内 容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などを説明する。	
第 2 回	コンピュータとは	コンピュータの歴史について	
第 3 回	情報とは (デジタル表現)	コンピュータと2進数について 2進数変換の計算方法について	
第 4 回	ハードウェア	コンピュータの構造について CPU、ハードディスク、メモリの役割について	
第 5 回	ソフトウェア	OSの種類とそれぞれの特徴について OSの役割について マルチタスクの仕組みについて	
第 6 回	インターネットの仕組みとサービス	インターネットの歴史について TCP/IP の仕組みと役割について インターネットアーキテクチャ	
第 7 回	インターネットにおける脅威とセキュリティ	様々なコンピュータウイルスとその目的について ウイルス対策ソフトとファイアウォールについて セキュリティホールと脆弱性について	
第 8 回	情報検索と整理	様々な検索エンジンとその特徴について 検索式を使った演習	
第 9 回	到達確認テスト	これまでの授業内容に関して筆記試験を実施	
第 10 回	アプリケーションソフトウェア演習 (Word)	用紙設定 見出しの設定 文字装飾 箇条書き インデント 文字数カウント 図表や数式の挿入 図形 SmartArt ヘッダ／フッタの設定 段組設定について説明し、演習を行う	
第 11 回	アプリケーションソフトウェア演習 (Excel 1)	セルの参照形式、セルの書式設定、オートフィル、表のスタイル、固定表示、数式・関数について説明し、演習を行う	
第 12 回	アプリケーションソフトウェア演習 (Excel 2)	グラフの種類と作成、近似曲線の追加、分析ツールの利用、行列演算について説明し、演習を行う	
第 13 回	アプリケーションソフトウェア演習 (PowerPoint)	スライドの作成、ノートの作成、要素の追加（図形、表、数式、箇条書き等）、アニメーション、テーマの利用、スライドマスターの編集について説明し、演習を行う	
第 14 回	アプリケーションソフトウェア演習 (HTML)	HTML の基本構造、文字装飾、写真の挿入などについて説明し、演習を行う	

第 15 回	総合演習	複数の HTML にリンクを貼るホームページを作成する
定期試験	実施しない	
テキスト なし		
参考書・参考資料等 学生のためのかんたん word/Excel/PowerPoint 入門 松下孝太郎, 山本光 技術評論社 978-4-297-11323-0 初心者からちゃんとしたプロになる HTML+CSS 標準入門 おの れいこ, 栗谷 幸助 エムディエヌコ ーポレーション 978-4-8443-6971-4		
学生に対する評価 試験 40% 授業における取り組み 30% 課題等の取り組み 30%		

授業科目名	教育原理	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位	
担当教員名	佐久間 裕之、杉山 倫也、大沢 裕			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標				
①教育の基本的諸概念、教育の理念、本質及び目的・目標に関する基本的事項を理解し、説明できる。				
②教育を成り立たせる諸要因（子供、教員、家庭、学校等）とそれらの相互関係を理解し、説明できる。				
③家族や社会を中心に行われてきた教育の歩みと、その中にみられる教育の理念について理解し、説明できる。				
④近代教育制度の成立・展開と、その中にみられる教育の理念について理解し、説明できる。				
⑤代表的な教育家の思想や、家庭や子供及び学校や学習に関わる教育の思想と、教育の理念や実際の教育との関係を理解し、説明できる。				
⑥現代における教育課題を歴史的な視点から理解し、説明できる。				
授業の概要				
この授業では、受講生が「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」の基本的諸事項について理解し、各自の教育観の育成に資するために、次の内容を取り上げて解説・考察する。				
①教育の基本的諸概念並びに教育の多様な理念				
②教育を成り立たせる諸要因の相互関係				
③過去から現代に至る教育の歴史と教育の理念との関係				
④教育の思想と教育の理念及び実際の教育との関係				
⑤歴史的な視点から捉えた現代の教育課題				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	授業への導入	授業の概要、テーマ及び到達目標、授業計画、授業の方法、成績評価、受講上の留意点等について理解する。		
第 2 回	教育の基本的諸概念	教育の語義と概念、教育に関連の深い諸概念（発達、成長、成熟、養育、保育、形成、学習等）について理解する。		
第 3 回	教育を成り立たせる諸要因の相互関係	教育を成り立たせる諸要因（子供、教員、家庭、学校等）とそれらの相互関係について理解する。		
第 4 回	教育の理念（１）その意味と多様性	教育の理念、本質及び目的・目標の意味と、歴史上に表れたその多様な捉え方（注入主義と開発主義等）を理解する。		
第 5 回	教育の理念（２）「人格の完成」	日本における教育の理念を特に教育基本法に定められた「人格の完成」の観点から理解する。		
第 6 回	教育の理念（３）「生きる力」の育成	日本の学校教育における教育の理念を特に学習指導要領に示された「生きる力」の育成の観点から理解する。		
第 7 回	教育の歴史（１）家族や社会による教育の歩み	家族や社会を中心に行われてきた教育の歩みと、その歩みの中にみられる教育の理念について理解する。		
第 8 回	教育の歴史（２）西洋における近代教育制度	西洋における近代教育制度の成立・展開と、その中にみられる教育の理念について理解する。		
第 9 回	教育の歴史（３）日本における近代教育制度	日本における近代教育制度の成立・展開と、その中にみられる教育の理念について理解する。		
第 10 回	教育の思想（１）西洋の代表的な教育家の思想	西洋における代表的な教育家の思想と、それに関係の深い教育の理念について理解する。		
第 11 回	教育の思想（２）日本の代表的な教育家の思想	日本における代表的な教育家の思想と、それに関係の深い教育の理念について理解する。		

第 12 回	教育の思想（３）家庭や子供に関わる教育の思想	家庭や子供を主題とする教育の思想に立ち入り、その思想と教育の理念や実際の教育との関係について理解する。
第 13 回	教育の思想（４）学校や学習に関わる教育の思想	学校や学習を主題とする教育の思想に立ち入り、その思想と教育の理念や実際の学校教育との関係について理解する。
第 14 回	現代の教育課題	現代の家庭・学校・社会が抱えるさまざまな教育課題を歴史的な文脈の中で読み解く。
第 15 回	授業の総括	授業を総括し、教育の理念並びに歴史及び思想を学ぶ重要性について理解するとともに、各自の教育観の育成へ向けての今後の学修課題を自覚する。
定期試験	期末試験	これまでの授業内容に関する期末試験を実施する。

テキスト

授業開始時に指示する。

参考書・参考資料等

佐久間裕之編著『教育原理（改訂第２版）』玉川大学出版部、2022年／山口意友『教育の原理とは何か（改訂版）』ナカニシヤ出版、2017年／湯川次義『新編 よくわかる教育の基礎（第２版）』学文社、2016年／勝野正章他『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年／文部科学省『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）／『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）／教育関連の法規及び答申（詳細は授業時に指示）／その他、必要に応じ適宜指示する。

学生に対する評価

①授業内容の予習・復習に関する授業外課題 30%

②授業内で取り組む課題（ワークシート等） 20%

③期末試験 50%

授業科目名	教育哲学	教員の免許状取得のため の選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単 独	単位数： 2単位	
担当教員名	佐久間 裕之、山口 圭介			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業のテーマ及び到達目標 ①教育哲学の学問的特長と方法について説明できる。②教育史上の代表的な思想家についてその主要な思想内容を歴史的に説明できる。③教育哲学上の理念や概念について説明できる。④現代の教育課題について教育哲学の立場から説明できる。				
授業の概要 本講義は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当するものであるから、「教育の理念・歴史・思想」を主要テーマとして学んでいく。その方法として、歴史上代表的な教育思想家の言説を学びながら、彼らの教育思想がどのように語られていたかを概観する。次に先哲達が唱えた教育の理念や概念を個別的な観点から哲学的に考察し、教育の普遍的な目的・理念を確認していく。そして現代の教育課題に対する教育哲学の意義・有効性について考える。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	授業の概要	①授業の概要、授業の方法、成績評価、受講上の留意点を示し、②教育哲学とはどのような学問かについて概説する。		
第2回	教育哲学の方法	教育哲学を学ぶにあたっては①教育哲学者を研究の対象とする方法と②教育の「理念」や「概念」を研究の対象とする二つがあることを学修する。		
第3回	教育思想家を中心に考察することの意義	ソクラテス、プラトン、アリストテレスに始まる古代哲学者から現代における教育哲学者の思想を歴史的に学ぶ場合の方法について具体的に学修する。		
第4回	教育の理念を中心に考察することの意義	教育基本法にも示される「真理」「正義」「人格」「人格の完成」「自律」「平等」というような理念や、「形式陶冶」「実質陶冶」「注入主義」「開発主義」等の教育的概念を中心に学ぶ場合の方法について具体的に学修する。		
第5回	教育哲学における歴史と思想Ⅰ－古代－	古代の教育思想家の哲学を歴史的に概観する。		
第6回	教育哲学における歴史と思想Ⅱ－中世－	中世の教育思想家の哲学を歴史的に概観する。		
第7回	教育哲学における歴史と思想Ⅲ－近世・近代－	近世、近代の教育思想家の哲学を歴史的に概観する。		
第8回	教育哲学における歴史と思想Ⅳ－現代－	現代の教育が先哲の思想的影響をどのような形で受けているのかを確認する。		
第9回	教育の理念を求めてⅠ－真理と正義－	すでに学んだ先哲の思想を参考にしながら、「真理」「正義」などの教育基本法に記されている教育理念について考察する。		
第10回	教育の理念を求めてⅡ－人格の完成－	先哲の思想を参考にしながら、「人格」「人格の完成」などの同法に記されている教育理念について考察する。		
第11回	教育の理念を求めてⅢ－自律と平等－	先哲の思想を参考にしながら、「自律」「平等」などの同法に記されている教育理念について考察する。		
第12回	教育の理念を求めてⅣ－形式陶冶と実質陶冶－	先哲の思想を参考にしながら、「形式陶冶」「実質陶冶」などの教育学上の主要概念について考察する。		

第 13 回	教育の理念を求めてⅤ ー注入主義と開発主義ー	先哲の思想を参考にしながら、「注入主義」「開発主義」などの教育学上の主要概念について考察する。
第 14 回	現代の教育課題と教育哲学	今まで学んだ教育の理念・歴史・思想に基づき、現代の教育課題について考察する。
第 15 回	講義の総括	これまでの講義内容を総括し、教育哲学が教育の根本的な問題を問うていることを改めて確認する。
定期試験	期末試験	これまでの講義内容に関する期末試験
テキスト 必要に応じてプリント配布		
参考書・参考資料等 三井浩『愛の場所—教育哲学序説』玉川大学出版部、1974 年／三井善止『哲学の立場』玉川大学出版部、1990 年／イブラエル・シェフラー著、生田久美子・松丸修三訳『教育のことば——その哲学的分析』東洋館出版社、1981 年／ヴォルフガング・ブレツィンカ著、小笠原道雄訳『教育科学の基礎概念』黎明書房、1980 年／斎藤昭『教育的存在論の探究——教育哲学叙説』世界思想社、1999 年／山口意友『正義を疑え！』筑摩新書、2002 年／高山岩男『高山岩男著作集〈第 6 巻〉場所的論理と呼応の原理・教育哲学』玉川大学出版部、2009 年／ネル・ノディングス著、宮寺晃夫監訳『教育の哲学』世界思想社、2006 年／小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社、2003 年／佐久間裕之編著『教育原理（改訂第 2 版）』玉川大学出版部 2022 年／文部科学省『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）／『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示）／教育関連の法規及び答申（詳細は授業時に指示）／その他、必要に応じ適宜指示する。 その他講義内で随時紹介。		
学生に対する評価 講義の予習・復習に係る課題 30%、授業内での課題への取り組み 20%、期末試験 50%		

授業科目名	教職概論	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独		単位数： 2 単位
担当教員名	佐久間裕之、杉山倫也、山口圭介			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①教育の動向を踏まえ、教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について理解し、説明できる。				
②学校が担う役割の拡大・多様化を理解し、効果的な「チーム学校への対応」について説明できる。				
③各自の教職への意欲・適性・進路選択の基盤となる教職の在り方について説明できる。				
授業の概要				
本授業では、受講生各自が教職への意欲を高め、適性を判断し、そして進路選択に資する教職の在り方を理解するために、次の内容を解説・考察する。				
① 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義。				
② 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力。				
③ 教員の職務内容の全体像・教員の服務上・身分上の義務。				
④ 学校が担う役割の拡大・多様化と「チーム学校への対応」。				
⑤ 教員養成・教員資格・教員採用等の仕組みと機会。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	①授業への導入 ②「教職」の概念	①授業の到達目標、計画、方法、成績評価、受講上の留意点等を説明する。 ②「教職」の概念と各自の教職へのイメージを比較する。		
第 2 回	公教育の目的と教員の存在意義	公教育の目的を理解し、その担い手としての「教員」の存在意義について、「教員」「教師」「教育者」等の概念の比較から、解説・考察する。		
第 3 回	教職の職業的特徴	他の職業との比較をとおして、教職の職業的特徴を解説・考察する。		
第 4 回	教職観の変遷と教員の役割Ⅰ：歴史上の教師	歴史上の優れた教師とその特質を概観し、教師の役割・資質能力・適性等について解説・考察する。		
第 5 回	教職観の変遷と教員の役割Ⅱ：代表的な教職観	聖職者・労働者・専門職等の代表的な教職観を概観し、教職の意義・教員の役割について解説・考察する。		
第 6 回	教員の資質能力	教職観の変遷及び教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる基礎的な資質能力について解説・考察する。		
第 7 回	教員の職務内容Ⅰ：教員の職務の全体像	学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導、それ以外の校務等、教員の職務内容の全体像を解説・考察する。		
第 8 回	教員の職務内容Ⅱ：教員研修と生涯学習	教員研修について、概要、意義、制度上の位置付け等について解説し、生涯学び続ける必要性について考察する。		
第 9 回	教員の職務内容Ⅲ：教員の服務及び身分保障	教員の服務上、身分上の義務と身分保障について解説・考察する。		
第 10 回	チーム学校への対応Ⅰ：拡大・多様化する学校の役割	学校を取り巻く現状と課題及びその役割の拡大と多様化について解説・考察する。		
第 11 回	チーム学校への対応Ⅱ：専門家達との連携・分担	学校の諸課題に対応するために、教職員や多様な専門性をもつ人材と、チームとして、効果的に連携・分担する重要性について解説・考察する。		

第 12 回	教職への機会Ⅰ：教員養成と教員資格	日本の教員養成の歴史を概観し、教員養成と教員免許制度の特徴について解説・考察する。
第 13 回	教職への機会Ⅱ：教員採用の仕組みと機会	教員採用試験の仕組みと機会、またそれ以外の教職への機会について解説・考察する。
第 14 回	教職への機会Ⅲ：教職への進路選択と課題	これまで学修してきた事柄にもとづき、教職への進路選択について、自らの意欲・適正を考察する。
第 15 回	講義の総括：教職の重要性、現状、課題	講義を総括し、現代社会における教職の重要性、現状、課題について考察する。
定期試験	期末試験	これまでの講義内容に関する期末試験を実施する。
テキスト 佐久間裕之編著『教職概論』玉川大学出版部、2021 年		
参考書・参考資料等 文部科学省『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）／『高等学校学習指導要領』／『生徒指導提要』／教職関連の法規及び答申（詳細は授業時に指示する）		
学生に対する評価 ①授業外の事前・事後学習の課題 30％ ②授業内の学習（ワークシート・発問への回答・授業への参加等）20％ ③期末試験 50％		

授業科目名	教育の制度と経営	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位	
担当教員名	坂野慎二、湯藤定宗、内山(橋本)絵美子			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校との地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的知識を身に付けるとともにそれらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。				
授業の概要 各教育段階における制度的・歴史的理解、そして諸外国との比較を通して、日本の教育の実態を理解しつつ、学校が有する課題を把握し、教育の制度と経営のあるべき姿について考察する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	公教育の基本原理	国は、義務性、無償性、中立性といった原理に基づき、公教育を整備してきたことを理解し、学校教育を中心とした公教育について基本的な考え方を理解する。		
第 2 回	就学前教育制度	就学前教育を対象に、教育・保育制度の概要、現状、及び展望について理解する。		
第 3 回	義務教育（初等・前期中等教育）制度	義務教育（特別支援教育を含む）を対象に、義務教育の基本的事項、現状と課題について理解する。		
第 4 回	後期中等教育制度	後期中等教育（高等学校等）を対象に、現行制度と現状、及び近年の改革動向について理解する。		
第 5 回	高等教育・生涯教育制度	高等教育制度の概要、高等教育機関の社会的役割、生涯学習の定義、及び生涯学習社会における「学び」について理解する。		
第 6 回	教育行政制度 1（国と地方）	教育行政の諸原則、国と地方の役割分担や相互の関係といった基本的な事項、国の教育行政の組織や役割について理解する。教育課程や教科書に関する行政、高等教育行政など特に国の教育行政の諸領域について理解する。		
第 7 回	教育行政制度 2（地方・財政）	教育委員会の役割や首長との分担関係などの基本的な仕組みと、制度改革の歴史を理解する。教育財政に関する基本的な仕組みと現状を理解する。		
第 8 回	学校の組織・経営・評価	自律的学校経営、校務分掌等の学校組織、校長のリーダーシップ、PDCA に基づく学校評価について理解する。		
第 9 回	学校と地域との連携	学校と地域との連携のための制度としての学校評議員、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）、学校支援地域本部、地域学校協働本部と地域学校協働活動に関して、制度概要と普及状況、意義と課題について理解する。		
第 10 回	学校・学級の諸課題	日本の学校教育の課題を確認する。各課題（いじめ、不登校、外国人児童生徒等への教育、学校安全）について理解する。各課題を踏まえた効果的な学級経営についても理解する。		
第 11 回	海外の学校制度と教育の国際化	欧米主要各国を対象として、教育行政制度と主要な学校制度を理解する。国際学力調査を取り上げ、これらが我が国の教育政策の形成にどう関わってきたのかを理解する。また、国際バカロレアの概要について理解する。		

第 12 回	学校教育制度の成立と発展	日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのかを概観し、社会の変化に呼応し学校制度がどのように変化してきたのかを理解する。
第 13 回	学校教育制度の展開	戦後から現在までの教育改革の流れを概観する。その際、時代の変化に呼応し学校教育がどのような変遷を遂げてきたのかを理解する。
第 14 回	学校教育制度の行方	個々人がその能力に応じた教育の機会を保障され、社会で活躍することが可能になるためには、どのような教育制度、教育政策が必要かについて理解する。
第 15 回	教育の制度と経営に関するまとめ	今日の教育改革を概観し、本授業全体を制度的・経営的に理解する。
定期試験	実施する	第 1 回から第 15 回までの授業内容についてどの程度理解できているかを論述形式も含めて問う。
テキスト 坂野慎二・湯藤定宗編（2022 年）『学校教育制度概論【3 版】』玉川大学出版部		
参考書・参考資料等 木村元（2015 年）『学校の戦後史』岩波書店。勝野正章他編（2021 年）『教育小六法』学陽書房。末松裕基・林寛平編（2016 年）『未来をつかむ学級経営』学文社。		
学生に対する評価 試験 40%、授業中における取り組み 15%、課題等の取り組み 15%、ポートフォリオ（各回の復習）の作成 30%		

授業科目名	教育社会学	教員の免許状取得のための選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：単独	単位数：2単位	
担当教員名	谷村英洋			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校との地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。				
2. 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。				
3. 近年の教育政策の動向を理解している。				
4. 諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。				
5. 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解できる。				
6. 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解できる。				
授業の概要				
日々報道される教育問題や教育事象について、それぞれ独自の印象や考えを持っていることでしょう。そうした印象や考えは自分の家庭や学校での教育経験に基づいているものではないでしょうか。教育社会学では、印象論や通説、個人の体験を鵜呑みにするのではなく、社会と教育の関係について、データを用いて実証的に分析・考察していきます。この授業では教育社会学の基礎的な理論、概念や方法論を学習し、それらについて説明できるようになることを目的とします。そして、皆さんが教育社会学の視点から、多用な教育現象を主体的に考察できるようになることを目指します。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	イントロダクション 授業の進め方、受講上の注意、評価方法、教育社会学の視点	授業の進め方、受講上の注意、評価方法について説明する。 また、教育社会学の視点について学ぶ。		
第2回	教育と選抜（1） 近代学校、業績主義	近代学校の誕生と業績主義社会の出現について学ぶ。		
第3回	教育と選抜（2） 立身出世主義、文化的再生産論	立身出世主義と文化的再生産論について学ぶ。		
第4回	教育と選抜（3） 大衆教育社会、学歴主義	教育の大衆化と業績主義社会の変容について学ぶ。		
第5回	教育とジェンダー ジェンダー かくれたカリキュラム	ジェンダーの「かくれたカリキュラム」について学ぶ。		
第6回	学校の社会学（1） 学校の社会的機能	日米を中心とした国際比較の中で、学校とは何か、学校や学級の秩序はいかにして保たれるのか、その制度的、組織的特質を学ぶ。		
第7回	学校の社会学（2） 教育の国際化	教育の国際化について、各国間の教育交流を IB 教育の視点からを含めて学ぶ。		
第8回	教員養成の社会学（1） 養成課程、学校現場、連携	教員養成制度の変遷と教員養成のプロセスについて学ぶ。		
第9回	教員養成の社会学（2） 教員養成改革	日本の教員養成改革における現場主義の傾向と教員に対する現代的要請について学ぶ。		
第10回	教育格差 学力、階層、地域連携	学校と地域・家庭の連携による教育格差・学力格差の克服について学ぶ。		
第11回	教育病理 非行、校内暴力、不登校、いじめ	教育病理の変遷とその社会的背景について学ぶ。		

第 12 回	教育と社会の接続 (1) 大学と社会連携、地域連携	社会における大学の存在意義と社会からの期待について学ぶ。
第 13 回	教育と社会の接続 (2) 大学進学率、汎用的能力	大学教育の量的・質的变化と、社会との接続について学ぶ。
第 14 回	教育と社会 社会変動	教育がいかに社会およびその変化と関連しているのかについて考察する。
第 15 回	講義の総括	これまでの内容を振り返り、教育社会学とは何かを考える。
試験	実施する	学習内容を適切に理解し、それらを踏まえながら教育に関わる諸現象や自らの考えを説明することができる。

テキスト

必要においてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房

『改訂版 学校システム論』放送大学教育振興会

『教育社会学』ミネルヴァ書房

『中学校学習指導要領』文部科学省平成 29 年 3 月告示に基づく

『高等学校学習指導要領』文部科学省平成 29 年度中改正予定内容に基づく

学生に対する評価

定期試験 60%、授業における取り組み 30%、課題等の取り組み 10%

授業科目名	学習・発達論	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2 単位	
担当教員名	魚崎(福田)祐子、岩田恵子			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。				
授業の概要 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わるものとして必要な発達と学習の支援のあり方について考える。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	発達とは	発達の定義について学び、発達に影響を及ぼす要因について検討する		
第 2 回	発達段階と発達課題	発達段階とそれぞれの段階における発達課題について学ぶ		
第 3 回	運動発達	粗大運動と微細運動の発達について学ぶ		
第 4 回	言語発達	言語の発達過程について学ぶ		
第 5 回	認知発達	ピアジェの認知発達理論について学ぶ		
第 6 回	社会性の発達	愛着の発達や道徳性の発達について学ぶ		
第 7 回	自己と自我の発達	自我同一性の発達や青年期の社会性の発達について学ぶ		
第 8 回	行動からみた学習	古典的条件づけとオペラント条件づけによる学習について学ぶ		
第 9 回	認知からみた学習	記憶の過程について学び、記憶方略について考える		
第 10 回	参加からみた学習	実践共同体への参加という観点から人が学ぶということを考え直す		
第 11 回	動機づけ	内発的動機づけと外発的動機づけについて学び、達成動機との関係について考える		
第 12 回	集団づくり	学級の中の人間関係について学ぶ		
第 13 回	学習評価	測定と評価について学び、評価の妥当性や信頼性について考える		
第 14 回	多様な学びを支える視点	特別な教育的ニーズの存在を考え、子どもの多様性に合わせた学びの場について学ぶ		
第 15 回	発達と教育	発達と教育との関係について学ぶ		
定期試験	期末試験	授業内容の理解度を確認する		

テキスト 岩田恵子編著「教えと学びを考える学習・発達論」玉川大学出版部
参考書・参考資料等 内藤佳津雄他「Next 教科書シリーズ 発達と学習」弘文堂 外山紀子・外山美樹「やさしい発達と学習」有斐閣アルマ 柏崎秀子「発達・学習の心理学 改訂版」北樹出版
学生に対する評価 幼児、児童、生徒の発達と学習の過程について、基礎的な知識を身につけているのか、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について説明することができているのかによって評価する。 試験 70%、授業における取り組み 15%、課題等の取り組み 15%

授業科目名	発達心理学	教員の免許状取得のため の選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・ 単独	単位数： 2 単位	
担当教員名	魚崎(福田)祐子、岩田恵子			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
授業のテーマ及び到達目標 人間の発達を多角的にとらえ、出生前の発達・乳幼児期・児童期・青年期初期・青年期中期にかけてのそれぞれの時期において、身体・認知・感情・言語・社会性の基礎を理解する。また、発達障害の分類や特徴について学び支援に役立てることができる基礎知識を獲得する。				
授業の概要 人間の発達を多角的にとらえ、出生前の発達・乳幼児期・児童期・青年期初期・青年期中期にかけてのそれぞれの時期において、身体・認知・感情・言語・社会性の基礎を学ぶ。また、発達障害の分類や特徴について学び、どのように支援に役立てることができるか考察する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	発達とは何か	発達の諸側面と発達に対する考え方を理解し、教育に携わる上で、発達を理解することの意義を考える		
第 2 回	発達の基本原理	発達の特徴や、発達の方向性・連続性・周期性などの基本原理を学ぶ		
第 3 回	出生前の発達	受精から誕生まで発達の变化と様々な環境要因の影響を学ぶ		
第 4 回	乳幼児期の発達①	保育園・幼稚園時期：乳児期の子どもの身体的生物学的発達と、認知発達について学ぶ		
第 5 回	乳幼児期の発達②	保育園・幼稚園時期：乳児期の子どもの社会性と感情・情緒的発達について学ぶ		
第 6 回	乳幼児期の発達③	保育園・幼稚園時期：幼児期の子どもの認知発達（言語・論理的思考など）について学ぶ		
第 7 回	乳幼児期の発達④	保育園・幼稚園時期：幼児期の子どもの自己概念の発達や社会性（心の理論・模倣・遊びなど）の発達について学ぶ		
第 8 回	児童期の発達①	小学校時期：小学生の身体的発達・認知発達・発達課題について学ぶ		
第 9 回	児童期の発達②	小学校時期：小学生の社会的ルールの獲得や自己概念及び友人関係について学ぶ		
第 10 回	青年期初期の発達①	中学校時期：思春期特有の身体的情緒的变化・認知的発達を学ぶ		
第 11 回	青年期初期の発達②	中学校時期：中学生の自己概念の発達とともに友人関係・親子関係などの社会的発達を学ぶ		
第 12 回	青年期中期の発達	高等学校時期：高校生の発達特徴や発達課題および仲間関係・異性関係・自己肯定観感などについて学ぶ		
第 13 回	発達障がい①	発達障害とは？DMS-V による分類 及び(1)自閉症スペクトラム障害について学ぶ		
第 14 回	発達障がい②	(2)ADHD（注意欠陥・多動性障害）、(3)限局性学習障害 及び発達論的視点からの発達障害児への理解について学ぶ		
第 15 回	発達障がい③	発達論的視点から発達障害児の学校教育と保護者への支援の在り方を考える		
定期試験	期末試験	授業の習熟度を確認する		

テキスト 高平小百合編著「教えと学びを考える発達心理学」玉川大学出版部
参考書・参考資料等 塩見邦雄編「対話で学ぶ発達心理学」ナカニシヤ出版 無藤隆・子安増生 編「発達心理学Ⅰ」東京大学出版 小野寺敦子「手に取るように発達心理学がわかる本」かんき出版
学生に対する評価 出生前から青年期までの発達の過程について、基礎的な知識を身につけているか、各発達段階における5つの基礎となる枠組みである身体・認知・感情・言語・社会性について、それぞれ説明することができているかによって評価する。 試験 70%、授業における取り組み 15%、課題等の取り組み 15%

授業科目名	教育心理学	教員の免許状取得のための選択科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：単独	単位数：2単位	
担当教員名	岩田恵子			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
授業のテーマ及び到達目標 学校現場におけるさまざまな現象を心理学的な視点から説明することができるようになること				
授業の概要 教師という職業を目指すにあたり、教師の日常の仕事に関わる様々な事柄を、心理学の理論・知見から考える。幼児・児童・生徒、及び教師自身の学習の過程、協働学習の理論、コミュニティと学習を中心に、より良い「授業づくり」「学校づくり」に役立つ知見を学ぶ。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	教育心理学で学ぶこと	教育という場を心理学から考える意義を検討する 発達と教育の関係について学ぶ		
第2回	学習の理論	行動・認知・コミュニティの参加の視点から学習を捉える		
第3回	学習への意欲と動機づけ	動機づけのメカニズムについて学ぶ		
第4回	知識の獲得と問題解決	知識の獲得と問題解決の過程について学ぶ		
第5回	学習方略と学習習慣	学習方略、学習習慣、学習観について学ぶ		
第6回	授業における談話	教室における談話の特徴、教師と生徒のやりとりや授業のタイプについて学ぶ		
第7回	個に応じた学び	個別最適な学び、子どもの発達、力に即した授業づくりについて学ぶ		
第8回	学び合う集団の形成	アクティブ・ラーニング、主体的な学習について学ぶ		
第9回	仲間との協働学習	協働的な学び、協働学習の理論、グループ学習の方法について学ぶ		
第10回	授業と学習環境のデザイン	授業と学習環境のデザイン、授業とメディア・ICTについて学ぶ		
第11回	教室の中の人間関係	学校における仲間との関係		
第12回	不適応への理解と指導	学校における不適応の課題について学ぶ		
第13回	発達障がいと特別支援教育	発達障がいと特別支援教育について学ぶ		
第14回	学び続ける教師	学び続ける教師、教師の学び合うコミュニティについて学ぶ		
第15回	教育における評価	教育における評価、授業における学習プロセスを捉える研究方法について学ぶ		
定期試験	期末試験	授業の習熟度を確認する		
テキスト 魚崎祐子(編)「教えと学びを考える 教育心理学」玉川大学出版部				
参考書・参考資料等 秋田喜代美・坂本篤史「学校教育と学習の心理学」岩波書店 藤田哲也「絶対役立つ教育心理学」ミネルヴァ書房				

森敏昭・秋田喜代美（編）「教育心理学キーワード」有斐閣

学生に対する評価

幼児・児童・生徒、及び教師自身の学習の過程、協働学習の理論、コミュニティと学習について心理学の理論と知見から正しく理解し、心理学の用語と理論で説明することができるかによって評価する。

試験 70%・授業における取り組み 15%・課題等の取り組み 15%

授業科目名	特別支援教育	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 1 単位	
担当教員名	長江清和、渡邊雅俊、齋藤 大地			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導等のシステムを理解する。と、同時に通常の学級に在籍するLD、ADHD等のそれぞれの障害特性等を認知心理学の視点から理解し、その指導法や学級運営、学校外のリソース活用の方法、将来の就労、社会生活などについて、実践に移せる知識や技術を得、障害者権利条約に基づく合理的配慮について理解する。				
授業の概要 障害児教育は平成 19 年度から「特別支援教育」として大きな転換をしています。そこで本授業では、従来の障害児教育の概要と、小・中学校の通常の学級に在籍しているLD、ADHD等の障害のある子どもたちの理解や指導の方法、将来の社会生活などに向けた教育内容等の知識を身につけ、インクルーシブ教育について考えていく。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回 (50 分授業)	障害児教育と特別支援教育～教室の中の指導の難しい子どもたち～	教室の中にいる指導の難しい子どもたちはどのような子どもたちで、小・中学校の先生たちはどのような点で苦勞しているのかを考える。その上で、平成19年4月から始まった「特別支援教育」の対象児をはじめとした教育制度全体を概観する。小・中学校の通常の学級に在籍する「指導の難しい子どもたち」の多くが、「ADHD」「LD」「反抗挑戦性障害」「ボーダー」といわれている子どもたちであることを知るとともに、学校現場の状況を概観する。また、障害はないが母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもたちの実態についても理解する。		
第 2 回 (50 分授業)	特別支援教育の対象とシステムについて概観する	「特別支援学校」「特別支援学級」「通級による指導」の対象と教育制度を理解する。		
第 3 回 (50 分授業)	特別支援教育の歴史的変遷と国際的状況について概観する	特別支援教育の歴史的変遷、国際的状況について概観し、今後の課題である「インクルーシブ教育」「合理的配慮」について理解する。また、「グローバル化」「21世紀型スキル」「新学習指導要領」との関係についても考える。		
第 4 回 (50 分授業)	障害児の基礎心理学	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、LD、ADHD等の感覚、知覚、認知、記憶、学習について概観する。		
第 5 回 (50 分授業)	障害児の認知発達	ピアジェの発達理論とヴィゴツキーの発達の最近接領域説を中心に学修し、障害児の発達と指導の基本的な考え方を理解する。		
第 6 回 (50 分授業)	障害児の認知心理学	情報処理の観点から、知覚、理解、記憶、思考、学習、推論、問題解決などの人間の高度認知機能について概観し、障害児の指導・方法等について考える。		
第 7 回 (50 分授業)	障害児の運動発達と具体的プログラム	障害の特性から生ずる運動発達の課題を理解する。特に知的障害の特性を踏まえた指導法について具体的なプログラムを考える。		
第 8 回 (50 分授業)	障害児の運動発達理論（ムーブメント教育・療法）	「生理学」「心身発達学」「発達診断学」「ムーブメント教育・療法理論」を体験に基づき、理解する。		

第 9 回 (50 分授業)	LD (学習障害)	学習障害の障害特性、特に「読字障害」「書字障害」「計算障害」のある子どもたちについて、その現れる障害像と対処の方法を考える。 学習障害は「認知の障害」といわれているが、その原因を視覚的認知と聴覚的認知の両側面から考えていく。
第 10 回 (50 分授業)	ADHD (注意欠陥多動性障害)	通常の学級の中の指導の難しい子どものうち最も数多いのは、この注意欠陥多動性障害のある子どもたちである。この子どもたちの障害特性について考える。また、この障害には不注意優先型と多動・衝動型があるが、それぞれについて解説を加える。さらに、この障害の障害特性からくる問題行動を少しでも軽減するための指導のあり方や方法についても考えていく。
第 11 回 (50 分授業)	ADHD、LD の子どもたちの「ソーシャルスキルトレーニング」	子どもたちへの指導の多くが、授業中の態度や学習の理解に向かうが、視野を社会生活や外部連携にまで大きくとって、ソーシャルスキルトレーニングの概要、進め方、チェックリスト等について整理し、必要性和課題について考える。 また、WHO のライフスキルにまで言及し、将来の社会生活での適応を考える。
第 12 回 (50 分授業)	ADHD、LD の子どもたちの「就労支援」	ジョブコーチや特例子会社、学校卒業後の相談活動の具体的事例や実践を通して、人生の大半を占める「職業生活」と「職業教育」について考える。
第 13 回 (50 分授業)	学校におけるユニバーサルデザイン化と一人ひとりの学習方法	「指導の難しい子ども」は文字通り指導が難しく手がかかることから、こうした子どもにのみ着目した指導が行われがちだが、すべての子どもたちにとってわかりやすく、理解できる授業や生活の指導をしていくことが必要なのではないだろうか。ユニバーサルデザイン的な考え方の指導を行う中で、「指導の難しい子ども」に対しても指導を行うといった考え方を持つことが必要である。そのため、ユニバーサルデザインとは何かから始まり、指導の難しい子どもたちを含めたすべての児童に対する一人ひとりにあった効果的な指導のあり方を考えていく。
第 14 回 (50 分授業)	特別支援教育の 5 つのシステムとインクルーシブ教育	特別支援教育の制度化に合わせて校内で義務化されたシステムとその役割について概説する。制度ではすべての学校に「特別支援教育コーディネーター」と「校内委員会」を設置することが定められたが特別支援教育コーディネーターの校内における役割を解説するとともに、校内委員会の役割やその果たすべき機能について考える。さらに、校内委員会の機能を効果的にするための校外の様々な資源（機関）についても概説する。
第 15 回 (50 分授業)	授業のまとめ	障害はないが母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもたちの課題を理解する。また、障害者権利条約に基づく「合理的配慮」について言及し、インクルーシブ教育について考える。最後に、第 1 回目から 14 回目までの授業を振り返り、指導の難しい子どもたちに対して、どのような考え方をもちどのように接していったらよいのかを総括的にまとめる。
定期試験	実施しない	
テキスト 指定しない。(講師自作の資料を配布する。)		
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。		

学生に対する評価

授業に対する取り組み（20％）授業の学修内容に向けた考えを表出するアンケートと授業内容の振り返り等の内容の課題内容を報告するアンケートを、毎時間実施する。この提出を必須とする。

レポート（70％）授業内容を理解した上で、自らの考えを論述することを課題とするレポートを、中間と最終で2回実施する。

小テスト（10％）学修内容を確認する小テストを授業の中で2回程度実施する。基本的な用語の意味等が正しく答えられるかを確認する。

授業科目名	教育課程編成論	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数：2単位	
担当教員名	湯藤定宗、石塚等			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育課程への意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。				
授業の概要 学校で教育課程の編成するための基盤となる学習指導要領を理解し、学校における教育課程編成の方法並びにカリキュラム・マネジメントの意義を理解する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	教育課程とは	教育課程とは何か、何のために、何をもって構成するのか、学習指導要領は教育課程とどのように関わるのかを考える。		
第2回	教育課程編成の基本原則	教育課程編成を支える基本原則を理解すると共に、学習指導要領をその原理において構造的に把握する。		
第3回	資質・能力の育成と教育課程	資質・能力を基盤とした学力論とそれが求められるようになった背景や意義、教育課程との関わりについて考える。		
第4回	就学前教育と幼稚園教育要領等	就学前教育段階における教育の意義と内容について、幼稚園教育要領を中心にその構成と内容を検討する。		
第5回	小学校と学習指導要領	初等教育段階における教育課程編成の枠組を小学校学習指導要領に基づいて検討する。		
第6回	中学校と学習指導要領	前期中等教育段階における教育課程編成の枠組を中学校学習指導要領に基づいて検討する。		
第7回	高等学校と学習指導要領	後期中等教育段階における教育課程編成の枠組を高等学校学習指導要領に基づいて検討する。		
第8回	特別支援教育と学習指導要領	特別支援教育の目的を理解し、小中高等学校学習指導要領と特別支援教育の教育課程との関係について検討する。		
第9回	単元計画と授業づくり	学校における教育課程編成の基本単位としての単元を理解し、その授業づくりとの関係について検討する。		
第10回	カリキュラム・マネジメントと年間指導計画	学年や学校段階間の連携・接続、教科等横断的な視点を踏まえた年間指導計画の作成の意義とその実際について考える。		
第11回	カリキュラム評価と学習評価	指導と評価の一体化の考え方を踏まえ、学習評価とカリキュラム評価の有機的な関連づけの意義と実際について考える。		
第12回	学習指導要領の変遷－その1	学習指導要領がどのような目的で作成されたのかを、戦後教育改革から高度経済成長期を対象に検討する。		
第13回	学習指導要領の変遷－その2	教育の人間化から、新学力観、「生きる力」へと変化してきた学習指導要領の在り方を検討する。		
第14回	学習指導要領の変遷－その3	21世紀以降の資質・能力観の変化と、学習指導要領の変化を検討する。		
第15回	社会における学校の役割と教育課程	社会における学校の役割とそこに求められる教育課程の在り方について検討する。		
定期試験	実施する	教育課程編成の意義や方法を理論に基づいて理解し、実際に学校でどのように編成するのかをまとめる。		

テキスト 別途指示する
参考書・参考資料等 奈須正裕・坂野慎二編『教育課程編成論』（新訂版）玉川大学出版部、2019 年。西岡加名恵『教育課程』協同出版、2017 年。松尾知明『未来を拓く資質・能力と新しい教育課程』学事出版、2016 年。奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社、2017 年 各学校学習指導要領及び解説総則編（平成 30 年度告示 文部科学省）
学生に対する評価 試験 40%、授業中における取り組み 15%、課題等の取り組み 15%、ポートフォリオ（各回の復習）の作成 30%

授業科目名	道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2単位	
担当教員名	杉山倫也、山口圭介、元 笑予			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法			
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 道徳の意義や原理、これらを踏まえた学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と要となる道徳科の目標や内容、指導計画などの「道徳の理論」、(2)教材の研究や学習指導案の作成、模擬授業の計画・実践などの「道徳の指導法」、の各々についての理解を深めることによって、次の10の到達目標の達成を図る。				
1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明することができる。				
2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。				
3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。				
4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。				
5) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。				
6) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。				
7) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。				
8) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。				
9) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。				
10) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。				
授業の概要				
自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性の育成を目指す学校における道徳教育を実践するため、これに不可欠なことがらを広く理解するとともに、道徳授業で求められる基本的な技能の習得を図り、実践的な指導力の獲得を目指す。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	オリエンテーション ～道徳の本質と道徳教育～	伝統的な道徳の意味とその教育の在り方を踏まえつつ、教育基本法に基づく今日的な道徳の意味とその教育の在り方について理解を深める。		
第2回	道徳教育の歴史	近世以降のわが国の道徳教育の歴史を概観することによって、今日のわが国の道徳教育の目指す理念や方向性について考察する。		
第3回	道徳教育の今日的課題	近年の道徳教育に関する政策文書を中心に道徳教育の直面する課題について理解するとともに、これら諸課題に対する国や教育委員会、学校の取組について考察する。		
第4回	道徳性の発達と道徳教育	認知発達理論の立場を中心とする道徳性の発達に関する学修を通して、子供の心の成長についての理解を深め、道徳性の発達と道徳教育との関係について考察する。		
第5回	学校における道徳教育の性格	学校における道徳教育の本質と展望を明らかにしたうえで、家庭や地域社会における道徳教育との連携やその具体的な活動について理解する。		
第6回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と内容	学習指導要領ならびに学習指導要領解説をもとに、各教科・特別活動・総合的な学習の時間など、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と内容について理解する。		
第7回	道徳科の目標と内容	教科化の経緯と道徳科の位置付けを明らかにしたうえで、学習指導要領ならびに学習指導要領解説をもとに、道徳科の目標と内容について理解する。		

第 8 回	学校における道德教育の指導計画Ⅰ～道德教育の全体計画～	道德教育の全体計画（別様を含む）について、作成の意義、作成の手順、盛り込むべき内容等について理解し、作成のポイントやこれを活用した指導の在り方について考察する。
第 9 回	学校における道德教育の指導計画Ⅱ～道德科の年間指導計画～	道德科の年間指導計画について、作成の意義、作成の手順、盛り込むべき内容等について理解し、作成のポイントやこれを活用した指導の在り方について考察する。
第 10 回	学校における道德教育の指導計画Ⅲ～道德科の学習指導案～	道德科の学習指導案について、作成の意義、作成の手順、盛り込むべき内容等について理解し、作成のポイントやこれを活用した指導の在り方について考察する。
第 11 回	道德科の指導方法	道德科の基本的な指導過程を踏まえつつ、「考え、議論する道德」という視点から、道德科の指導において用いられる主な方法について理解する。
第 12 回	道德科の教材研究	道德科における教材の特徴を明らかにしたうえで、学習指導要領に示された道德教育の内容との関連から、指導を効果的にこなうための教材研究の在り方について考察する。
第 13 回	道德科の評価	学習指導要領改訂の議論や学校の教育活動全体を通じて行う道德教育における道德性の評価との関連において、道德科における評価の目的・方法・改善の工夫等について理解する。
第 14 回	道德科の授業改善Ⅰ～模擬授業を通じた改善へのアプローチ～	これまでの学修の成果をふまえて作成された指導案をもとに、グループごとの模擬授業を実施し、協議をとおして、改善の視点を明らかにする。
第 15 回	道德科の授業改善Ⅱ～指導と評価の一体化を目指して～	前回の授業における協議をふまえ、改善を施した指導案をもとに、グループごとの模擬授業を実施し、効果的な改善が図られているかを確認する。
定期試験	実施する	到達目標の 1)～6) についての客観テストを実施する。

テキスト

- ・小学校学習指導要領ならびに中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・渡邊満・山口圭介・山口意友編著『新教科「道德」の理論と実践』、2017、玉川大学出版部。

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領ならびに中学校学習指導要領解説 「総則編」（平成 29 年 6 月/7 月 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説ならびに中学校学習指導要領解説 「特別の教科 道德編」（平成 29 年 6 月/7 月 文部科学省）

学生に対する評価

- ・各到達目標について、主に次の方法を中心とした総合評価をおこなう。（配点の割合は目安）
 - 1) 到達目標 1)～6) については定期試験（60%）、
 - 2) 到達目標 7)～8) については第 14・15 回の模擬授業のための学習指導案（20%）
 - 3) 到達目標 9)～10) については第 14・15 回の授業後の振り返りシート（20%）

授業科目名	総合的な学習の時間の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 1 単位	
担当教員名	富澤（島田）美千子、元 笑予			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法			
授業のテーマ及び到達目標				
・総合的な学習の時間の意義や目標、内容を定める際の考え方を理解する ・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その際必要な知識的な能力を身につける ・総合的な学習の時間の評価と実践上の留意点を理解する				
授業の概要				
総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、必要な基礎的能力を身につけて、実際に指導計画作成ができるようにする。総合的な学習の時間の、各教科や特別活動との関わりを考え、実践上の留意点や評価の考え方を理解する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回 (50 分授業)	オリエンテーション	授業の授業全体の概要、目標、内容、方法を確認する。		
第 2 回 (50 分授業)	授業設置の背景① 授業設置までの歴史的背景	戦後の教育課程の歴史的変遷と総合的な学習の時間の授業設置の背景を知る。		
第 3 回 (50 分授業)	授業設置の背景② 授業設置からの変遷	授業設置後、学習指導要領の総合的な学習の時間における教育目標の変化を確認し、変化の背景を知る。		
第 4 回 (50 分授業)	授業設置の背景③ 現行の問題意識	現行の目標や内容に、どのようなものが求められているか、SDGs 成立の歴史的背景を確認し、かかわりについて知る。		
第 5 回 (50 分授業)	総合的な学習を知る① 歴史的事例	歴史的事例と思想から、総合的な学習の時間の意義について考える		
第 6 回 (50 分授業)	総合的な学習を知る② 事例（１）	地域とのかかわりで学習を創造する授業デザインについて、事例から考える。		
第 7 回 (50 分授業)	総合的な学習を知る③ 事例（２）	課題設定や意味づけにおいて優れた実践を事例にして、授業のデザインについて考える。		
第 8 回 (50 分授業)	総合的な学習の授業デザイン① 授業と評価	探究的で協働的な授業デザインと評価について知る。		
第 9 回 (50 分授業)	総合的な学習の授業デザイン② ICT や学習ツール等活用	ICT 活用や学習ツールの活用など、効果的な授業の進め方について考える。		
第 10 回 (50 分授業)	総合的な学習を創る① 課題設定	自ら課題設定について、具体的に考える。仲間と話し合う。		
第 11 回 (50 分授業)	総合的な学習を創る② 情報収集・整理・分析	自分が立てた課題について、情報収集・整理・分析について具体的に想定する。仲間と話し合う。		
第 12 回 (50 分授業)	総合的な学習を創る③ まとめ・表現	自分の立てた課題に対し、まとめ・表現について考える。仲間と話し合う。		
第 13 回 (50 分授業)	総合的な学習を創る④ 授業計画案、評価	自分の立てた課題に対し、授業計画案と評価を具体的に考える。仲間と話し合う。		
第 14 回 (50 分授業)	総合的な学習を創る⑤ 授業計画案発表	グループを作り、グループ内で学生発表とお互いの評価をする。		

第 15 回 (50 分授業)	授業総括	各グループの報告と全体総括をする。また、授業全体を通して、振り返りまとめを行う。
定期試験	定期試験なし	筆記試験は行わない。
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年3月告示） 『子どもたちの創造力を育む総合的な学習の時間』（富澤美千子、大学教育出版）		
参考書・参考資料等 『子どもの側に立つ教育—生活教育に根ざした主体的・対話的で深い学びの実現』（山住勝広編、北大路書房） 必要に応じて資料を提示する。		
学生に対する評価 50% レポート（年間計画、授業到達目標、授業計画、評価）の評価 30% 発表（姿勢、準備）の評価 20% 授業内発言内容や提出物の期限が守れているかなどから評価		

授業科目名	特別活動の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：単独	単位数： 1 単位	
担当教員名	川本和孝			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法			
授業のテーマ及び到達目標				
・ 特別活動という領域の特質を理解することができる ・ 特別活動の歴史的な課題と現状について理解することができる ・ 特別活動の目標と内容について理解することができる ・ 特別活動の授業計画案を作成することができる ・ 特別活動の評価について理解することができる				
授業の概要				
学校における様々な構成の集団活動を通して、全人的な発達を目的としている特別活動は、教育課程において他の領域には見ることのできない独自性を有している。本講義では、そうした特別活動独自の領域概念に対する理解を深めていくだけではなく、学級経営や生徒指導といった機能概念との関連性について学習し、自らの実践に生かしていけるようになる。また、指導の重点を定めて教育課程上の位置付けを明確にしていくと共に、創意工夫を発揮し、豊かな教育活動を進めるための指導計画の作成と内容の取扱いについても修得できる。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回 (50 分授業)	ガイダンス	本講義の概要、到達目標の解説 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連		
第 2 回 (50 分授業)	特別活動の目標と内容	特別活動の目標と内容及び教育的意義 特別活動における指導のあり方		
第 3 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅰ	学級活動・ホームルーム活動の目標と内容及び年間計画 学級目標の作り方		
第 4 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅱ	学級活動・ホームルーム（１）の内容と特質の理解 学級会の形式と流れの理解及び運営方法		
第 5 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅲ	学級会における計画委員会の指導 学級会における教師の指導過程		
第 6 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅳ	学級会の実践（合意形成に至るまでの方法） ※担当教員による見本（司会及び教師の役割）		
第 7 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅴ	学級会で決定した内容の実践 振り返りの方法に関して		
第 8 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅵ	学級会の様々な類型に関する理解 合意形成の方法と指導法に関して		
第 9 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅶ	学級活動・ホームルーム活動（２）の内容と特質の理解 学級活動・ホームルーム活動（２）の指導法と実践の方法		
第 10 回 (50 分授業)	学級活動・ホームルーム活動Ⅷ	学級活動・ホームルーム活動（３）の内容と特質の理解 学級活動・ホームルーム活動（３）の指導法と実践の方法		
第 11 回 (50 分授業)	クラブ活動 児童会・生徒会	クラブ活動の運営と年間計画及び指導法 児童会・生徒会の運営と年間計画及び指導法		
第 12 回 (50 分授業)	学校行事 特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	学校行事の特質の理解、学校行事における創意工夫と指導 特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携 学級活動・ホームルーム活動（１）の指導案の作成		
第 13 回 (50 分授業)	模擬授業	作成した指導案に基づいて 45 分間の模擬授業を 4 回（連続した違う内容）に分けて行う（1－2 回目）。 なお、全グループ（グループ数は履修人数による）中、4 グ		

		ループが行うことになるが、その選出は授業時に告知する。
第 14 回 (50 分授業)	模擬授業	作成した指導案に基づいて 45 分間の模擬授業を 4 回（連続した違う内容）に分けて行う（3－4 回目）。 なお、全グループ（グループ数は履修人数による）中、4 グループが行うことになるが、その選出は授業時に告知する。
第 15 回 (50 分授業)	実践と振り返り 特別活動における評価	模擬授業で決定した内容に基づいた実践と振り返り 特別活動における評価の視点・特別活動の課題と展望
定期試験	なし	
テキスト 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動 ①小学校学習指導要領解説 特別活動編 ②中学校学習指導要領解説 特別活動編 ③高等学校学習指導要領解説 特別活動編 ※ ①～③は取得教員免許状に応じて用意をすること		
参考書・参考資料等 授業時に随時紹介する。		
学生に対する評価 授業後の小レポート（毎時） 40% 指導案作成 20% 模擬授業 20% 最終レポート 20%		

授業科目名	教育方法・技術論	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 1 単位	
担当教員名	田畑 忍、谷 和樹、後藤 正矢			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術			
授業のテーマ及び到達目標				
・授業理論と指導方法について説明できる。 ・学習指導要領と資質・能力の育成について説明できる。 ・授業における話し方、発問と応答、指示、説明、板書、ノート指導、机間指導などができる。 ・学習評価の基本的な考え方について説明できる。 ・単元（題材）指導計画と単元（題材）評価計画の基本的な考え方、学習指導案の作成ができる。				
授業の概要				
学校生活の大部分を占める授業は児童・生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに新学習指導要領の趣旨を生かした指導と評価の一体化を目指す授業について理解を深める。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回 (50 分授業)	ガイダンス	・教育の方法と技術を学ぶことの意味 ・本講義の概要、目的と到達目標等の研究		
第 2 回 (50 分授業)	授業という世界	・授業とは何か ・教師の役割 ・学習指導要領と資質・能力の育成		
第 3 回 (50 分授業)	わかる授業の組み立て方	・「主体的・対話的で深い学び」 ・指導形態（一斉学習、個別学習、協働学習） ・授業改善につながるリフレクションの方法		
第 4 回 (50 分授業)	わかる授業の理論と指導方法（１）	・学習理論と学習指導法 ・教科書の内容構成		
第 5 回 (50 分授業)	わかる授業の理論と指導方法（２）	・教材研究とは何か ・教材開発と授業構想		
第 6 回 (50 分授業)	効果的な指導技術	・発問と応答、指示、説明、資料提示 ・目線、立ち位置、指名、机間指導の仕方		
第 7 回 (50 分授業)	板書とノート指導	・板書の機能と目的に応じた工夫 ・ノートの機能とノート指導の留意点		
第 8 回 (50 分授業)	授業と学級経営	・児童・生徒との望ましい人間関係の構築と授業 ・生活規律と学習規律 ・教室環境		
第 9 回 (50 分授業)	新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価	・指導と評価の一体化 ・学習評価の基本的な考え方 ・「観点別学習評価」の 3 観点の考え方		
第 10 回 (50 分授業)	評価規準と評価の具体例	・評価規準とは何か ・多様な評価方法と評価の見取り ・「観点別学習状況の評価」から「評定」への総括		
第 11 回 (50 分授業)	単元（題材）指導計画と単元（題材）評価計画	・単元（題材）とは何か ・単元（題材）指導計画の基本的な考え方 ・単元（題材）評価計画の基本的な考え方		

第 12 回 (50 分授業)	学習指導案の作成	・ 学習指導案の作成の手順 ・ 学習指導案の作成の留意点 ・ 学習指導案の作成
第 13 回 (50 分授業)	授業の実際（１）	・ 模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、観点別学習状況の評価など）を行う（１グループ目）
第 14 回 (50 分授業)	授業の実際（２）	・ 模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、観点別学習状況の評価など）を行う（２グループ目）
第 15 回 (50 分授業)	わかる授業を支える教師の条件 ―まとめにかえて―	・ 学習の方法と教師 ・ わかる授業の展開と教師の力量 ・ 授業研究の概念とその方法
定期試験		実施しない
テキスト 事前に講義用資料を配布する		
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する		
学生に対する評価 毎講時における質問や学習内容確認のための小テスト、ワークシート提出等 ３０％ 授業計画案ならびにレポート ４０％ 模擬授業 ３０％ によって評価を行う		

授業科目名	ICT 活用の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数：1 単位	
担当教員名	山田 徹志、田畑 忍、古性（江連） 淑子			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
授業のテーマ及び到達目標				
・児童生徒の ICT 活用能力（情報モラル含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける				
・ICT 活用の意義と理論を理解する				
・ICT の効果的な活用を通じた学習指導および校務の推進の在り方を理解する				
授業の概要				
急速な変化を伴う社会において、教員には「教育の質」の担保し、その機能を持続する為の情報通信技術（以下、ICT）活用が求められる。そのため ICT を適切に取り扱う為の基礎知識・技能の取得が要請される。これらより、本講義では、教育場面において ICT を活用する上での基本要件（技術の特性理解/情報モラル/活用方法等）を学修する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回 (50 分授業)	ガイダンス ICT の活用意義	・社会における ICT 活用意義の理解（情報モラル等含む） ・本講義の到達目標の確認		
第 2 回 (50 分授業)	ICT 活用事例にみる 教育的配慮	・ICT 活用事例を通じた教育的支援/配慮に関する学修 ※特別支援への活用，統合型校務支援等を含む		
第 3 回 (50 分授業)	ICT 活用と教育環境	・ICT 活用のための教育環境に関する基礎理解 ※ハードウェア，ソフトウェア活用例，通信環境等含む		
第 4 回 (50 分授業)	遠隔授業の意義と機能	・オンライン/ハイフレックス授業等の通信技術を用いた教育 ICT の意義・機能に関する基礎理解		
第 5 回 (50 分授業)	ICT 活用実践演習 1	・オンラインコミュニケーションツール等の活用を通じた同時 双方向型授業の実践		
第 6 回 (50 分授業)	デジタルコンテンツおよび IT 機器の活用と役割	・教育に利活用されるデジタルコンテンツおよび，IT 機器の 種別・機能に関する学修		
第 7 回 (50 分授業)	ICT 活用実践演習 2	・教育デジタルコンテンツおよび IT 機器等の設定，操作 ※プログラミング教材含む		
第 8 回 (50 分授業)	教育データの処理と活用	・スタディ・ログ等の教育データの種別および活用に関する 学修（セキュリティ含む）		
第 9 回 (50 分授業)	ICT 活用実践演習 3	・教育データに関する基本的な処理と分析 ※基礎的な集計/処理，データの可視化等		
第 10 回 (50 分授業)	対話・協働を支える ICT	・対話，協働に向けた ICT 活用方法に関する学修 ※先端技術活用（生成 AI ツール等），領域横断（STEAM 教育） の意義等含む		
第 11 回 (50 分授業)	ICT を用いた授業デザイン： グループ演習 1	・ICT を活用した授業の立案・指導計画の作成 ※ハード，ソフト等の活用技術の探求		
第 12 回 (50 分授業)	ICT を用いた授業デザイン： グループ演習 2	・ICT を活用した授業教材の作成 ※ハード，ソフト等の使用する技術の選定		
第 13 回 (50 分授業)	ICT を用いた授業デザイン： グループ演習 3	・授業提案に向けた ICT 環境の構築と動作の確認 （機器，ソフトウェア，通信環境等）		

第 14 回 (50 分授業)	ICT を活用した授業計画 案の発表 1	・各グループで立案した授業計画のプレゼンテーション ・学生，講師等による質疑応答，相互評価
第 15 回 (50 分授業)	ICT を活用した授業計画 案の発表 2 まとめ	・各グループで立案した授業計画のプレゼンテーション ・学生，講師等による質疑応答，相互評価 ・振り返りとまとめ
定期試験		実施しない。 他，毎授業課題，参加姿勢等より総合的に評価
テキスト 事前に講義用資料を配布する		
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する		
学生に対する評価 ・毎講時の学修内容確認小テスト、ワークシート等 20% ・ICT 活用に関する演習およびレポート 30% ・教育実践に向けた ICT 活用環境の構築と活用実践 30% ・質疑議論，協同作業 20%		

授業科目名	生徒・進路指導の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2単位	
担当教員名	工藤亘、増淵 則敏			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ・生徒指導提要が改訂されたことを踏まえたうえで、生徒指導の意義と原理について基本的な知識を理解することができる。生徒指導の実際について理解するとともに、指導方法を習得し、実際の場面での活用方法の計画を立てることができる。 ・進路指導・キャリア教育の意義と原理について基本的な知識を理解することができる。 ・進路指導・キャリア教育の実際についての知識を習得し、指導方法を学び、活用方法を考え、計画を立てることができる。 ・学校現場で起こっている問題を身近な問題としてとらえ、意見を交換することができる。				
授業の概要 学校教育はすべて児童生徒の健全な育成を図ることを目的に存在している。教師はあらゆる教育指導を通して児童生徒の健やかな成長に寄与すべく努力を続けなければならない。近年、児童生徒の問題行動にかかわる事件・事故がマスコミに取り上げられることが増えた。時代が移り、表面化する問題に変化が生じれば、対処の方法にも違いが出てくるが、児童生徒指導には不易な部分がある。不易部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校の教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、キャリア教育の視点に立った進路指導の在り方や具体的な方策、組織的・計画的な進め方について学ぶ。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	生徒指導の意義	・オリエンテーション「授業内容と進め方、学び方などを説明する」 ・生徒と向き合う教師としての基本的なスタンスを説明したうえで、生徒指導の意義について理解を深める。 ・生徒指導提要改訂のポイントについて理解を深める。		
第2回	生徒指導の原理と理念	・生徒が抱える成長過程の課題を概観するとともに学校教育における生徒指導の課題について理解する。そのうえで生徒指導の原理について理解する。 ・生徒指導・進路指導の基盤である児童・生徒理解の重要性を知り、生徒指導の理念についての理解を深める。		
第3回	生徒指導の基本的性格と実際	・生徒指導の意義や性格を理解するとともに全体指導と個別指導の必要性を理解する。そのうえで基本的生活習慣と生活指導、校内規律と生徒指導等の基礎事項を整理する。 ・事例や実際の指導場面を取り上げながら、児童・生徒との関係性を基盤とする生徒指導について理解する。		
第4回	教育課程と生徒指導	・カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程(教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動)と生徒指導との関係を知り、その意義や性格についての理解を深める。		
第5回	学校における生徒指導体制	・生徒指導の意義や性格について理解するとともに、基本的生活習慣と生活指導、生徒指導等の基礎事項を整理し、事例や実際の場面を取り上げ、生徒指導体制の在り方について学ぶ。 ・校則・懲罰・体罰等の生徒指導に関する法令の内容を理解する。		

第6回	生徒指導に生かす教育相談	・暴力やいじめ、自殺や少年犯罪、不登校など、生徒指導上の問題点を総合的に理解し、教師として向き合うためのスタンスを考察する。 ・具体的な相談場面の事例や指導場面を取り上げ、児童・生徒理解を深め、指導・支援の方法や教育相談体制を学ぶ。
第7回	問題行動の理解（いじめ、ネット犯罪）	・いじめやネットによるいじめ、子供の自殺問題、性、虐待、貧困について事例を中心に学び、児童・生徒理解を深め、指導・支援の方法や教育相談体制を学ぶ。
第8回	学級担任が行う生徒指導	・学級担任として行う児童・生徒理解や個別での生徒指導について学び、教師としての資質を磨く。 ・具体的な事例や指導場面を取り上げ、自己洞察を深め、自己変革の必要性和その方法について学ぶ。
第9回	生徒指導と特別活動	・児童・生徒の成長上の課題を踏まえ、特別活動と生徒指導・進路指導の関係を整理し、人格形成を積極的に支援していく学校教育の意義や具体的展開について理解を深める。
第10回	進路指導の歴史と位置づけ	・進路指導の歴史的な経緯や変遷および教育課程上の位置づけについて学ぶ。 ・児童生徒が抱える成長上の問題を踏まえ、進路指導の課題について理解する。
第11回	進路指導の意義と理念	・教育活動全体を通したうえで、教育課程における進路指導の意義と理念、原理を理解する。
第12回	キャリア教育の要、特別活動での取組み	・教育活動全体を通じたキャリア教育の意義と目的を理解し、組織的な指導体制の必要性を理解する。 ・特別活動の中核としたキャリア教育について理解を深める。
第13回	カウンセリングとしての進路指導とキャリア教育	・個別の進路指導やキャリア・カウンセリングの基礎的な考え方や実際方法について理解する。 ・キャリア形成支援の視点に立ち、キャリアパスポートの在り方や意義および具体例について学ぶ。
第14回	ガイダンスとしての進路指導とキャリア教育	・全体指導でのガイダンス機能を生かした進路指導とキャリア教育の意義について理解する。 ・青年期の自立遅滞やニート、中途退学や新入社員の早期離職の問題などを学び、勤労観・職業観について考える。
第15回	学校と地域で進めるキャリア教育	・職業体験の例を学び、キャリア教育の視点に立ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解する。 ・キャリア教育を実践するうえで、学校教育と地域との連携の必要性について学ぶ。
定期試験	記述式の試験を行う	
テキスト 生徒・進路指導の理論と方法第二版 工藤亘・藤平敦編著 玉川大学出版部 生徒指導提要 改訂 デジタル版 文部科学省		
参考書・参考資料等 最新 生徒指導・進路指導論 ―ガイダンスとキャリア教育の理論と実践― 生徒指導提要令和4年12月改訂 文部科学省 ジアース教育新社		
学生に対する評価 試験 60%（授業内容に即した記述式の試験を行う。）、授業における取り組み 40%（授業への積極的な参加や発表内容、授業進行に応じて行う課題（予習、意見、レポート）の内容等を基本に評価する。）		

授業科目名	教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目		(英語教育学科) (生産農学科) (情報通信工学科) (ソフトウェアサイエンス学科) (マネジメントサイエンス学科) (デザインサイエンス学科)
		担当形態：クラス分け・単独	単位数： 2単位	
担当教員名	原田眞理、金田一賢顕			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：学校における教育相談の意義と理論を理解し、教育相談の方法・展開の仕方を理解する。相談に必要な基礎知識を身に付ける。				
具体的到達目標は、以下の通りである。				
1）学校における教育相談の意義と課題及び教育相談を進める際に必要な基礎的知識（心理学の基礎的な知識を含む）を理解する				
2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎知識、児童生徒の不応答や問題行動の意味や発するサイン・シグナルの意味、カウンセリングマインドに基づく受容、傾聴、共感的理解等による姿勢や技法）を理解する。				
3）教育相談の展開の具体的な方法（児童生徒・保護者に対して職種や校務分掌に応じた目的を立て、その進め方の例示、教育相談に必要な校内体制を整備した組織的な取り組み、教育相談を行う際の発達段階や発達課題を理解した短期・長期目標の設定、支援計画の作成）を事例に基づき理解する。				
4）いじめ、不登校、学級崩壊、虐待、非行、性の問題等の教育上の諸課題に対して、児童生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。				
5）地域の医療・福祉・心理・警察等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。				
授業の概要				
本授業では、小学校・中学校・高等学校の学校現場における教育相談の意義と理論を理解し、教育相談の方法・展開の仕方を理解することを目指します。教育相談は児童生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸張や人格の成長を支援する教育活動です。その際、個々の発達状況、心理的特質や教育的課題を理解し、カウンセリングの知識に基づく支援が求められます。この授業では、1. 教育相談は、問題のあるなしにかかわらずすべての児童生徒を対象とするため、それぞれの発達段階や発達課題に応じた教育相談を展開するために必要な基礎知識を学ぶ。2. 教育現場で多く見られる児童生徒達の問題行動の根底にある意味や、発達上の障害の課題について理解する。諸課題が深刻化する前に予防的教育相談として児童生徒達が発するサイン・シグナルに気づき把握し、教育相談につなげる大切さを理解する。3. 教育相談を進める際の教師の姿勢であるカウンセリングマインドについて、受容、傾聴、共感的理解等による姿勢・技法を理解する。4. 非行・問題行動と言われる行動をとる児童生徒達に対して校内体制を整備した組織的な取り組みや適切な連携先の把握、発達段階を考慮した教育相談の進め方や目標の設定の仕方、支援計画の作成の仕方について事例を通して理解する。5. いじめ、不登校、学級崩壊、虐待、非行、性の問題等の教育相談上の諸課題に対して学校としての組織的取り組みの仕方を事例検討するとともに、必要に応じて学外の医療・福祉・心理・警察・民間機関等の専門機関との連携の在り方を考える、を習得します。				
授業計画	テーマ	内 容		
第 1 回	教育相談とは何か	教育相談の意義を理解し、その概要を理解する。具体的には、校内体制を整備した組織的な取り組みや連携先、諸課題を未然に防ぐべく予防的教育相談、教育相談の展開の仕方を知る。		
第 2 回	児童生徒理解―発達	教育相談を行う際に必要な児童生徒理解のための心身の発達を理解する。Erikson の心理社会的発達論における各段階の発達課題と、発達課題が達成されない時に起こる心理社会的危機を理解し、それらの知識を基に対応方法を理解する。		

第3回	児童生徒理解—サインの理解	日々の行動観察・個々の特性などから諸症状が本格化・深刻化する前に子どもが出すサイン・シグナルに気づき把握する。学校における様子・家庭の様子・本人の特性からサインの意味を理解し、教育相談につなぐ大切さを理解する。
第4回	児童生徒理解—心の表現	シグナル・サインのなかには、作文、作品、絵など言語以外で表現されているものがある。特に児童生徒達は発達段階として反抗的な態度を取ることも多く、素直に気持ちを言語化しない場合も多い。言語以外のシグナル・サインを理解する。
第5回	カウンセリングの理論	教育場面におけるカウンセリングの歴史を学び、教育相談を進める際の教師の姿勢であるカウンセリングマインドを理解する。カウンセリングマインドに基づく基本的なカウンセリング技法（受容、傾聴、共感的理解など）を理解する。
第6回	教育相談活動の在り方	児童生徒や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方、職種や校務分掌に基づく校内体制の整備など組織的な取組みを事例を通して知る。アセスメント（心理検査、行動観察、生態学的調査）に基づく、短期および長期の目標の立て方や支援計画の作成も理解する。
第7回	学校内の問題の理解と対応—いじめ（ネットいじめを含む）	いじめの定義の変遷、いじめの態様などいじめの特徴を理解する。いじめ防止対策推進法に基づき、いじめに対する教師の教育相談の仕方と、深刻ないじめの事例における学校内での対応方法、学外機関との連携、いじめを未然に防ぐ啓発的な教育相談などを学び、事例を通してそれらを検討する。
第8回	学校内の問題の理解と対応—不登校・学級崩壊	不登校の理解および教師の教育相談の仕方と、長期化した不登校事例の校内委員会による対応方法について検討する。学校復帰が困難なケースの学外連携のあり方（適応指導教室やフリースクール）を考える。事例を通して展開を理解する。
第9回	学校内の問題の理解と対応—虐待	虐待の定義や教師の教育相談の仕方について知るとともに、虐待が重篤なケースについて学外連携のあり方（児童相談所や鑑別所等）を考える。
第10回	学校内の問題の理解と対応—非行・問題行動	非行少年、触法少年の心理的背景や教師の教育相談の仕方について知るとともに、重篤な非行等については学外連携（警察、鑑別所、児童相談所等）を考え、事例を通して検討する。
第11回	児童生徒に起こりやすい諸課題—LGBTQ、インターネット関係	合理的配慮を含め「障害者差別解消法」や文部科学省通知「性同一性症に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」を踏まえLGBTQの心理的背景や対応を理解する。インターネット関係の問題が生じる背景や対応を理解する。
第12回	障害のある児童生徒および保護者の理解と対応	教員が知っておくべき障害・発達障害についておよびその保護者の心理についての知識を身に付ける。学校での配慮・支援体制についても理解する。グレーゾーンと言われる発達に偏りのある児童生徒の理解と支援についても学習する。
第13回	保護者との教育相談	保護者との教育相談を行う際の目標の立て方や進め方、特に発達に課題のある児童生徒の保護者との協力体制の構築、理不尽な要求をする保護者への組織的取組み等を理解する。
第14回	学内外の専門機関との連携のあり方	学内での連携・学外連携機関にはどのような機関があるか知るとともに、学内外の医療・福祉・警察・心理・民間機関等の専門機関との連携のあり方を理解する。
第15回	教員のメンタルヘルス	教育相談を展開するためには、その前提として教員のメンタルヘルスの安定が求められる。教員特有のストレスを把握し、対処方法を知る。
定期試験	教育相談についての理解度の確認	教育相談の意義・理論・方法・展開の仕方について、理解の到達度を確認する。
テキスト 原田真理編著「改訂第二版教育相談の理論と方法」 玉川大学出版部、2020年		

参考・参考資料等

文部科学省 生徒指導提要（改訂版）

学生に対する評価

定期試験(70%)、講義終了後提出する小レポート(20%)、講義中の討論への参加・発表(10%)を総合して評価を行います。

授業科目名：教職実践演習		単位数：2単位	教科担当教員名：山田 深雪、小谷 恵津子、尾関 はゆみ		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20 人 受講者 10 人を 1 グループとしてグループ討議や発表を行う					
教員の連携・協力体制 本学の教師教育リサーチセンターと連携し、元校長や現場経験のある講師の招聘も行う。 上記担当者と教師教育リサーチセンター教職サポートルーム所属の実務家教員によるティーム・ティーチング (TT) など、少人数グループでの活動を細かくサポートし、効果向上を図る。					
授業の到達目標及びテーマ ●教職課程の総括の場であることを認識した上で、これまでの内外における学習経験や記録等をもとに、自分自身の教員としての資質・能力を確認し課題を見つけることができる。 ●教員として必要な知識や技術などについて把握し、上記で確認した課題や考察内容と照らし合わせ、他者の意見を取り入れながら不足部分を補い、定着させることができる。 ●以下 4 点などを総合的に学修し、教職の適性を考えることができる。①教員の役割、責任など、②他教職員との協働、社会人としてのマナー、保護者への支援、地域との連携など、③児童生徒の心身の発達と個々人の理解、信頼関係の構築、学級担任としての実務など、④教科の指導、表現力、題材や教材研究、評価、学習指導案の理解など ●教育テーマを選定し、学校現場における課題の調査や情報収集等を行い、レポートとしてまとめておき、第 14 回目の授業で発表する。					
授業の概要 本授業は、教職課程における全学年を通しての「集大成」となるものであり、演習を通して総括及び自己分析を行っていくものである。 ●学生のこれまでの教育実習及び、教職課程科目、学外活動の経験等の履修履歴を把握し Web 上で入力できる「履修カルテ」により振り返り、各回のテーマに沿って授業では演習に臨む。 ●ICT を積極的に活用し、演習活動を中心に行い、講師からの講義（評価）を受け、理解を深め、将来教員を職業とする上で、自分自身の課題やこれからの教員の在り方について考察し、今後活かせるようにする。 ●本学の求める教師像（学習指導力、幼児・児童・生徒指導力、学級経営力、協働力などの教員としての資質・能力）を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。					
授業計画	テーマ		内 容		
第 1 回	オリエンテーション		これまで教職課程で学んできたことや教育実習の成果を踏まえ、評価表と自己の評価を振り返り、今後の課題について把握する。また、本授業で何をすべきか把握し、教育テーマを選定する。		
第 2 回	教科等の指導力 (学習指導力) (1)		学習指導要領の内容と学習指導案作成について小テストを行う。学習指導案は個人で作成する。		
第 3 回	教科等の指導力 (学習指導力) (2)		第 2 回で作成した学習指導案をもとに発表を行い、その後グループで意見交換を行なう。意見交換で出た内容をまとめておくことで、第 4 回で行う学習指導案の作成に役立てる。		
第 4 回	教科等の指導力 (学習指導力) (3)		第 3 回の授業で学修した内容を中心に学習指導案を作成する。丁寧に仕上げることを心掛けること。		
第 5 回	教科等の指導力 (学習指導力) (4)		ICT を活用した模擬授業を行う。生徒役でも積極的に参加し、他の人の模擬授業の成果と課題を記録しておくこと。(TT 可)		
第 6 回	教科等の指導力 (学習指導力) (5)		第 5 回同様、ICT を活用した模擬授業を行う。生徒役でも積極的に参加し、他の人の模擬授業の成果と課題を記録しておくこと。(TT 可)		
第 7 回	教科等の指導力 (学習指導力) (6)		第 5 回・6 回で行った ICT を活用した模擬授業の反省を含め自己の振り返りを行い、改善につなげる。また、授業実施に際して留意すべきこと、自己に不足しているものは何かを確認する。		
第 8 回	生徒理解と学級経営 (幼児・児童・生徒指導力、学級経営力) (1)		現場経験のある講師を招聘し、生徒指導や支援について講義を受ける。現場での事例を体験し、生徒指導や支援の在り方について、生徒理解を深めながら検討していく。		
第 9 回	生徒理解と学級経営 (幼児・児童・生徒指導力、学級経営力) (2)		第 8 回の内容を受け、どのように生徒指導、支援を行えば良いのかをグループで討議する。(TT 可)		
第 10 回	社会性や対人関係 (協働力) (1)		現場経験のある講師を招聘し、保護者への対応や援助について講義を受ける。		

		現場での事例を体験し、保護者への対応や援助の在り方について検討する。
第11回	社会性や対人関係（協働力）(2)	第10回の内容を受け、どのように保護者への対応、援助を行えば良いのかをグループで討議する。(IT可)
第12回	社会性や対人関係（協働力）(3)	新たな学校作りのためにできる「地域との連携」にはどのようなものが考えられるか、グループで討議し、発表を行う。他のグループから出された案も記録しておくこと。
第13回	教員としての使命感・責任感、教育的愛情	教職の意義、教員としての使命感・責任感・教育的愛情など、教員の役割についてグループで討議する。教職の意義、教員の役割（使命感、責任感、教育的愛情）について理解を深め、身に付ける。
第14回	総括1	第1回で選択したテーマに沿った調査や情報収集等のグループ発表を行う。発表後に、各グループの発表を振り返り、テーマを絞り込みながらグループ討議を行い、情報を共有する。
第15回	総括2	これまでに修得してきた教職課程の総仕上げとして、本学が目指す「教師像」がどの程度身に付けられたか、自己評価からのギャップを確認し、課題を見出し、これからどのように取り組んでいくのかをまとめる。 また、これからの教員に求められる資質・能力、即ち、 (i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情) (ii) 専門職としての高度な知識・技能・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む。)・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的な学びなどをデザインできる指導力)・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力 (iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)についても、同様に自己分析を行い、ギャップを確認し、課題を見出し、これからどのように取り組んでいくのかをまとめる。
定期試験等	実施する	
テキスト 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説		
参考書・参考資料等 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校（各教科）』国立教育政策研究所HP参照		
学生に対する評価 試験 (10%) レポート (20%) 授業における取り組み (30%) 課題等の取り組み (30%) ポートフォリオの作成 (10%)		

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。